

令和6年度

滋賀県平和祈念館企画展示等実施報告書



令和8年(2026年)3月
滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年 3 月に「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として開館し、その後、県民のみなさまのご支援により順調に活動をひろげ、すでに 14 年が経過しました。

当館の展示室は、基本展示と企画展示によって構成しておりますが、企画展示は開館以来、年間 2～3 回程度の展示替えを行い、令和 7 年度末までに計 38 回の企画展示を開催してきました。当館では企画展示図録の刊行を行っていないため、企画展示の内容を会期終了後に改めてご覧いただける刊行物としては、毎年刊行している年報で展示内容のごく一部を知っていただく程度にとどまっておりますが、令和 3 年度実施分以降については展示で使用したパネルやモノ資料の写真等を掲載した展示報告書を年度ごとに取りまとめて編集・発行する取組を行っております。今回刊行する『令和 6 年度企画展示等実施報告書』は、その 4 冊目であり、令和 6 年度に開催した第 35 回企画展示「戦場となった南洋の島々」、第 36 回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」の 2 つの企画展示、令和 6 年度地域交流室展示「戦傷病者の社会復帰」の内容を取りまとめたものです。

県民のみなさまが戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、理解を深めるために当報告書を役立てていただければ幸いです。

令和 8 年（2026 年）3 月

滋賀県平和祈念館

館長 朝倉敏夫

例 言

- 1 本書は、滋賀県平和祈念館が令和6年度に開催した第35回・第36回企画展示および地域交流室展示の内容を取りまとめた報告書である。
- 2 本書に掲載した企画展示の会期等は、下記のとおりである。
 - ・第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」
会期：令和6年6月29日～12月22日
 - ・第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」
会期：令和7年1月8日～6月22日
 - ・令和6年度地域交流室展示「戦傷病者の社会復帰」
会期：令和6年10月9日～令和7年2月9日
- 3 本書は、展示に際して使用したパネル等の内容に基づいているが、誤字・脱字などの修正を行ったほか、内容を一部省略したものがある。
- 4 各展示の開催および本書の作成にあたっては、多くの資料提供者と関係機関に御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

目 次

はじめに

例 言

第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」	1
第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」	47
令和6年度地域交流室展示「戦傷病者の社会復帰」	84

戦場となった南洋の島々

(会期：令和6年6月29日～12月22日)



パラオで行われた健康乳児審査会での記念撮影

ごあいさつ

大正3年(1914年)、第一次世界大戦においてドイツに対する宣戦布告を行った日本は、ドイツ領だった太平洋の島々を攻撃し、占領しました。大戦終了後、日本はドイツ領だった島々のうち赤道以北部分について、国際連盟から統治を委任されます。南洋群島と呼ばれたこれらの島々に多くの移民が送られた結果、サイパンなどでは先住民よりも日本人の方が多く暮らすようになりました。

南洋群島をはじめ、アメリカ合衆国領やオーストラリアの委任統治領であった南洋の島々は、昭和16年(1941年)からの太平洋戦争において戦場となり、多くの兵士と住民の命が失われました。

今回の企画展示では、南洋群島をはじめとする南洋の島々において、滋賀県民たちが体験した戦争に関する記憶を、滋賀県平和祈念館が長年にわたって収集してきた関係者の体験談や関連資料などで紹介します。

令和6年(2024年)6月29日

滋賀県平和祈念館

第1章 太平洋戦争開戦までの南洋群島



パナール写真：南洋神社前での記念撮影

太平洋の島々

太平洋には多くの島が存在します。今回の展示では、アジア地域に含まれる日本やフィリピン、インドネシアなどの国に属している島々を除いた範囲について、主に紹介しています。

マゼラン (1480~1521) やクック (1728~1779) などの探検家が、これらの島々を「発見」し、ヨーロッパに紹介しましたが、主な島々には以前から人間が住んでいました。これらの人々は、先住民と呼ばれます。

太平洋の島々は、ミクロネシア（「小さい島々」の意味）、メラネシア（「黒い島々」の意味）、ポリネシア（「多くの島々」の意味）の3つの地域に分類するのが一般的です。太平洋戦争当時、ミクロネシアの大部分は、日本が南洋庁という役所を置いて統治していました。日本が統治していた範囲を「南洋群島」あるいは「内南洋」と呼びます。現在の北マリアナ諸島（アメリカ合衆国領）、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦にあたる地域です。



南洋群島主要島図 『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会) から転載



大洋洲（オセアニア）の区画 『実業新撰地理 外国篇 修正版』(昭和15年(1940年)帝国書院発行) から転載

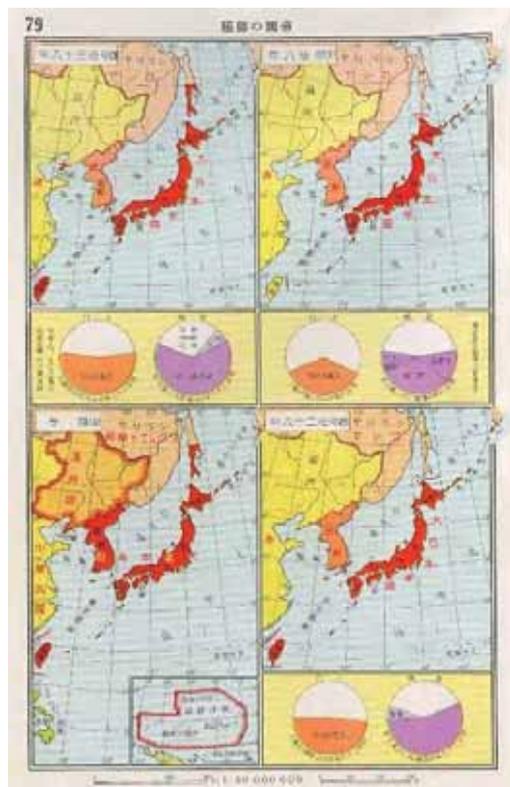
太平洋戦争開戦までの南洋群島

19世紀後半、ドイツが太平洋地域に進出し、スペイン領だった島々を買収するなどして、多くの島を領土にしました。

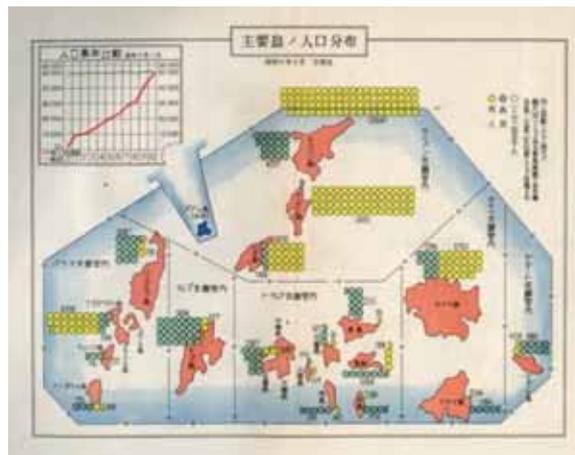
第一次世界大戦(1914~1918)が始まると、イギリスの同盟国だった日本はドイツに対して宣戦布告し、ドイツ領の島々を占領しました。大戦後に調印されたヴェルサイユ条約に基づき、ドイツが太平洋に領有していた島々のうち、日本が占領していた赤道以北の地域については、国際連盟から正式に統治を委任されました。なお、赤道以南のドイツ領は、ニューギニアをオーストラリアが、サモア諸島をニュージーランドが委任統治することになりました。

ちなみに、ミクロネシアで最大の島であるグアム島(面積は淡路島程度)は、アメリカがスペインと1898年に戦った米西戦争で勝利し、フィリピンなどとともにスペインから譲り受けていたため、引き続きアメリカ領でした。

日本は、パラオ諸島のコロール島に南洋庁という役所を置き、サイパン、ヤップ、トラック、ポナペ、ヤルートに支庁を置いて島々を統治しました。日本の統治領であるためパスポートなどが不要だったこともあり、多くの日本人が移民や出稼ぎとして、南洋群島で生活するようになりました。



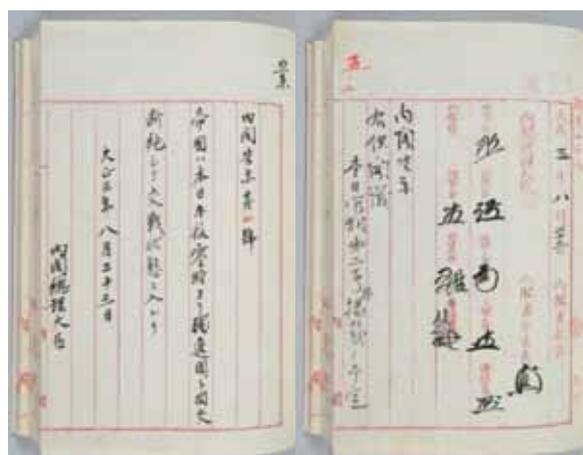
帝国の膨張 『新選 歴史精図 国史之部』(昭和13年(1938年) 帝国書院 訂正発行) から転載



主要島の人口分布 『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年) 南洋群島教育会) から転載

島名	昭和10年		昭和11年		昭和12年		昭和13年	
	人口	増減	人口	増減	人口	増減	人口	増減
パラオ	12,000	1,000	13,000	1,000	14,000	1,000	15,000	1,000
サイパン	5,000	500	5,500	500	6,000	500	6,500	500
ヤップ	3,000	300	3,300	300	3,600	300	3,900	300
トラック	2,000	200	2,200	200	2,400	200	2,600	200
ポナペ	1,000	100	1,100	100	1,200	100	1,300	100
ヤルート	800	80	880	80	960	80	1,040	80
その他	1,000	100	1,100	100	1,200	100	1,300	100
合計	25,000	2,500	27,500	2,750	30,000	2,500	32,500	2,500

南洋群島人口表 矢内原忠雄著『南洋群島の研究』(昭和10年(1935年) 岩波書店) から転載



第一次世界大戦でドイツに宣戦布告した際の間議書 国立公文書館デジタルアーカイブ「公文書にみる日本のあゆみ」から編集



パラオのコロール島に設置された南洋庁 『南洋群島写真帖』南洋庁・昭和7年(1932年) (国立国会図書館デジタルコレクションから転載)



パラオのコロール市街 『南洋群島写真帖』 南洋庁・昭和7年
(1932年) (国立国会図書館デジタルコレクションから転載)



『尋常小学国語読本』 卷九 (大正10年 (1921年) 発行)

大正時代から昭和初期に小学校で使われた国語の教科書には「トラック島便り」という話が掲載されていました。現在の皇陛下が、まだ皇太子だった昭和54年(1979年)にミクロネシアの子どもたちと面会された際、「小学校の教科書で「トラック島便り」を読んで、いつか南の島に行きたいと思うようになった」という趣旨の御言葉がありました。当時の日本の子どもたちの多くが、この教科書を読んで南の島への憧れを抱いたのでしょう。



トラック水曜島新教会附属幼年団

『南洋群島写真帖』 南洋庁・昭和7年(1932年) (国立国会図書館デジタルコレクションから転載)



『実業 新撰地理 外国篇修正版』 (昭和15年 (1940年) 発行)



平和記念東京博覧会の絵ハガキ (2枚)

第一次世界大戦終結後の平和を記念して、大正11年(1922年)3月~7月の期間、東京で博覧会が開催され、南洋館(写真下)というパビリオンもありました。



『冒険ダン吉』 (全4巻) (昭和51年 (1976年) の復刻版)

『冒険ダン吉』は、昭和8年(1933年)から「少年倶楽部」に連載されたマンガで、南の島に流れ着き、島の王様になったダン吉

少年の物語です。

ライオンやキリン、ダチョウが登場するなど、地域設定が不明ですが、島の人たちは名前も与えられずに1号、2号と番号で呼ばれるなど、同等の人間として扱われていない印象を受けます。

【体験談—母は16歳で単身、パラオに渡りました】

高橋 正則 さん（京都府）

昭和4年（1929年）、母は16歳のころに、先にパラオで写真家として生計を立てていた義理の叔父を頼って、佐賀県から単身パラオに渡りました。いわゆる出稼ぎです。今は飛行機で最短4時間ほどで直行できるパラオですが、当時は船旅で5日はかかったそうです。

当時は日本で働くよりパラオの出稼ぎの方が収入が多く、例えば大学出の初任給が国内では50円だったころ、パラオでは75円だったそうです。それだけ当時のパラオは活況で豊かだったということです。しかしいくら現地に親戚がいるとはいえ、16歳の少女が単身で遙か南方の島に出稼ぎに出るとは、それなりの覚悟を持っての事だったでしょう。

パラオでは病院で産婆さん（助産師）の手伝いとして働き、収入のうち少なからずの金を親元に仕送りしたそうで、その額は合計すると小さな家なら1軒建つほどだったと言っていました。

やがて年頃になった母は、叔父の紹介で滋賀県出身の男性と見合いをし、昭和9年（1934年）に結婚します。夫となった男性は農家の次男坊で母より先にパラオに出稼ぎに来て、昭和6年（1931年）に食料品を主に扱う商店を開業していました。一回りほども年が違ふ相手に最初は戸惑い、私には叔父さんに騙されたと言いつつも、笑っていたところを見ると、決して意に染まぬ相手ではなかったのでしょう。

パラオ人を数名雇いそれなりに繁盛していたそうで、母と結婚後にはコロールの繁華街の一角に小さいながら店を移しています。店ではかき氷も売っていたそうで、南国でかき氷など知らない現地人には珍しく、食べては頭が痛くなる様子を、母が面白そうに話していたのを記憶しています。当時はカツオの遠洋漁業が盛んでコロールにも基地があり、冷凍保存のための製氷工場があって、そこで氷を仕入れていたのでしょう。

結婚翌年には長男が生まれ、長女、次男、三男も生まれますが、長女と次男は生後1年足らずで病気で失いました。三男は健康優良乳児として第1回表彰を受け、その表彰状は経年劣化で黄ばんでいますが、今も三男の手元にあります。



パラオでもらった健康乳児の褒状

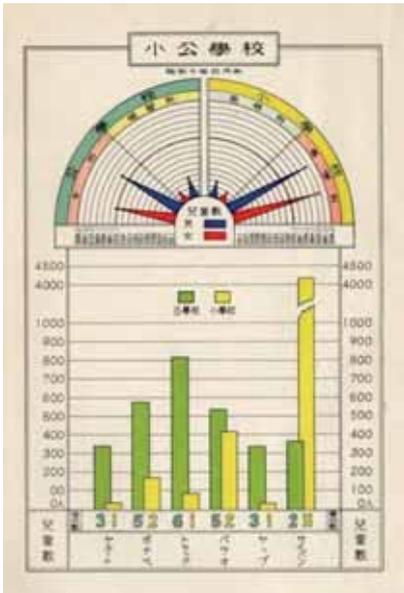


昭和6年にパラオで開業した当初の高橋商店



左：高橋さんのお母さんとパラオの人たち

右：高橋さんのお父さんが結婚後にコロールの繁華街に移転した店



小公学校の児童数 『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会) から転載

南洋群島には日本人を対象とする小学校と、先住民を対象とする公学校が設置されました。

公学校では、日本人教師による国語教育などが行われました。8歳で入学する本科は3年制の義務教育で、成績優秀な児童は補修科(2年制)へ進学しました。



サイパン公学校でのミシン実習 『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会) から転載

【体験談—徴兵検査のために帰国する旅費は国持ちなんや。】 西邑 紘 さん(長浜市)

西邑さんのお父さんである西邑仁平さんは、大郷村役場の兵事係に勤務され、出征する村民に関する事務を担当しておられました。

(兵事係の担当者が)旅費関係やら、なんもかんもせなあかん、1人で。(徴兵対象者には)当然外国に住んでいる人もありますし、おもしろいのがパラオ諸島。パラオに大郷村から出稼ぎにいられたんでしょね。ほしたら徴兵検査を受けんならん言うことで。要するにパラオからここ(大郷村)に帰さんならん。ほんで手紙を出す訳なんやけど。帰す者は国持ちなんや、旅費は。ですから計算がわからんわなあ、パラオ諸島からどういう風に帰ってきて、なんぼの汽車賃で。船賃で。わからへん。

ほんで滋賀県庁に手紙を書いとつきよう。県庁の会計課へ当時、手紙書いとつきよう。ほこに手紙書いて教えてくれと、パラオから兵隊が帰ってくるで、旅費を。ほしたら県庁も分らんなんだんやろね。ほんで、もう一遍、2回目に督促しとつきよう、会計課に。はよ教えてくれ、もう日が迫った。もう帰ってきてよ、銭やらなあかん。ほんで、結局どうやったか知らんけど、最後は

そこまでして帰らさんかてええがな。なあ執念深い。思わんか? 大郷村70人ぐらい検査を受けるんですけど、1人ぐらい誤魔化したらいいのに、金まで出してよ。



西邑 仁平氏旧蔵文書(一部)

西邑 紘さんの体験談のもとになる文書で、現在は長浜市浅井歴史民俗資料館に寄託されています。

残されている文書から分かる経過は以下のとおりです。

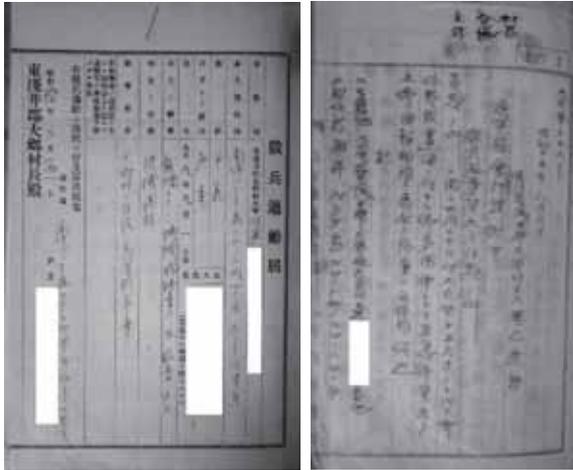
- ①パラオのコロール島で生活している方が、徴兵検査を受ける年齢になったので「徴兵適齢届」を提出されました。
- ②翌年、徴兵検査の受検にあたって、村役場から滋賀県庁に旅

費の算出方法を尋ねる文書が出されました。

③しかし、回答が無かったため、再度尋ねる文書を出しています。

その結果、旅費の計算がどうなったのかは不明です。

その後、この方は出征して戦死されました。



左上：徴兵適齢届 右上：徴兵旅費算出方依頼の件(再依頼)

下：徴兵旅費算出方依頼の件



旧南洋諸島全体図 『沖縄県史ビジュアル版9 旧南洋群島と沖縄県人』(平成14年(2002年)発行)から転載



大東亜共栄圏地図(昭和16年(1941年)発行)



敵機日本爆撃路仮想図(『大東亜共栄圏地図』(『家の光』創刊十五周年記念附録)の一部)

昭和16年1月発行の地図ですが、この時点から本土への空襲が想定されていたことが分かります。



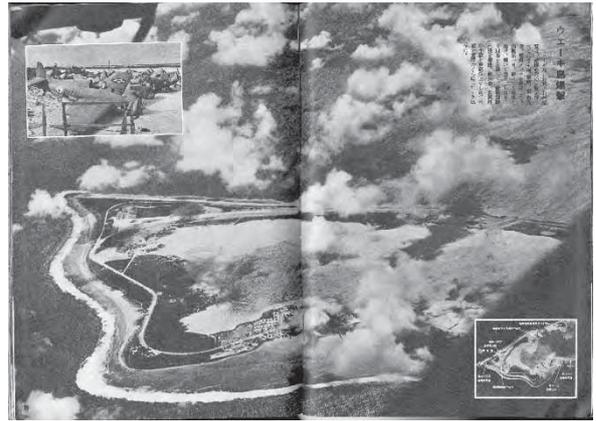
第2章 南方への進軍と転進

太平洋戦争開戦と南方への進軍

昭和12年(1937年)からの日中戦争が泥沼化した日本は、アメリカやイギリスが中国を援助するルートを断つて、東南アジアに勢力圏を確立する足場を築くため、南進政策を開始しました。国際連盟の委任統治領は、軍事基地化することが禁止されていましたが、昭和8年(1933年)に国際連盟に脱退通告を行った日本は、戦略的に重要な位置にある南洋群島に、飛行場などの軍事基地を築いていきました。

日本は昭和16年(1941年)12月にアメリカやイギリスとの開戦に踏み切り、ハワイの真珠湾を奇襲攻撃します。そして、同じくアメリカ領であるウエーキ島(ウエーク島)やグアム島などの島も攻撃して占領し、ウエーキ島を「大島」、グアム島を「大宮島」と改称しました。

日本軍は、ニューギニアやソロモン諸島など、さらに南方の島々へも進軍していきます。昭和17年(1942年)1月には、オーストラリアやイギリスと戦って、ビスマルク諸島最大の島であるニューブリテン島(面積九州と同じ程度)を占領し、ラバウルを軍事拠点としました。



「ハワイ空襲の壮観」



「ハワイ海戦 特殊潜航艇攻撃ノ魚雷命中沈没寸前ノ米軍艦」

当時は真珠湾攻撃のことをハワイ海戦と呼ぶのが一般的でした。



上：ウエーキ島(アメリカ領)の爆撃

中：グアム島(アメリカ領)占領

下：日本軍によるソロモン諸島爆撃(昭和17年2月)

いずれも『大東亜戦争 海軍作戦写真記録I』大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)から転載



左：陸軍の軍服（上・下）・戦闘帽・肩掛けカバン
 右：大東亜戦争（太平洋戦争）開戦詔書の掛軸



簡易テント、上陸作戦に使用した浮き袋

陸軍所属の中西一雄さんは、昭和18年（1943年）にニューブリテン島での戦闘に参加されました。浮き袋は、上陸作戦の際に発煙筒を立てるための道具だそうです。

【体験談ーラバウルは難攻不落で、敵も寄りつけないだでね。】 黒川 増吉 さん（甲賀市）
 満州に出征していた黒川さんは、南方のラバウルへの移動命令を受けました。

（昭和17年に）釜山で命令が下って、北方から来てますから冬服を着てますわな、「冬服を返納せよ」

言うて、半袖の服で帽子を支給されるし、「これはいよいよ南方行きやな」言うてたんです。釜山で三池丸ゆうて半客船でしたわ、そこへ糧秣、弾薬、私らが知らん内に積み込んだ一入なんですな。乗り込んで、釜山出て関門海峡を通過するんですわ。

ほして、佐伯港で停泊してね。大分県の人もようけおりましたがな、上陸さしてくれよらんのです。豊後水道を出て、どんどこ、どんどこと出てしまひよるし、もう島も何にも見えへんし。どこへ行きよるんやろ言うてたんですけど。あの頃、敵の潜水隊がウヨウヨしとるさかいに、真っ直ぐ進めませんにゃわ。ほんで蛇行して行くんですな。蛇行していくから相当掛かって、15日掛かりましたな。船に乗ってたら段々蒸し暑うなってきた、裸になるし。甲板に出たら南海の海は静かで、「どこへ連れてってらんやろな」言うてたら、「時計の時差を変えよ」言われてね。もう、赤道通過してますねん。

甲板に出たらね、満州と景色が全然違いますわ。満州はもう、一面枯れ野原ですやろう。真っ青な空と椰子があつて、えらいとこへ来たな言うて。上陸して、糧秣やら兵器やら大砲を陸揚げして上がりました。

その時のラバウルは、たいしたもんですよ。夜、敵がニューギニアのポートモレスビーから夜間空襲に来るんですわ。ラバウルは日本の第一戦の基地やで。ボーイングゆうやつが高度一万（メートル）ぐらいでね、ジャーと来る。ほと、サーチライトが陸からと海軍の船からとラバウル港にいっぱい停泊している船からパーとやりますやろ。ほと、飛行機をポンと捕まえるんですわ。ほうすると下からね、高射砲、高角砲、機関砲でウワーアアと、ちょうど花火ですわ。それぐらいラバウルには兵器があつた。寄せ付けよらんのだ。

そして、昭和18年の正月を迎えたんです。ラバウルには、海軍の船を修理するドックまでありました。海軍は船があるさかいにな、工作機械もね、揚げてしまひよる。旋盤からね、溶接機からそっくり。それで糧秣はドンとありましたし、兵器も弾薬もドンとありました。難攻不落で、敵も寄りつけないだでね。



黒川増吉さん関係資料

ヤシの実で自作したタバコ入れ、軍刀のさや入れ、戦地から送ったハガキ、事実証明書のコピー



黒川増吉さん関係資料

ニューブリテン島全図・ラバウル近傍図

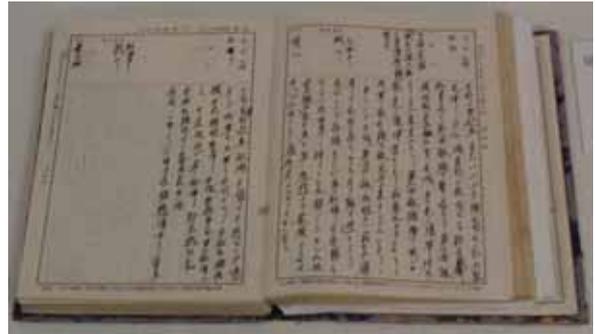


川副岩之助さん関係資料

昭和17年のダイアリー、海軍の履歴表、懐中時計（裏面に「賞 海軍大臣」の文字あり）、海軍軍帽



懐中時計裏面の「賞 海軍大臣」の文字



川副岩之助さんの昭和17年のダイアリー

海軍所属の川副岩之助さん（東近江市愛東地区出身）は、ミッドウエー海戦やソロモン海戦に参加したときのことをダイアリーに記録しておられます。

ミッドウエー海戦の日の記事

（昭和17年）6月5日 金曜

予記 本日三号機（飛行士操大嶽一ヒ曹偵）遂に帰艦せず
社会記事 航海中・戦闘

天気 晴

午前0時起床。直ちに一、二、四号機出発用意、兵装完備。索敵総員起し後、間もなく対空戦闘配置に付く。第一回敵機を撃退せり。第二回敵機、我航空母艦「加賀」「赤城」「蒼竜」に爆弾投下せり。右三隻炎上せり。第三回敵機残り唯一の「飛竜」に爆弾投下せり。「飛竜」又炎上せり。我軍飛行機も敵空母二隻を炎上したりとの事なれど不明。第四回敵、我艦上に飛来、爆弾を前後に投下せるも、危く難を避けたり。夜間となり、敵機来らず。第一配備にて待機す。本日は我海軍の誇りとし、又頼みとせし大航空母艦四隻を失い、其の悲想なる最後たるや、日本国民唯として感無量なるものあらんや。

第二次ソロモン海戦の日の記事

（昭和17年）8月24日 月曜

天気 晴

午前三時三十五分総員起床。配置に付き書戦に備、午前（新工作品）請求の査定を受く後、戦闘服装、戦闘用意間もなく対空戦闘、一、二回は遠く一機にて、間もなく撃退せり。三回戦闘に於て軍艦「竜嬢」爆撃を受く。我に被害なくも四回目爆撃に於て「竜嬢」遂に一弾命中し、火災を起せり。時、午後二時。第五回爆撃に本艦上空に飛来せるも被害なし。日没後、「竜嬢」の乗員を救出後、同艦は撃沈せり。

我部隊は、昨日より「竜嬢」、駆逐艦（二隻）と共に強襲の支援隊となり行動せり。我戦果、戦闘機撃墜十機以上、基地、及び附近攻撃せり。

【体験談一優秀なものだけがソロモン諸島へ行くねん。】 南田 覚 さん（守山市）
南田さんは、昭和17年（1942年）11月に零戦操縦者として南方へ行くことになりました。

優秀なものだけがソロモン諸島へ行く編成組やねん。いてもアカンもん、すぐ落とされるようなもんは、もう内地へ残っとれと。「おまいらは、ソロモン諸島へ行く」と。「そのつもりでおれ」って言われてビックリしたわい。もう激戦地いうことは知ってるがな。

（一番最初に行ったのは）サイパンまで。（ソロモン諸島までは）飛べない。燃料が無いねん。だから航空母艦に積みよるねん。ほて、もうこっから燃料あるちゅうとっから飛びよんねん。ほいでサイパンへ。それからトラックは飛ばますにや。ほでからラバウルも飛べるねん。それからブカ（島）にもおったんや。で、（ブーゲンビル島の）ブイン。ほで、バラレ（島）。ちっちゃい島。ほで、ガダルカナル（島）。ガダルカナルには7つの飛行場があったんや。

本隊は、明けて（昭和18年）3月にラバウルへ来たけれど、新人、われわれは一応、ソロモン諸島の空気を見て来いと、（先に）送りよるねん。ほいで飛んでますわな。まだ実戦には、参加するまでも至らん。やっぱり環境に慣れなアカンわな。

本隊は、明けて18年の3月に来よったわけや。ただし、体の悪い人は、もう残ってる。ほで、（結婚して）所持持たはった人も、もうアカン。もう所持持ってる人は、もう全然アカンにや。妻や子どもおったら、未

練が残ってな、アカンにや。もう独身ばかりや。

実戦は、ちょうど1年ぐらいやな。目的は護衛やけな。誰も勝手に行つて空中戦してくれつて言いよらへん。1ペンもあらへん。護衛やがな。制空権は、まだこっちにあった。ほんで、私らいた時分は、ガダルカナルまで無事に行けたんやけな。



ソロモン諸島 『大東亜戦争 海軍作戦写真記録I』（大本営海軍報道部・昭和17年（1942年））掲載図に加筆して作成

【体験談一私は1機も落とすことはない。そんな簡単に落とせるもんやない。】

南田 覚 さん（守山市）
零戦操縦者になった南田さんが、初めて空中で敵機と遭遇したのはガダルカナルでした。

ガダルカナルへ連れて行かれたんや。まあ見学、わしらは見学かたがたやと思ったけど、もうとにかく舞台慣れしてへんさけに、上がってしもうてね、自分がどういう行動起こしてええか分からんねん。気がついたら、向こうに5機ほど飛行機がおった。自分の（味方の）零戦やと思つて、はたまで行つたら（アメリカの）星のマークやねや。びっくりしたわい、逃げんのに。逃げなしょうがないわな。

大体ね、空中戦は10分以内。もうお互いに全力を集中すんにやけね。10分以上ね、空中戦でけへん。体力消耗して。ほんで燃料ものすごう食うねんわ。ほと、もう10分ぐらになつたら、お互いが、もう、ああ。もう言わんと、もう別れる。これが空中戦や。10分続かへんで。えらい（しんどい）で。

私は1機も落とすことない。手柄なしやねん。落とせへん。ただ、共同撃墜。1機を3機ほどでやりきつて、落とすことは4機ほどある。そんな簡単に落とせるもんやない。



左：飛行服

右：「飛行機発達図」

(高橋亮一さんが昭和11年(1936年)に書いたもの)

高橋亮一さんは昭和12年に志願して海軍飛行隊に入隊し、昭和16年12月8日の真珠湾攻撃の際に、自機が被弾して19歳の若さで戦死されました。



放送ニュース聴取用地図、ゴーグル(ケース付き)、

「ラバウル小唄」の歌詞

「ラバウル小唄」は、昭和15年に発売された「南洋航路」という曲を「さらばラバウルよ」という歌い出しに変えた戦時歌謡です。南方から撤退する兵士たちによって俗謡として歌われ、いくつかのパターン之歌詞がありました。

昭和20年にレコード化され、その後も多くの歌手によって歌われたため、「ラバウル」という地名をこの曲で知ったという方も多いかもしれません。



ニューブリテン島ラバウルでの戦闘(昭和17年1月頃)

『大東亜戦争 海軍作戦写真記録I』大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)から転載



パナール写真：ニューブリテン島ラバウルの基地にて



ニューブリテン島(パプアニューギニア)のラバウルに残る砲台跡

【体験談—水泳もしたことないもんが、船の上から海へよう飛び込ましませんやん。】

木村 ます さん(野洲市)

木村さんはラバウルから避難する病院船に乗りましたが、爆撃を受けて沈没させられてしまいます。

(昭和18年の3月から)11月まで(ラバウルに)いたんです。11月までいて、ほしてから戦況が悪くなってきてねえ。ほんで衛生隊は、もう危険やで引き揚げということになったんです。滋賀班と茨城班とが乗ったんですわ。病院船に乗ったんです、便乗したんですわ。

そしたら、そのあくる日に爆撃におうて、船は沈んだんです。乗った病院船が。朝8時過ぎぐらいに爆撃におうたんです。その時はまだ、ほこの島が見えてたんですわ。出て間がなかったで。ほんで、それが潮に流されたり、なんやかんやするもんやで、島やら見えんようになりましたけどねえ。ほんで一週間海に浮いたんです。

病院船は、ほれ1隻で航行してますんでねえ、船団やと護衛、(対潜水艦用の)駆潜艇か何かがあって、普通、船団がどんだけか付いてるけど、病院船やさかい1隻だけが航行してるんですわ。ほんで、爆撃におうて沈んでたって、わからへんのです。

私ら、水泳もしたことなかったんですわ。小さい時に水泳ちゅうもんなかったさかいに。船がねえ、見たらねえ、私らは船首にいたけども、船尾に当たってるんです。爆撃、爆弾が落ちてるんです。ほんで船が傾きかけてるんですわ。ほの落ちたところが、もう浸水してくるもんやで。私らが聞いた時には、もうすでに、こんなくらいになってたんですわ。

船員の人が「早よ一飛び込まんと渦巻に巻かれるで飛び込め」て言わはんにやけんどねえ。私らほんま今言うてるように、水泳もしたことないもんが、ほんな船の上から海へ、よう飛び込ましませんやん。ほいてほら、患者もまだいたで、患者出したり、なんやかんやせんならんで、それしてるうちにこう、段々段々沈んできたんです。

救命胴衣だけは、もろといたんです。そやけど、こんなくらいの救命胴衣で浮くのやろか、沈むのやろかと、ほんな思いましたわ。ほんなもん、したことないのやでわからへんし、とりあえずそれ着けて

出ていきましたん。ほんで出ていったけども、よう泳いで向こうへ行かへんのですわ。

そしたら兵隊さんがねえ、軍刀やらで、これにつかまれ、いうて引っ張ってくれはって、やっど渦巻の範囲の外まで出してもろて。そしてボートなんかねえ、爆撃やさかいに、爆風で飛んでるんですわ。ほて、まともなボートがあらへんのです。そやけど、それに患者が乗ってますでねえ。ほんで、みんながボートの横っちょに、なんや縄がこういうふうにしてますわ。そこへぶら下がっていたんです。

【体験談—赤十字マークのある病院船が、白屋堂々とやられるのやな。ああ、これが戦争やと思たね。】

木村 了三 さん(野洲市)

木村了三さんは、昭和18年(1943年)10月にニューギニアからラバウルへ移動されました。

その当時ラバウルはね、野戦病院が、日赤(日本赤十字社)の看護婦さんもおって。そして、晩は野外映画があるしね。ニューギニアでは、イモばっかりでした。毎日。ラバウルでは、まだ飯を食わしてくれした。18年の10月12日に、行って4日目ですわ。ラバウルのココボ南飛行場。ここで整備しとったら、空襲警報がないのに突然、バリバリバリーて、機銃掃射。機銃掃射と、ひょいと見たら落下傘爆弾。小さいパラシュートに着いた爆弾が、落ちるようにヤシの実の間から。「もう、あかん」と思たね。ほんで、バァーと伏せたんやけど。

「痛あ」と思たら、ばあーいと血が出と一。整備服から。右足大腿部。落下傘爆弾の、こんな破片が。ほんなに大きい爆弾違うさかいね。パラシュートでね。日本には、あんな爆弾なかったけど。

空襲が止んでから、負傷者収容トラックが来たさかいに。満員ですわ。それにやっどこさ、乗せてもろて。ほんでも、その当時レントゲンがあつてね。それ見るの、(野戦病院より)もう一つ上の兵站病院ちゅうんですわ。そこでレントゲンとと一。破片が、この辺にあるぞ言うて。そして、2か所切ってもろて。南方やさかい、化膿しやすさかい。ガーゼをここ通しよる。初めのうちは、膿だらけやさかいね。ところが治ってきたら、痛うてね。

そして、内地送還になる言われて、病院船で、11

月 26 日か。病院船のブエノスアイレス丸ちゅう、1 万トン級ですわ。船体真っ白で、赤十字マークがね、上からも横からも。こっちは安心しますわな。病院船やさかい。そして負傷兵ばっかしやさかい。明るる日、「おー飛行機が飛んどーるぞー」言うて。偵察しとるなーと。なーんや、バカーン。魚雷。そして船内放送で、「本船は魚雷が命中したので沈没するから、全員甲板へ上がって救命ボートに移れー」ゆう船内放送があつて。40 分ほど浮いとつたね。後方から沈んでいった。

横に赤十字マーク。上から見えるように、赤十字マーク。それが白昼堂々とやられるのやな。ああ、これが戦争やと思たね。うん。

※木村了三さんが乗っていたのは、木村ますさんと同じ病院船です。木村了三さんも一週間の漂流の後、救助されました。



病院船の歌



木村ますさんたちの漂流についての新聞記事

ガダルカナル島での激戦と転進

太平洋戦争初期は日本軍が有利に戦いを進めていきましたが、昭和 17 年 (1942 年) 6 月のミッドウェー海戦での敗北をきっかけに、しだいに日本側が不利な状況になっていきます。

ソロモン諸島で最大の島であるガダルカナル島 (面積は愛知県より少し広い程度) では、日本軍が飛行場の建設を進めていました。アメリカ軍は同年 8 月から上陸を開始し、翌昭和 18 年 (1943 年) 2 月に日本軍が撤退するまで激戦が続きました。周辺海域では数次の海戦も行われ、ソロモン海戦などの名称で呼ばれています。

戦闘で多くの艦船と航空機を失った日本軍は、食糧などの物資を安全に輸送することが難しくなっていました。ガダルカナル島は「餓島」とも呼ばれ、多くの餓死者が出ましたが、同じような状況はニューギニアなど、他の島々でも起きています。

ガダルカナル島からの撤退を発表する際、日本軍の大本営は撤退という言葉を避けて「転進」という新語を使用しました。



ガダルカナル島の野外博物館に展示されている零式艦上戦闘機の残骸



ガダルカナル島の野外博物館に展示されている日本軍の大砲



ガダルカナル島のホニアラ国際空港（日本軍が建設したルンガ飛行場跡）敷地内に残る日本軍の八八式七糎野戦高射砲



ガダルカナル島のホニアラ郊外に残る日本軍車両の残骸と慰霊碑



ガダルカナル島の上陸作戦にアメリカ軍が使った水陸両用装軌（キャタピラー）車

【体験談—水平線の向こうにある見えない船を撃つんです。】
Yさん（高島市）
Yさんは、昭和16年に徴兵検査を受け、海軍に入隊しました。

3年間、船に乗りっぱなしでした。そらあ港に寄ることもありますが、上陸してもすぐに船に戻ります。舞鶴（京都府）やらに帰ってくると休暇があるんです。

私の初陣はね、（昭和17年8月の）第2次ソロモン海戦

ですわ。（日露戦争のときの）日本海海戦やったら、船と船とが見えますがね、今はもちろんそうですが、その頃からね、見える船を撃つわけやないんです。水平線の向こうにある見えない船を撃つんです。空でもね、飛行機を撃つ場合でも、上に撃つじゃなくて、水平線の向こうの飛行機を撃つんだから、海面に水平に撃つんです。見えてきてからでは間にあわん。そういうんで、いろんな海戦やら、航空戦をやったけど、トンドンパチパチのああいいう日本海海戦のような事はやってない。ああいいうのはなかったですね。

敵の船を見たのは一回だけです。（昭和17年10月の）南太平洋海戦のときにね、戦争がすんで夕方になって「敵の船が燃えてるから砲塔から出よ」という命令が出て、外へ出たんです。ほと、向こうの方で真っ赤に燃えてるといよりは、赤い飴細工の軍艦が浮いてるといような感じですね。そんなんは見ましたけど。戦争中に敵の船を見たというのは、それだけですわ。

（恐怖心は）初めはなかったです。陸軍では陸の戦闘だから、そういうことはあるけど、海軍では船さえ丈夫で沈まなかったら命に危険はないですからね。もちろん、機銃掃射で集中攻撃されて防衛ラインを超えてやって来て、こっちの軍艦の上空まできたときには、もう対応できんわけです。

なまなましい戦の様子というのは、ソロモン海戦が終わって引き揚げて帰って来たときです。帰って来た飛行機が、自分の降りるべき航空母艦がね、沈められて、もう降りるところなくて、海に突っ込むんですわ。その飛行機を助けに行ったとき、戦争とはこんなもんかと思いましたけどね。

僕らの船が攻撃されたということは、ありませんでした。飛行機を積んでいく航空母艦が一番中心になるわけですよ。船団組んで敵機がきても、目的は航空母艦やから、僕らが乗ってるような周りの船は攻撃しないんです。母艦が沈むと、飛行機が100ぐらい沈められるというわけやから。

【体験談—マッカーサーが指揮した大部隊が上陸してきたんですわ。】
黒川 増吉 さん（甲賀市）
黒川さんは昭和19年（1944年）1月14日に、ニューブリテン島ナタモでの戦闘で足を負傷しました。

敵が上陸してきたんですわ。マッカーサーが指揮

した大部隊が。上陸するまでに海岸べりに、しらみつぶしに爆撃をしようんですわ。もう、海岸にいられないんです。ほんで、山の方へ入って、穴掘って隠れておったんです。敵が上がる時には、また山から出てきて、火炮やらを陣地に入れたんです。

ほん目の前に、向こうの岬に敵が上陸するんです。ほやけどね、こっちから撃てないんですわ。撃ったら、なんぼ返りが来るやしれん。こっちの弾薬は、そうようけありませんしね。ほんで敵を上げといて、日本のお得意の陸上戦でやろうちゅうので、上げるだけ上げさせたので、敵が三角山ちゅう山を占領してしまったんですわ。私らその三角山をとにかく攻撃しようという事でしたが、ところが、ここにいた部隊だけでは少ないんです。ラバウルに（援軍を）頼もうということでした。第8方面軍司令官の本拠地ですから、とにかく増兵を頼むという無線を打ったんです。

ほしたら、優秀な部隊がやっとここへ来てくれたもんやさかい、準備が整ったんで総攻撃をやったんです。日本の総攻撃ゆうのは、たいがい黎明（夜明け）を期してやるんですわ。朝方ですね。私らの砲やら歩兵砲やら高射砲で攻撃して、増兵の歩兵がダアーイと一番先に行ったんですけど、もう前線に全部地雷が埋めた一るんですわ。行くなりもう、血みどろになって後退してくるんです。そこで1個連隊が全滅したんです。ほて、総攻撃が失敗に終わってしもたんです。

総攻撃が失敗に終わってしもて、敵がどんどん押してきますし、山へ立てこもったんです。山のてっぺんに砲を据えて、下見たら、私らの陣地がね、取られてしもてるんですよ。もう、やけくそでね、残念でかなんでね、敵さんの戦車がウヨウヨおるしね。チューインガム噛んで、ウニャウニャしとるしね。

「こんなやつ」と思てね。私ね、砲にばんと跨ってね、ほいで照準付けてやったんですわ。機関砲で。ほしたら、敵の戦車やか付近におった兵隊も大分やっつけましたわ。そやけど暫くしたら、私らが撃ったもんやで、目標が分かったもんやで、そこへ集中して、バリバリと頭も上げられんくらい、集中して撃ちようんですわ。その時に私やられたんです。

【体験談ーボカーンと魚雷で機関部をやられたんや。】

北林 利男 さん(甲賀市)

北林利男さんが乗っていた巡洋艦「天龍」は、昭和17年12月に沈没してしまいます。

ラバウルから、陸軍の4千人から5千人が乗った一万トンの船を（ニューギニアまで）護衛して行ったんやわ。1日、2日ぐらい掛かったかな。うちが旗艦で、駆逐艦やらおって護衛が3隻ぐらいあったでな。

上陸したのは、無血上陸やつたらしいけどな。上陸させて、警戒してたんや、海上で。そこを敵の潜水艦が待ったんやな。ほんで、ボカーンと魚雷でやられて。機関部をやられたんや。直ぐには沈まへんだけどな。2時間ぐらいは浮いてたんやろな。

軍艦は区画があるでな。こんな大きな軍艦やでな、機関室はアカンけど、他は区切りがしてあるで、すぐには沈まへんけどな、機関室に大きな穴が開いてしもたから、やっぱり2時間も経ったらあかん。機関部やられたで、電気は消えるしな。ほんで、段々段々傾いてきたわ。じわじわ、じわじわ。そのうち艦長が、見込みないからみんな整列してな、軍艦旗下ろせ言うてな、余裕があったんやな。にわか沈まへんで。

機関部にいやはった人は、みな戦死やろ。30人ぐらい、いやはったかな、火傷しやはった人もあったしな。乗組員は250人から300人ぐらい、いたんやろな。ほらもう、船が沈むのしょうがないわな。

私らが戦争始まって間なしに来た頃は、敵の潜水艦は、ほないにおらへんだでな、よかったけど。あれから段々、(昭和)17年の暮れ、18年、19年と、もうようけ、どんどんやられたわな。航空母艦も、魚雷にやられたのもあるしよ。



北林利男さん関係資料

海軍軍帽・ベルト、身体歴、被服物品交付表、あっせん状



フィジー諸島（当時、イギリス領）に残る砲台跡

実際の日本軍の攻略作戦はフィジーまでは及びませんでした。

【体験談一食うもんが満足に食べられへんちゆうことほど、人間の心を恐ろしするもんはおません。】

伊藤 嘉兵衛 さん（高島市）

ニューギニアに着いたのは、(昭和) 18年の11月14日や。日本を出てから40日ほどかかりましたわ。ちよつと行っては島影に隠れて、またちよつと行っては隠れる。昼間動いたら（敵に見つかって）、一遍にボッカへんや。

私は輜重特務兵でな、荷物運びや。鉄砲持ったり、大砲撃ったり、そんなことはしまへん。爆撃は毎日というほどありました。小さい飛行機が海面スレスレに行つてなあ。山をビューンとあがって、バリバリ、バリバリと機関銃で撃ちよる。にわかに来よるんや。

時々なあ、日本の飛行機が飛んで行きよるのが見えるんや。日本の学生の飛行士が命令を受けて、上空を飛びよんねん。それで、わしらは旗を振つたるんや。ほと、それに応じてやな、上を3回まわって、向こうの方の軍艦にダァへんと体当たりしよんねん。なんとも可哀想でいられなんだで。

飯はなあ、船に積んで持って行つたんや。日本も用意がよかつたなあ、サツマイモを予備の補助食として持って行って、全部食べんと芽を植えて、増やしていく段取りでやりましたがな。ほしたら、だんだんだんと増えてきて、助かつたわ。じきに、コメみたいなもん、のうなつてもたし、サツマイモの葉と、パプアニューギニアの人に教えてもろたんやけど、木の幹にデンプン質の粉が取れる椰子の木があつて、その椰子を切つて皮をむいて、水をかけて叩いて、白い水みたいな汁が出てきたら、それ

を日に干して、ほと油揚げみたいな形になつて、それを切つて食べるんです。

ガダルカナル、ソロモンの海戦でボロ負けしてからは、そらあ、もう食べるもんが何ものうなつた。サツマイモの葉と椰子の油揚げ。畑にネズミ捕りやらをこしらえてな、ネズミやらを食べたり、へびが出よつたぐらいなら、もう取り合いや。

まあ、食うもんが満足に食べられへんちゆうことほど、人間の心を恐ろしするもんはおません。寝てるやつを食つたという噂もありましたで。おちおち寝てもおられへん。

栄養失調になつて、腹ばつかり大きになつて、ほんで、マラリアの熱に冒されてバタバタバタバ仲間が死んでいく。私もマラリアにかかつて、息がちよつと止まりましてな。たまたま、新旭（現在の高島市）出身の知り合いの人が衛生の係で、その人が親切に面倒みてくれはつたんで、息吹き返した。

【体験談一もう戦闘能力はありません。ただ、隠れてまわっていました。】

Mさん（大津市）

Mさんは3回目の召集で、昭和18年（1943年）にニューギニアへ派遣されました。

(昭和19年) 5月21・22・23日の3日間の戦闘で、300名いた中隊がいつぺんに90名になりました。1,000メートル先に軍艦が3艘来て、白い煙が上がつたかと思うと、バツバへんと撃つてきた。これが、最初で最後の戦闘やった。その後は、もう食べるもんがなくて、戦病死で次々と戦友が死んいった。

もう、ニューギニアに着いたときから食べるもんには苦労しました。糧秣はわずかで、すぐになくなつて、野戦食いうて、現地の人のもんを盗りにいくんです。もう、調理する道具もない。あるのは、鉄砲と短剣だけ。もう戦闘能力はありません。ただ、隠れてまわっていました。

ジャングルで隠れてるときは、もうこのまま死ぬのかと思ひました。椰子の木の葉で屋根を葺いて、椰子の木を敷いた床にゴザを敷いて、寝てるだけ。もう、隠れて命を長らえてたというだけ。家族のこともあんまり思ひませんでした。次から次から死んで行きますからなあ。もう毎日が、どないして生活したらよいか。野戦食も、現地人はアメリカ軍から

鉄砲をわたされてるから、近づかれへんし。よう泳ぐもんは、川へ行行って貝をとる。よう泳がんもんは、丘でサツマイモを作る。サツマイモの根のところにネズミの子どもが、ぎょうさんいるんです。それをとってきて、水炊きにして食べた。たまにへびが出てきよる。それを叩き殺して、焼いて食べましたなあ。人間の肉は食べませんでした、それ以外は何でも食べました。

軍隊も戦友もありません。隠れ家には最初 18 名おりましたが、もう「我がだけが生きれたらええ」と思いましたなあ。食べるもんは取り合いです。僕は牛缶を持って、それは命から 2 番目でしてん。その缶詰を盗られたんです。盗った奴は 2 人やったから、2 対 1 や。負けるがな。「もし、生きて帰ったら、敵とつたろ」と心に決めて、あきらめた。

もう、達者なもんが強いんです。達者なもんが上ですわ。もう、弱かったら、泣いてなあかん。病気になって動けんようになったら、ほったらかしや。横で達者なもんが食べてても、誰もやらへん。それはもう酷いもんです。



塚本繁一さん関係資料 軍服 (上・下)



塚本繁一さん関係資料 サスペンダー、軍隊手帳、襟カラー (2点)、写真、死亡通報

塚本繁一さんは、ニューギニアのニューブリテン島の西側にあるダンピール海峡で、昭和 18 年 3 月に戦死されました。

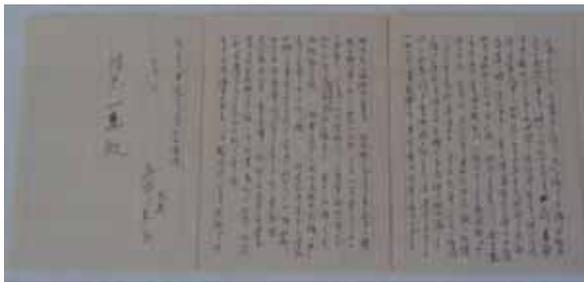
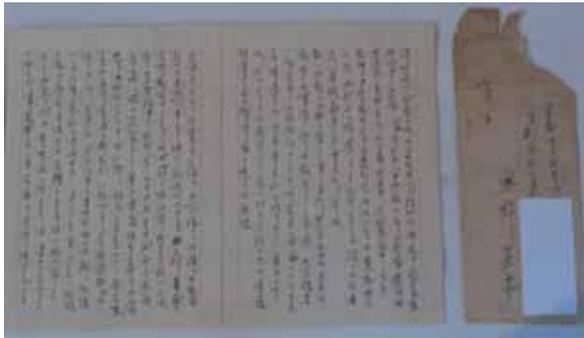
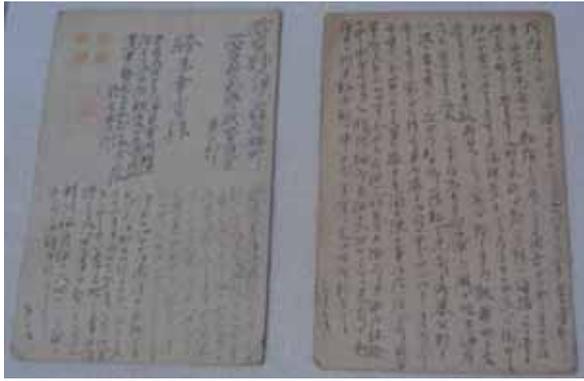


写真 (塚本繁一さんは後列左から 2 人目)



出征幟 (2点)

勝見益治郎さんへの出征幟は、太平洋戦争開戦以前の日中戦争当時に贈られたものです。



上：勝見益治郎さんからのハガキ（2通）

中・下：勝見益治郎さんの戦病死の様子を伝える手紙

勝見益治郎さんは、ニューギニアで昭和20年1月に戦病死されました。弟の幸市さんに出したハガキには、「熱帯地」「バナナ」などの南方らしい文言が見られます。



中村甚平さん（左写真）が南方へ移動する際に、妻わきさんに送った手紙

中村甚平さん（東近江市出身）は、昭和17年に満州方面に出征したのち南方へ移動することになり、昭和19年7月25日に西部ニューギニアのサルミ方面で戦死されました。出征の際、娘の久子さんは、まだ2歳でした。遺骨が戻ってきた当時、遺骨箱を持つ兄の姿や、仏壇に供えられた遺骨箱を何度も拝んでいた母わきさんの姿を久子さんは覚えているそうです。



第3章 戦場となった南洋群島

アメリカ軍に占領された南洋群島

昭和18年（1943年）頃から本格的に攻勢に転じたアメリカなどの連合軍は、南洋の島々を次々に攻略していきます。日本は昭和18年9月30日に、戦争を継続していくために絶対確保すべき領土・地点を定めて防衛を命じる絶対国防圏を設定しますが、制空権・制海権を失っていった日本にとって、その範囲を防衛することは不可能でした。

昭和19年1月からは南洋群島の東端に位置するマーシャル諸島にアメリカ軍が上陸します。2月にはトラック島やマリアナ諸島の島々に大空襲を行って、日本の航空部隊などに大きな損害を与えました。

昭和19年7月には南洋群島の重要な軍事基地であるサイパン島の守備隊が「玉砕」し、アメリカ軍に占領されました。8月には隣に位置するテニアン島も占領され、これらの島々はアメリカ軍の爆撃機が日本に空襲を行うための基地となりました。広島と長崎への原爆投下も、テニアン島から飛び立った爆撃機によるものです。

【体験談—近くの島から玉砕の通信が入ってきました。】 佐藤 保 さん (大津市)

(昭和) 18年の10月初めから爆撃が始まりました。で、結局、食料から衣類品全部やられちゃって。18年の11月24日はタラワ島(※現在のキリバス共和国のタラワ環礁。佐藤さんがいたミレー島の南方に位置する。11月21日にアメリカ軍が上陸し、日本軍の戦死者約4,500人とされる。)が玉砕してるんです。それでもって18年の11月25日、マキン島(※現在のギルバート諸島のブタリタリ環礁。タラワ環礁の北に位置する。)が玉砕してるんです。

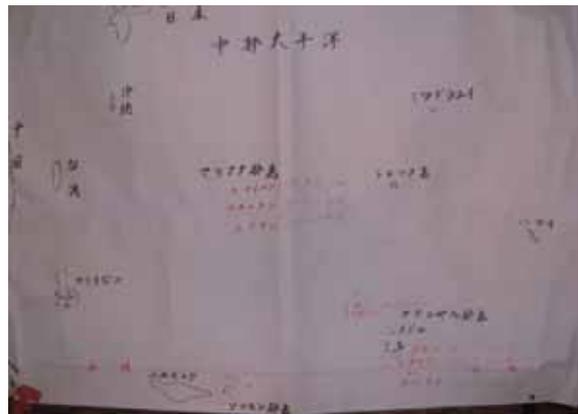
私達がいた横にね、通信隊がいたんです。それで近いから、しょっちゅう行ってたわけです。通信隊のどこへ。(通信隊には)タラワが玉砕したときの情報がドンドン、ドンドン入ってくるんです。ある程度溜まると他の兵隊に渡して、その兵隊は本部の司令官の所に持って行くんですわ。それを司令部より先に見ちゃおう、と言って見てたんですが、とにかくいくらでもアメリカの兵隊が上がって来でしょ、次から次ぎへと。それで、こっちは兵隊がみんな突っ込んで行くでしょ。

タラワが玉砕したときですがね、通信やらに書くわけです。「ナニナニ隊が突撃した、ナニナニ隊が突撃した」と、だんだん突撃して行くわけなんです。それで、突っ込んで行って、みんな死にまじまじわね。それで、生き残るのは通信兵と、それから看護兵、それは最後まで残って「いよいよ最後です。私達も突撃します」と通信が切れたんですがね。それで、みんな突っ込んで行ったんです。

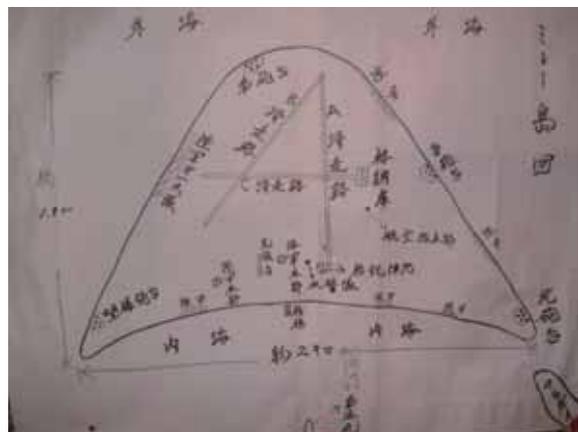
けどね、玉砕したところでも生き残る人が何人かいる。なんで生きてるかという、とにかくケガをして気絶したり、それでもう死ぬわけに行かなくて、向こうで助けられて。そういうのが生きて帰ってきたんです。



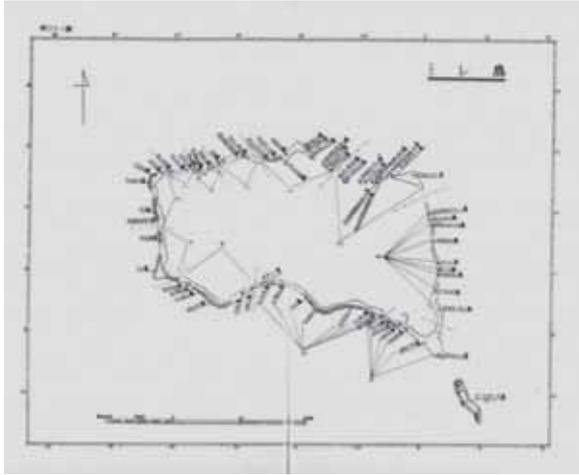
ミレー島周辺の地図 『南洋群島勢調査書』(南洋庁、昭和12年(1937年)発行)の附図を改変



佐藤保さんが描いた中部太平洋の地図



佐藤保さんが描いたミレー島の地図



ミレ島 『南洋群島島勢調査書』(南洋庁、昭和12年(1937年)発行) 附図から転載

玉砕

日本軍は、昭和18年(1943年)5月29日にアリューシャン列島のアッツ島で守備隊が全滅したときから、「玉砕」という言葉を大本営発表で使用するようになります。「玉のように美しく砕け散る」という表現を使って、「全滅」という現実を美しく印象づけようとしたものです。

南洋の島々でも「日本万歳」と叫んで敵陣に突っ込む「バンザイ突撃」などで玉砕した島がある一方で、パラオのペリリュー島のように粘り強いゲリラ戦で長期間抵抗した島もありました。



『戦陣訓読本』(昭和16年(1941年)発行)、
軍隊手帳(戦陣訓が書かれたページ)、
絵ハガキ「アッツ島玉砕」(画:藤田嗣治)
昭和16年1月に陸軍大臣だった東條英機が示達した訓令が

「戦陣訓」です。「生きて虜囚の辱めを受けず」という一節が有名で、日本兵たちに自決や玉砕を促す規範とされました。

【体験談—栄養失調で死ぬ人の方が多かったです。】

佐藤 保 さん(大津市)

戦争末期、マーシャル諸島で食糧不足に苦しんだ佐藤さんの体験談です。

もう(昭和)19年(1944年)のね、2月、3月頃からだから(終戦まで)約1年半ね。もう魚も食べ尽くして捕れなくなってね、ネズミとかね。それと、カボチャを一生懸命作ってね。

もう19年になると、爆撃で死ぬより、栄養失調で死ぬ人の方が多かったですね。戦争で死んだというのは3割ぐらいですが、爆撃やら、機銃掃射やら。でも餓死は半分ぐらいいましたね。

最初はね、アメーバ赤痢で死んだ人がいる。それはね、まだ爆撃の始まる前だったから、ちゃんと火葬したんです。一人だけ。彼は陸軍でね。骨も持って帰ってきた。

俺たちが居た傍に陸軍の中隊があって、260人ぐらいの1個中隊ね、それが残ったのが6人だけなんです。それで、その人たちが戦争を終わって帰る途中に、何してるかという、これぐらいのライターの缶があるんですよ。その缶に死んだ人の骨を拾って、「はい、なにになに軍曹、はい、なにになに上等兵、こいつは浮かべれるぞ」と言ってね。

俺ら水警隊(海軍の水上警備隊)のときはね、半分ぐらいになったのかなあ。始め50人ぐらいいたのが、25人ぐらいになったのかなあ。陸軍よりもずっと良かったね。結局、食べる物もなんとか自分たちで作ったり、ネズミを食べたりね。それと、親が丈夫に産んでくれてたりね。

結局、食べるものを、とにかくなんか食べなきゃあしょうがないというので、草を取って食べたりね。それで、キクナみたいな、ウサギの耳みたいな葉っぱがあるんですよ。そんなのを食べたりね。もう身体は骸骨みたいになって、毎日が食べることで精一杯でした。

もう(昭和)20年になったらね、敵機が来ても撃つ体力もなかったんで、撃たなかったですよ。弾もね、最後に敵が上がってきたら撃つようにね、残し

てただけで。でも、(結局アメリカ軍は上陸)しなかったです。

【体験談—トラック島大空襲で、浮いとる船はみな沈められた。】

Kさん(長浜市)

駆逐艦「秋風」に乗っていたKさんは、聴音機などで水中にいる敵の潜水艦の音を探る「水測兵」という役割でした。

駆逐艦の役目は、船団護衛を主とする。兵隊さんを商船に乗せて、例えばフィリピンに上陸させようとするやろ。その間に、敵の潜水艦にやられんように、駆逐艦が護衛していくわけや。

交代でな。だいたい3時間ごとかな。A班・B班で分けてな、3時間経ったら交代。「秋風」には、わしが班の長で、あと7人ぐらいおった、少年水測兵ゆうのが。

ほんで、ラバウルとかトラックに着いたら、そこは基地やから他の部隊が護衛しとんねん。ほんで、聴音機で聴くゆうのは、船団を護衛しとる時だけや。基地は基地で護衛しとる。で、基地に着いたら、上陸はできる。まあ、南方の方へ行くのに、だいたい半月はかかるかな。

(昭和)19年の2月17日がトラック島大空襲や。秋風はドック内で修理中やったから、ただ1隻生き残る。爆撃を受けて、修理するために、ドックの中に入ってたんや。その時にトラック空襲があつて、ドックの中で戦いや。ほんで、他の浮いとる船は、みな沈められた。

(自分はその時は)銃隊員や。歩兵銃、三八銃(明治38年(1905年)に採用された旧式銃)。小銃や。陸戦とおんなじや。三八銃なんか、アホみたいなもんやで。「パーン、パーン」てなもんや。機銃やったら「タッタタッタ」てゆうやろ。そんなもん、「パーン、パーン」て花火上げてるようなもんや。

ずーっと敵機が突っ込んでくるのやさかい、銃持ってんねんから、撃たんわけにいかんわい。撃つたって届かへん。ビューって上がりよるし。で、敵機は下りてきては、爆弾落として逃げよるし。下りてきたとこ、目がけて撃つねやけど、そんなもん当たらへん。海軍の兵隊さんは、小銃持たしたって、あかせん。よう、撃たせんもん。

(自分は)その後な、19年の7月に(秋風を)下りた。で、その後、秋風は11月に南シナ海で、船団護衛中に、アメリカの潜水艦に雷撃を受けて沈没するねん。運命の分かれ道やな。紙一重やった。助かったんや。

【体験談—トラック島が木っ端微塵になりました。】

Yさん(甲賀市)

Yさんは昭和12年(1937年)の呉海兵団入団から終戦まで、海軍機関兵として従軍されました。

(昭和)19年の2月にね、えらい爆撃食らたんですよ。トラック島が木っ端微塵になりました。

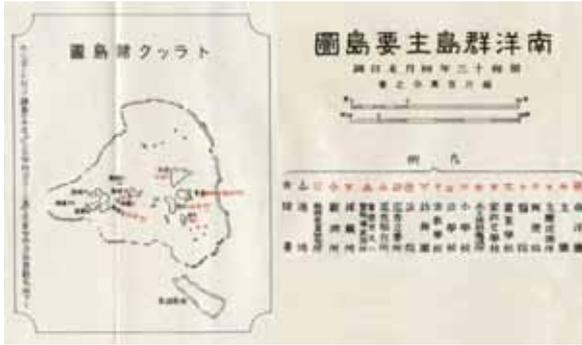
9日の朝に入港しました。私たちは1/3だけの人を残しといて、2/3は休養に上陸した。基地隊へ上がって、基地隊でとにかくごちそうしてもらって、風呂入って。(艇内には)風呂がないからね。3ヶ月ぶりに風呂入って、洗濯して。その晩泊まって。

朝5時時分になったら、サイレンが鳴りよる。石油缶をぎゃん、ぎゃん、ぎゃん、ぎゃん叩いて歩きよる。「空襲や。」言いよる。歯磨いとして、上見たら、もう、飛行機が20機ぐらい、ずーと飛んでました。高いとこを。「えー、空襲。」よもやと思てました。「潜水艦の兵隊は早う帰れ。」言うて。

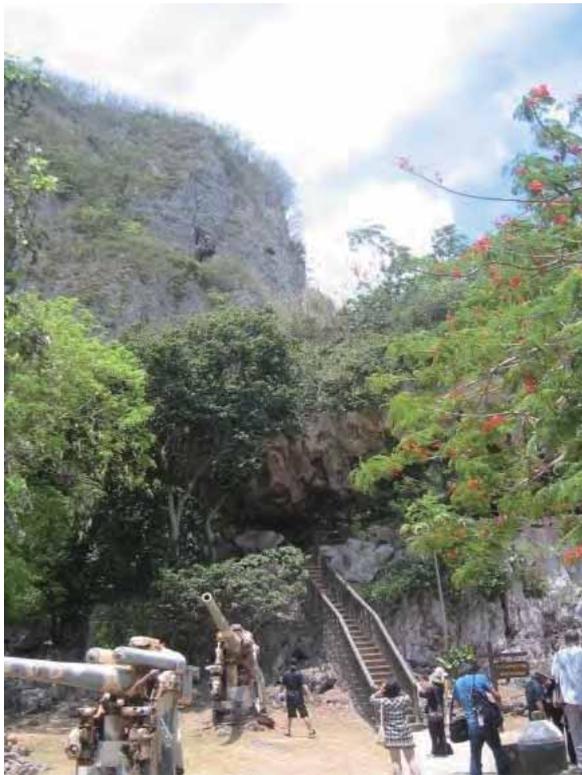
もう、船に乗り込む時に、椰子の木がたくさんある。その直ぐ上から、戦闘機が1機ぐあーと来ましたからね。イの10号ゆうのが、呉の3,000トン級の船ですわ。それを目当てに、機関銃でだあだあだあだあ一撃ってきよったけど、1発も当たらんのだと聞きましたな。うちの船の上も通り過ぎよったけど、1発も当たらんのだ。

潜水艦の工作艦(浦上丸)の護衛の砲兵が大砲撃ちよって、ばあーんと当たって、墜落したそうです。

※トラック島への大空襲は2月17日・18日なので、証言の中の日付には記憶違いがあるかも知れません。



トラック諸島図 『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)
南洋群島教育会)掲載図を改変



パナール写真:

サイパン島のLast Command Post (最後の司令部跡)

【体験談—父は「サイパンは玉砕でけへんとこや」と言って出発していきました。】

駒井 文子 さん (高島市)

父、駒井宇之助 (明治37年(1904年)4月4日生まれ)は、日本が宣戦を布告する昭和16年(1941年)12月8日に間に合わせるかのように、その年の10月に召集令状が来て、舞鶴海兵団に入隊し、11月にはサイパンに出港しました。その時、父は数えて38才になっていましたが、現役で3年間海軍にいたため、召集されたのだと思います。

開戦前だったからでしょうか、秘密召集ということで、父は歓呼の声に送られることもなく、ひっそりと村を後にしました。父に召集令状が来たのは、私が小学校1年生のときでした。

(昭和19年4月に2度目の出兵が決まったとき) 私が「サイパン玉砕したらかなんなあ」と言うと、お父さんは「輸送船でサイパンに行くさけいに、途中でやられたらどうしようもないけど、上陸できたら大丈夫や。サイパンは玉砕でけへんとこや。サイパンを玉砕さしたら、内地が危ないさけいに、サイパンは絶対玉砕せえへん」と言って、明るく日サイパンに出発していきました。

【体験談—もうお父さんは覚悟してはったんやろねえ。】

駒井 まき さん (高島市)

父親の召集を一番悲しがったのは、この子(娘の文子)です。最後の晩ご飯を一緒に食べたとき、もう泣いて、泣いて。お父さんも、(昭和16年(1941年))10月13日にある文子の運動会を楽しみにしてたのに、観れずに出発するのが残念そうでした。

お父さんが行ってしまった後は、私と娘2人の女だけの3人家族になったので、寂しくて、空き家みたいな生活でした。毎晩、世界地図を広げて新聞の記事と照らし合わせては、「今頃、この辺にいるのかなあ」と地図を見ていました。その頃は、手紙では居る場所が書けませんので、わからしません。頼りは新聞だけでした。後でわかったんですが、昭和16年の開戦の時には、すでにサイパンに居たそうです。

(昭和18年10月、サイパンから舞鶴に帰ってきたお父さんは、3泊4日の休暇をもらって家に帰ってきました。その際に)お父さんが、家を出て行きしなにね、この子は8才でしたが「師範学校に入れてやってくれ」言うて、出ていかはりました。ほんで、お父さんが出ていかはってから、ふっと見ると火鉢の横に、お父さんの抜けた歯が紙に包んで置いてありました。もうお父さんは覚悟してはったんやろねえ。

最後の手紙は(昭和19年)4月末に来ました。「無事10日前に(サイパンに)上陸したさけいに……。もうすぐ春祭りやさけに子ども達も喜んでいと思う」。それで終い。ほんで7月8日に玉砕でした。そ

の日は暑い日で、草取りの最中で、夕方家に帰ったら、この人(文子)が、「今日、馬場であそんでたら、みんながサイパン玉砕したって言うてる。」言うて泣いてるんです。それを聞いて、私はドンと腰を下ろして、もう立たれませんでした。



駒井宇之助さんの葬儀での滋賀県知事の弔辞



上段：駒井宇之助さんの葬儀での児童総代の弔辞

下段：駒井宇之助さんから娘の文子さんへの手紙(2通)、
駒井宇之助さんの写真



左：駒井宇之助さんと文子さんたち

昭和14年(1939年)5月11日撮影

右：駒井宇之助さんの葬儀での児童総代の弔辞の末尾



駒井宇之助さん関係資料

【体験談—「サイパンは、敵も来よらんし大丈夫なところや」と言っていました。】 Kさん(多賀町)

夫(明治37年生まれ)は、昭和16年(1941年)12月11日、召集で舞鶴海兵団に入営しました。フィリピンに2年、帰ってきて舞鶴に1年、そしてサイパンへいきました。

サイパンに夫が出発するとき、舞鶴に面会に行き、京都まで兵隊の乗る特別列車に同乗しました。夫は「サイパンは、敵も来よらんし大丈夫なところや」と言っていました。他の兵隊が「(サイパンの特産品の)砂糖は十分に送ってもらいますからね」と冗談を言ったりして、送りだす自分としても格段の緊迫感はありませんでした。

しかし、間もなく新聞でアメリカ軍のサイパン攻撃を知ったときは、生きた心地がしませんでした。そして、今度は玉砕のニュース。「これはダメや。夫が生きているわけではない」と思いました。泣くのを乗り越えた心境でした。

長男(昭和12年1月2日生まれ)は、当時国民学校に入学したところでしたが、「父親が戦死したことはピンと来なかったが、母が泣いているので悲しかった」そうです。

【体験談—実際もう死んだ日というのは、分からんです。遺骨ももちろん無かったし。】

内藤 貞七 さん(高島市)
貞七さんの次兄、保さん(大正11年(1922年)生まれ)は、サイパン島で戦死されました。22歳でした。

これは2番目の兄貴の死んだとき(の内報)です。

(内報には中部太平洋としか書いていないが) サイパンちゅうの分かったんはね、隣にちょうど、もう本家の1軒隣の人が徴兵で、輸送船乗ってたんですよ。ほんで福知山(京都府)から、名古屋港から出しなに、知らなんだんやけど、船の中で会うたんです、たまたま。向こう行ったら暑うて、もう船、道中が暑うて、もう皆汗だくやったと。ほんでサイパン上がったちゅうこと聞いたんです。

「陸軍兵長木村保殿、昭和19年7月18日」「中部太平洋方面において戦死を遂げられ」と書いてますけど、そうですね、19年の7月。もうサイパン、7月に落ちてしまいますのでね。一番最後の。

もうほんで、もうもう最後の整理で、皆もう分からんじまいで(死亡の通知を)出したんやと。(亡くなった日付が)皆一緒やちゅう話、聞いてました。実際もう死んだ日というのは、分かりません。遺骨ももちろん無かったし。



内藤貞七さんの次兄、保さんの遺書(左上・下)と戦死の内報(右上)

【体験談—ジャングルで陸軍の死に様をようさん見てきたがな。】 Hさん(守山市)

8ヶ月、ジャングルで暮らしたんや。

わたしはもう、正月前から決めてた。もう、(昭和20年)2月11日友軍が来なかったら、日本負けやと。飛行機が1機もあらへんねや。負けやゆうことを、念頭に置いてたわい。もう、誰が来ても、戦場へ何が来ても、日本の飛行機が落とそうとせえへんから。もう、あかんと思てね。「2月11日がきたら、わしゃ死ぬぞ」って。

ただしジャングルで、ようさん陸軍のなにを、見てきたがな、死に様を。ハエがたかって、1週間もせんうちにハエに食われてしもて。骨と皮や。そんな状態でした。毎日晚は食料探しにバーッと出ますやろ。(足元で)バリバリっゆうたら、骨や。ワアッとハエがたかりよったら、死んで間のない人。みんな朝と夕方に、食料探しに出るさかいね、見る。

それで11日や。もう今日が最後。この洞窟で死ぬか、アシガ湾ゆうて、30mほどの砂浜のところがあんねん。いいところがあんねん。敵も上陸しよるやろなて、われわれを配置しときよったんや。陸軍が雨ざらし野ざらしで、皆あんなジャングルの中で死んどったんや。ハエがたかってな。骨と皮や。こんなみっともない死に方も、かなんなと思て。ほんで、海を選んだんや。

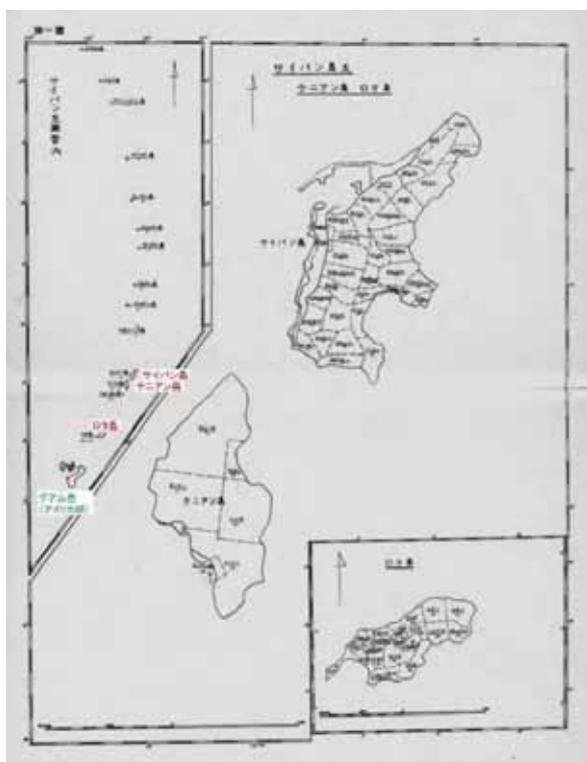
で、もう歩けへんぐらいやさけ、杖ついて。私はどうにかな、枝を杖にして、(洞窟から)出ていったんや。白昼、堂々と。自分で死ぬと思て。ほんで、洞窟やら上がって、こう行きましたや。上にジープの通るような道あんねん。私がここまでひょいと来た時に、(アメリカ軍の)ジープがボンと止まりよった。あれは不思議やな思た。なんでそんな、止まってくれたねやろ。ジープがはたへ、ちょっと止まってくれた。さあ乗りなさいと、歓待してもろたんや。(最初に見た時は)アメリカ軍も同じ人間やと思た。割りに温厚な。

使役に、沖縄の県人でアメリカ軍に使役に使われてる人が2人乗ってはったんや。「兵隊さん、今時分までどこにいたんやな。」言わはったんや。

「ああ、あここに洞窟があつたんや。晩は洞窟入っ

て、昼間、外のジャングル、あっち回りこっち回りして、食うもん探して。」「ようえらいもんやな、そんな。民間人のとこへ入りなさい。名前を変えて、民間人になりなさい。」そうまわりで教えてくれたけど、いくら民間人になったからゆうて、そんなことアメリカはよう知つとる。そんなもん、兵隊ゆうことはいっぺんにわかるわ。

(サイパンの陸軍病院に) 1ヵ月入院さしてもらいましたわ。ほんで、ハワイへ送ろう思てたやつらといっしょに、今度は(昭和20年3月頃に)ハワイ送りになったんや。(日本人の捕虜が) 200人ほどいたやろな。

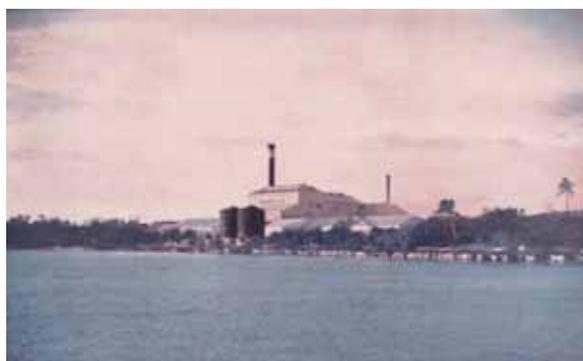


サイパン島及びテニアン島・ロタ島

『南洋群島島勢調査書』(南洋庁、昭和12年発行) 附図に加筆

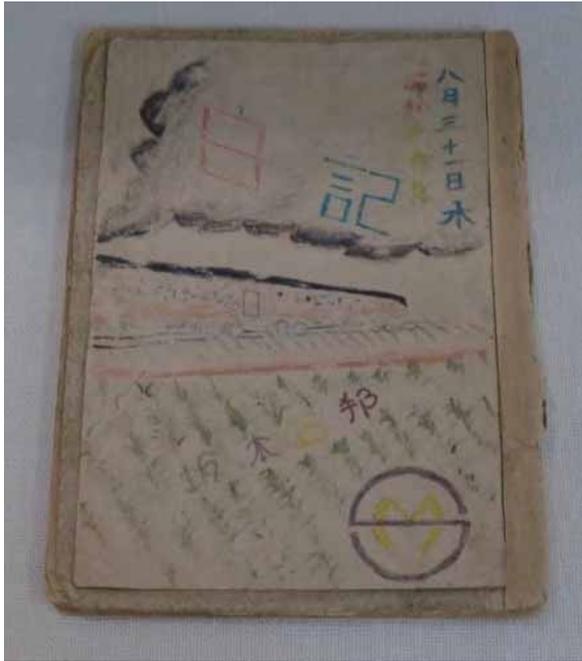


テニアン島などで製糖業を行った「南洋興発株式会社」の跡地(2枚)



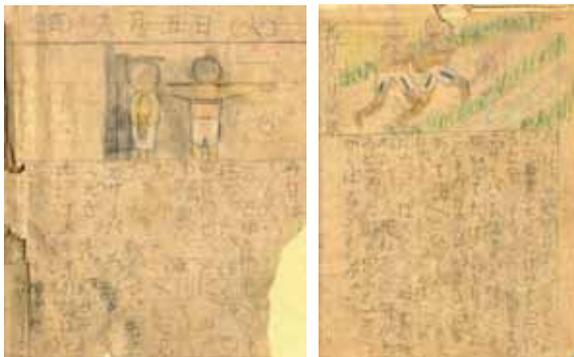
南洋興発株式会社テニアン製糖工場

『南洋群島写真帖』南洋庁・昭和7年(1932年)(国立国会図書館デジタルコレクションから転載)



疎開先で描いた絵日記

昭和19年当時、国民学校4年生だった坂本少年が、サイパン島玉砕の話先生から聞いたときの絵日記です。



左：昭和19年9月5日

教室で先生がサイパンの話をして下さった。

「わが身をもって太平洋の防波堤たらん」

ぼくは、この言葉を聞いて、「何が何でもやりぬく」と固く決心した。

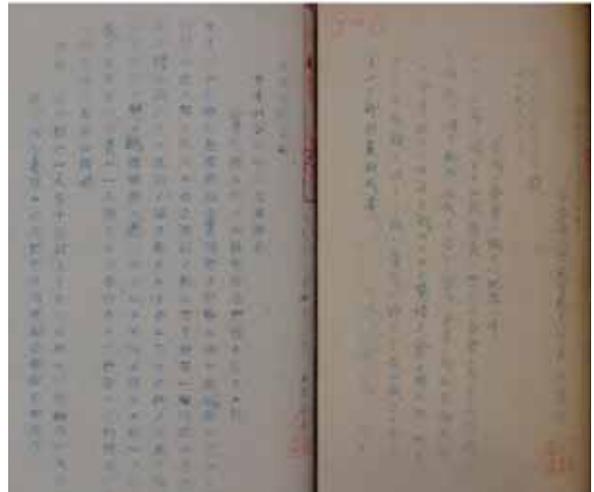
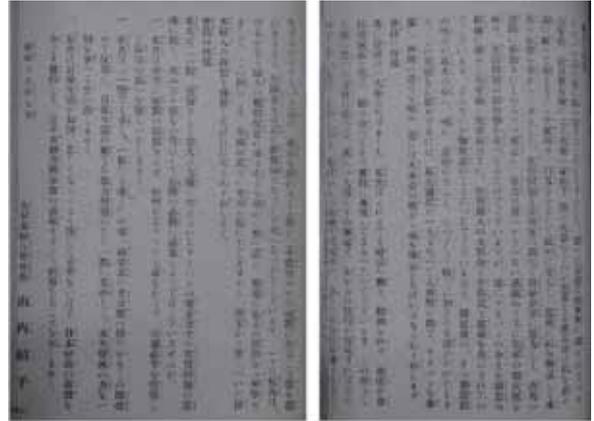
右：昭和19年9月6日

石を踏むとトゲが刺さったような気がする。

きのう植田先生からサイパンの話聞いた時のことを思い出した。

ぼくらより小さな子どもが、日本の兵隊さんと抱き合って海へ飛び込んだことを思い出したら、痛いことは無いようになった。

(読みやすいように、部分的に漢字に書き替えたり、現代かなづかいに変更しています)



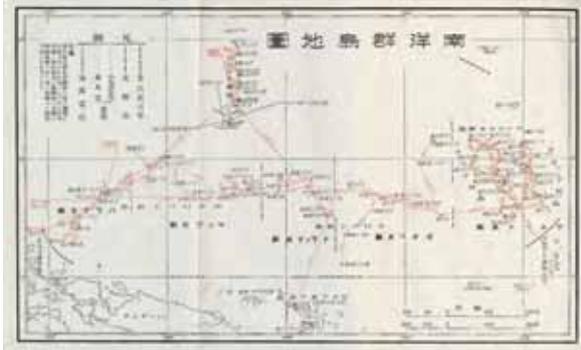
滋賀県立公文書館には、昭和19年7月にサイパン島の守備隊が玉砕した際に、大日本婦人会が「全国の会員に檄す」という文書（下の写真）を配布した記録が残されています（右上写真：昭二-368 3-6）。

また、敬弔貯金の呼びかけも、会員に対して行われています（左上写真）。

戦場となったパラオ

アメリカ軍は、昭和19年（1944年）9月15日からパラオの南端にあるペリリュー島に対して上陸作戦を開始します。この島には日本軍が建設した大規模な飛行場がありましたが、航空戦力は3月に行われた空襲によって、すでに壊滅状態でした。島の守備隊はゲリラ戦などで粘り強く抵抗したものの、ペリリュー島での組織的な抵抗は11月に終了します。

日本軍はパラオに住む民間人を事前に強制疎開させました。しかし、軍属などの形で軍に協力させられた現地住民など、島で亡くなられた方も多くおられます。



南洋群島地図 矢内原忠雄著『南洋群島の研究』(昭和10年(1935年)岩波書店)から転載

【体験談一父は召集され、子どもたちを連れ、母はパラオからの引き揚げ船に乗りました。】

高橋 正則 さん(京都府)

平穏な日々は、太平洋戦争によって失われました。昭和19年(1944年)、当時43歳だった父は(パラオで)現地召集され、婦女子と老人は内地へ引き上げるよう勧告されます。終戦の1年前すでに戦況は悪化し、無事に日本まで帰れる保証はありません。帰国を断念し、戦火の本島を逃げ回り、餓死した移民も大勢いたようです。

30歳の母は8歳の長男、2歳の三男を連れ、パラオで築いた財産のほとんどを残したまま、引き揚げ船に乗ることになります。船団は4月に輸送船4隻、護衛艦2隻でコロールを出発しますが、途中で米軍の潜水艦に見つかり、魚雷攻撃を受け1隻が沈没。

その時の様子を母は、「波のうねりのおかげで乗った船の下を魚雷がすり抜け、横にいた別の輸送船に命中した」。魚雷命中の衝撃で乗った船も大きく揺れ、片手で長男の手を握り、三男を抱えていた母は、思わず甲板に両ひざから崩れ、強打したといいます。それが遠因になったのか、最晩年にはリウマチで両ひざの痛みで悩まされていました。また、その時の様子では、護衛艦から潜水艦めがけての反撃は、まるで花火を見るようだったといっていました。

戦闘中にもかかわらず、民間人が甲板にいたというのを不審に思うと、万一船が沈むようなときはすぐに海に飛び込み、船から離れるようにせよと言われていたからと。経験した者でないとわからないものだと思います。

残る船団はサイパンかどこかに避難し、あらため

て日本に向かったとのことでしたが、あとで調べてみると、一旦パラオに戻っていたようです。船団は、その後無事に横浜に入港。そこから母たちは陸路、故郷の佐賀を目指しました。

余談ですが、この時の引揚げでは別の輸送船に、タレントの今田耕司さんのお母様も乗っておられたとの事(※今田耕司さんのお母様の体験談は、平成25年(2013年)にNHKのファミリー・ヒストリーという番組で放送されました)。母から聞いていた引揚げ船での話の内容と、放送の内容が一部異なっているのは、おそらく私の聞き違い、思い違いによるものなのでしょう。当時はメモも取らず聞き流していましたから。今にして思えば悔やまれますが、母が亡くなった今では聞きなおすこともできません。



高橋さんのお父さんが出征前に撮影した最後の家族写真

【体験談一父はペリリュー島で玉砕していました。】

高橋 正則 さん(京都府)

(パラオから戻って来た)母は一旦、佐賀県の実家に引き揚げたのですが、その後、子供たちを連れて夫の実家を頼ることにしました。結婚後もほとんどパラオで過ごしていた母たちにとって、夫の故郷滋賀県は見知らぬ土地、よそ者でしたが姑は温かく迎えてくれたようです。

滋賀県に身を寄せた母たちでしたが、終戦翌年になって戦死公報が役場から届いて、夫は召集されたその年(※昭和19年(1944年))のうちに、パラオの激戦地ペリリュー島で玉砕していたことが分かります。遺骨どころか髪の毛1本も戻らず、ただ戦死公報で2階級特進が知らされただけでした。

母がよく自分の生い立ちのことやパラオ時代のことを話すのに比べ、まだ幼児だった次兄はともかく、すでに物心がついていた長兄はパラオ時代のこと、戦後の苦労話など一切しませんでした。触れたくない澱として心の底に淀んでいたのだらうと思います。その長兄は若いころの苦労が祟ったのか、母に先立つこと3年、平成13年(2001年)に66歳の誕生日を迎えて数日後に病没しました。

それから3年、母も波乱に満ちた生涯を90歳で終えたのでした。母の遺骨は婚家の宗派であるお寺に納骨しましたが、少しばかり残した遺灰は母が青春を過ごし、結婚し、一番幸せだったであろうパラオに、そして夫が眠るペリリュー島に少しでも近いところに、と南紀串本(和歌山県)の海に散骨をしてきました。

生前、昔の話をするたび懐かしがり、テレビ等でパラオが取り上げられ、ペリリュー島での玉砕が特集されるたび、画面を食い入るように眺めていた母は、戦時中の半強制的な引揚げ以来、第2の故郷ともいうべきパラオへの再訪を望んでいましたが、とうとう叶いませんでした。

【体験談一夫は、ろくに手当てがしてもらえない中、戦病死しました。】 土田 千代 さん(多賀町)

夫(正忍さん)とは昭和15年(1940年)3月に結婚し、長男を16年8月に、次男を18年9月1日に生みました。

昭和18年7月1日に召集令状が来て、7月15日に舞鶴に入隊しました。出征する日は多賀大社でご祈祷してもらい、自分は野道に当時あった(近江鉄道多賀線の)土田駅のところまで小旗を振りにいきました。夫は家を出ていくとき、髪の毛とヘソの緒を置いていきました。

やがて、終戦で皆、復員で帰ってくるようになりました。自分も「皆帰って来やはるから、そのうち夫も帰ってくるやろう、どんな身体になってもよいから帰って来てほしい」と念じていました。

昭和20年10月ころ、夢を見ました。主人が白い着物を着て、村の地蔵堂の縁に腰をかけており、「何しているの、早く家へ帰ってきて」と言ったところで目が覚めました。それから間もなく、戦友と言う

人が来られて、「ご主人はパラオ島で病気で亡くなりました」と教えて下さいました。

連日の空襲の上に、ほとんど食べるものがないという状況。弱ってしまってバケツ一杯の水を持つ体力も失われ、病気になってろくに手当てがしてもらえない。そんな中で昭和20年6月4日に、夫は戦病死したそうです。町葬が(昭和)20年12月15日、多賀小学校で行われました。



土田正忍さん関係資料

神社の御守り(4点)、御守り袋、
パラオで戦死された土田正忍さんの写真(2枚)、
財布、財布の中にあつた写真(5枚)



パラオ諸島図 『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会)掲載図を改変



パラオでの遺骨収容作業①



パラオでの遺骨収容作業②

【体験談—船団でパラオまで陸軍兵を送っていったが、しまいには私らの駆潜艇しか残らなんだ。】

角田 與惣治 さん（東近江市）

私が海軍志願して行ったのは、昭和17年の12月に審査、検査してもらって、ほいで翌18年5月に舞鶴海兵団に入団して。

12号駆潜艇が、戦争受けてきて（損傷して）、高松（香川県）のドックに入っておったんですよ。ほして昭和19年の5、6月ごろに、浦賀水道から船団を組んで南方に行ったんです。12号駆潜艇。ほれまた小さいねん。104人やったわ。乗ってたのは。

船団やさかい、ようけ組んで行ってるわな。商船を護衛するにやで。ほいたら、あくる朝も1隻、あくる朝も1隻。何やしらん、おかしい、だんだん減っていくな思たら、潜水艦が皆沈めとる。商船に陸軍の兵隊が、どんと乗ってらって、ほれがバーッと沈んでしもうて。もうフカがな、ようけ来とるし、もうほんなん、どうなるやしらんとてな、もう。

パラオ（に陸軍兵を送って）行く間に。

送ってくとき、潜水艦の攻撃せんならんのにやな、潜水艦に沈められてばっかりいたんや。（アメリカ軍の潜水艦が）もう尻からついとったんや。もうほんなん知つとるにや、ようよう。やられっぱなしや。（潜水艦をやっつけるためには）爆雷落とすしかないわな。爆雷も何べんも落としかたけど、ほんなん当たったるか何や分からへんがな。ほんなん見つけられへんにやであかんがな。向こうのほうが賢い。こちらやられてばっかりや。

ほれ敗けるわいな、ほら。あくる日あくる日、沈んでいく。だんだん少なくなってもうて。しまいには、私らの船しか残らなんだ。ほんで（パラオの）コロール島へ上がって、この島陰で山の木を切って来て擬装してたけど、もうほんなん追いつかへんでな。暑いさかい、しりから木が枯れてしまつて。ほんでもう、艇長の腹ひとつで、こらあかんちゆうことで、ほいで（船を）自ら爆破して沈めて（上陸しました）。



角田與惣治さん関係資料 海軍の毛布

【体験談—すべてのもん食べ尽くしてるにやで。何もかも。よう生きられたな、ちゆうなもんやな。】

角田 與惣治 さん（東近江市）

補給も断たれてしもうたさかいに、海軍は食べるもんがないで、私らは密林に行つて、ほんでカタツムリを拾うて来て、あのヌルヌルを砂で取つて。ほれは湯がいて、ドラム缶の切ったやつで。初めはようけおったけど、皆食べてしもうて、だんだんもうみんな栄養失調になつていくし。ほいで私は、アマーバ赤痢ちゆうて、赤痢にかかったもんやさかいに、3人。もう、わしら死んだみたいで、丸太小屋へ放

り込まれて。ほして、あくる朝見たら、2人とも息が絶えてしもた。私だけが不思議に助かって。

ジャングルの中。ほんでもうしまいには、ヤシの木もあったけど、ほれ、ヤシの幹のやわらかいとこ取るがために皆切ってしまうて、先食べて。ほいでもう、木も何もないようになってしもて。

夜はヤシガニちゅうて、穴から出てきよるカニを食べて。ほいで、海岸やさかいに、海に入って取りに行かはって。ほな空襲で殺されてしまうし。あっちでもこっちでもう、毎日。ペリリュー島取られてしまうたもんやさかいに、(敵の)航空隊、飛行機が来て、ほてもう猫一匹撃ちよるにや、もう。バババツと。もうほんで昼は穴掘って、ほこに入つて、晩には、ほんでまあ外へ出て、食べもん探したり、ほんなことでもう。晩はほんでに、起きてるけど、晩でも煙が出たら(敵に見つかって)大変なこっちゃ。ほんで、火も焚けへんにや。

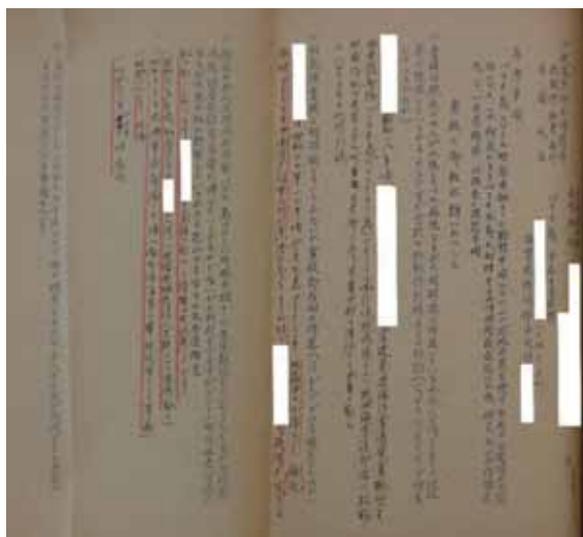
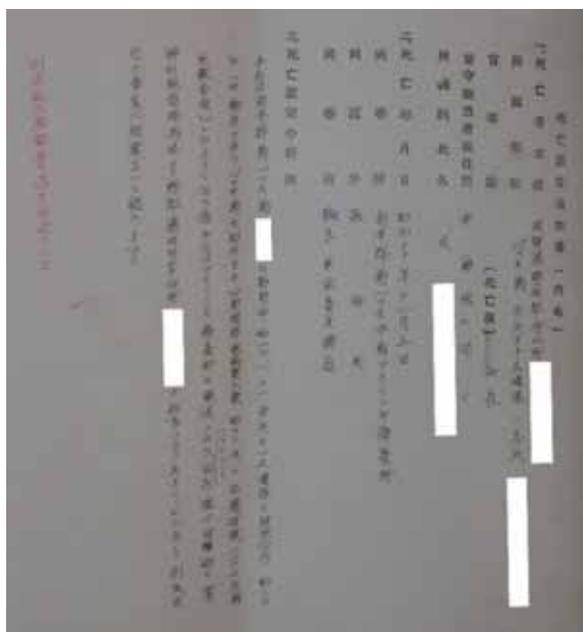
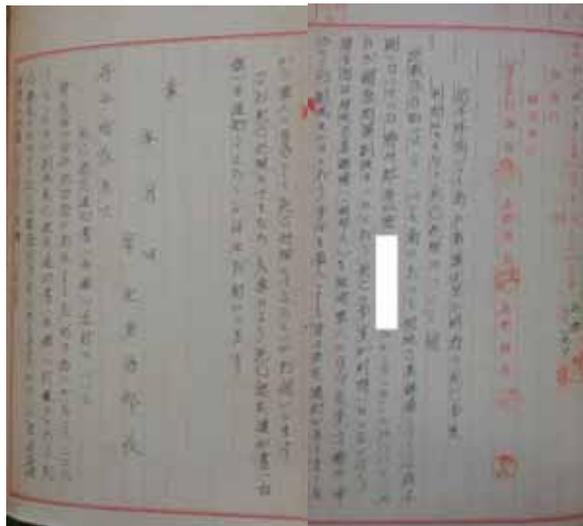
先に来てる陸軍は、芋畑をようけ作って芋で食べてはったけど、ほれを盗みに入って。バーツ、撃たれて。陸軍さんに撃たれて。のどちんこ飛んでもうて。それで、よう生きらったな思たけど、ほんでも最後会わへなんだ。死なはったのかな。ほんなこともありました。わしら海軍やで、寄り集まりやさけ、地盤が何もありませんで。ほんでにもう、死ぬよりしょうがなかった。ほれが生きてきたちゅうのが不思議でな。

もう食べれるもんは食べて、すべてのもん食べ尽くしてるにやで。何もかも。米の飯は10カ月ぐらい食べてへなんだやろな。米の飯は、ほれは覚えてますわ。よう生きられたな、ちゅうなもんやな。

南洋群島パラオ島からの未帰還者に関する調査書類

滋賀県立公文書館に残されている文書(昭-18-294-464)によれば、昭和30年代になっても、南洋群島からの未帰還者に関する調査が行われていたことが分かります。

パラオからの未帰還者で、守山町(現守山市)出身の方について、現地のことを記憶している方に照会した結果、昭和20年12月頃に現地で病死していたことが判明し、昭和33年4月に死亡認定が行われています。



第4章 硫黄島玉砕 そして終戦へ 本土空襲、原爆投下、そして終戦へ

アメリカ軍の大型戦略爆撃機B-29が初めて日本を空襲したのは、昭和19年(1944年)6月15日でした。このときは中国から飛び立って北九州を爆撃したものでしたが、7月にサイパンを占領したことによって、アメリカは日本列島の大部分を爆撃圏内とすることができました。

同年11月24日に東京近郊への爆撃が始まります。日本軍はサイパンのアメリカ軍基地への空襲を行うなど本土防衛に務めますが、昭和20年3月に硫黄島が占領されると、新たに硫黄島を基地としたアメリカ軍の空襲が激化し、日本の主要な都市は、焼け野原となっていました。

そして、新たにアメリカが開発した原子爆弾(原爆)を積んだ爆撃機がサイパンのテニアン島を飛び立ち、広島と長崎に爆弾を投下しました。この新型爆弾は一瞬にして市街地を壊滅させ、原爆での死者は合わせて約20万人という莫大な数でした。

8月14日、日本はついに降伏することを連合国に通告し、翌日「玉音放送」で全国民に報せました。世界中に数え切れないほどの被害者を出した戦争が、ようやく終結したのです。



テニアン島の原爆ピット

原子爆弾を一時的に保管していた場所

硫黄島

東京都小笠原村に属する硫黄島。火山島であるため、硫黄の臭いが立ち込めていることが島名の由来です。記録に残っている日本人の入植は明治22年(1889年)からで、明治24年に日本の領土に編入

され、太平洋戦争開戦前には1,000人以上の人口がありました。

昭和19年(1944年)、日本軍は硫黄島を含む小笠原諸島の防衛を強化し、部隊を増強しますが、6月にはアメリカ軍による空襲が始まり、島民は軍属として徴用された方を除いて、7月に疎開させられました。アメリカ軍の上陸は昭和20年2月19日に始まります。3月26日まで続いた激戦の結果、2万人以上の日本人と、7千人近いアメリカ軍兵士が亡くなりました。

太平洋戦争の激戦地として有名な硫黄島ですが、現在、島には自衛隊の基地が置かれ、基地関係者以外の立ち入りが厳しく規制されています。現地では、厚生労働省による遺骨収集帰還の取組みが、今も続けられています。



硫黄島 厚生労働省ホームページ掲載の「令和5年度日米戦没者合同慰霊追悼顕彰式及び天山硫黄島戦没者慰霊追悼顕彰式(結果概要)」の図を一部改変

【体験談—日本兵は硫黄がいっぱい出るところを掘って、壕の中で生活していたのよ。】

松崎 香苗 さん(彦根市)

夫の松崎壽吉さんは、工兵として硫黄島で陣地構築などに従事しておられましたが、昭和19年(1944年)10月に現地で戦病死されました。

生まれが、向こう(朝鮮半島)なんです。両親が明治時代に向こうに行ってるの。両親も、あっちで骨を埋める言うて、もう日本には帰ってくるつもりはなかったんです。私の夫も(朝鮮)総督府の人間でね、釜山にいたんですけど、昭和19年の4月の23日に赤紙が来てね。もうちょっとで戦争が終わるというのにね。

その当時、皆で「島に行ったら、生きて帰ってはこれんなあ」と言うてたのに、行ったのが硫黄島なの。そいで、行ってね、もう10月に亡くなつてんの。3か月ぐらい、基礎訓練があったのよね。釜山の横に馬山というところがあるんだけど、そこで軍隊の訓練を受けて、そして6月ごろに硫黄島に渡ってるんです。その年の12月に公報が入って、合同葬儀が久留米（福岡県）であったので、来いといわれたので行ったら、遺品が皆、帰って来たの。普通は、なかなか帰らないらしいんだけど、遺骨もね、小さい箱に入って帰って来たの。その箱をね、夜中にこっそり開けてみたら、犬歯が3本入ってたの。

でね、遺品のなかに、出征してから死ぬ10日前ぐらいまで書いた日誌があったの。それを読むと、横須賀（神奈川県）から硫黄島に渡るのに3べんほど魚雷にやられて、ほんで、海に入ってる。で、みんな泳いで硫黄島に渡ってるんだけど、硫黄島に着いたら、硫黄ばかりで、真水がないんです。ほんで、雨水を受けて、濾過して飲まなきゃいけないの。下から湧いてるのは、皆、硫黄なの。そんなとこだから、そこに行って、おなかこわして、それまで健康体で、いっぺんも病気したことがなかったんだけど。10日前まで書いてる日記には、今日は何をよばれた（食べた）とか書いてるの。それで、毎日銃撃があつてね、米兵からの艦砲射撃があつて、今日は誰、誰が死んだとか、皆、日記に書いてあるんです。

日本兵は、もう、硫黄がいっぱい出るところを掘って、壕の中で生活をしてたのよ。それで、終戦になる前に米兵が上陸して来て、そこに、みんな火炎放射器で、ジャーとやってね、埋めちゃって、ほいで、それを掘り起こして、今でも、まだ遺骨収集してるけどね。だから、そんなことで食べるものがないし、水がまずないし、胃腸が悪くなって死んでるんです。

（硫黄島に行ってるというのは、）全然、知りませんでした。その葬式の時にはじめて知ったんです。

（戦地からの手紙は）来てたんだけど、そんなもの絶対書けないのよ。ただ、元気にしてるというそれだけしか書けないのよ。



松崎壽吉さん関係資料

貴口品袋、財布、御守り（2点）、鏡、
硫黄島への移動前日に書かれたハガキ、
松崎壽吉さんの手帳（2冊）

松崎壽吉さんの手帳からの抜粋

昭和19年

- 7月14日 午前9時迄乗船。10時愈々装途に着く。
午後3時過、館山飛行場前面に碇船、一夜を明す。
- 7月15日 午前5時起床。船も第2日目の航海に入る。危険区域にはいりたるを以て、甲板に上る際は救命具を付けて上ること。
- 7月16日 3日目、陸地見えず。唯広漠たる大洋のみ。
- 7月17日 4日目、同じ。午後7時半頃、敵潜水艦隊現はるとの状報ありたるため、避難の場合の服装及携帯品に付、注意あり。
- 7月18日 5日目。4日目の夜も無事に過ぎ、朝食の準備中、突然ごう音にて吃驚せし所、
敵潜水艦の攻撃を受けし、皆避難準備をなす。時に午前7時頃なり。稍々しばらくありて第2発目の魚雷を受け船も駄目となり、退船命令あり。皆悲壮なる決意を面に輝し飛込む。全員退船と同時に船も沈没す。全員万歳を称ふ。退船の1時間後には救助さる。
- 7月19日 父島附近に於て亦も敵潜水艦の魚雷攻撃を受く。
4本の魚雷好く逃る。危機一髪なり。船首と魚雷の距離1m余なり。
午後6時頃父島に入港。8時過ぎ上陸、兵舎にけり。
- 7月20日 衣服の手入れ。人員点検後1名の犠牲者もなく、

- 皆●かゝに於ける訓練の賜と感謝す。
- 午後7時頃**最初の空爆**を受く。敵機3機、棧橋付近に被害あり。
- 7月21日 午前1時頃棧橋付近大火災あり。水足部隊より100名応援に行く。弾薬・糧秣の運搬をなす。
- 7月22日 衣服の手入れ。
- 7月23日 衣服の手入れ。腹具合少し悪し。
- 7月24日 午前6時兵舎出発（昼食代行）。壕作りの使役に行く。
- 7月26日 今日で雨も3日降り続き嫌気がさす。
午前7時出帆の予定にて波止場に行くも、時化のため中止となる。止むなく宿舎に引返す。
- 7月27日 どうやら雨も止み、一同張切り午前5時半宿舎出発。八祥丸（約500屯）に乗船す。
出帆は明瞭午前7時半の予定。1日船に退屈に過す。
- 7月28日 午前7時半過ぎ愈**硫黄島に向って出発す**。
2、3日來の時化の余波にて相当波高く船酔いの者多く殆んど昼食を食べる者なし。
- 7月29日 午前6時過ぎ**硫黄島に到着**。午前8時頃上陸す。
少休止後、本隊陣地に向ふて出発す。正午到着。
午後船酔いのため休養。
- 7月30日 幕舎狹隘なるため拡張をなす。
- 7月31日 臼砲の試射陣地構築のため分隊長以下11名行く。
飲料水の欠乏のため困る。
- 8月1日 陣地構築。11名下り止る。
- 8月2日 陣地構築。13名。
- 8月3日 陣地構築。午後大雨にて作業中止。
- 8月4日 “ ”。火砲の据付15名。
午前10時頃**空襲警報発令**さる。
午後4時空襲警報解除4回。
第1回の陣地の空爆にて心配せしも左程にはなし。
第1回の便りをなす（全州）。
- 8月5日 午後11時頃起床。敵上陸の機運濃厚なるを以て直ちに陣地出動す。弾の運搬をなす。
午前9時頃帰營す。
工兵隊爆弾にて戦死8名、重傷6名を出せり。
- 8月6日 陣地構築。鉄筋伸しの使役。
- 8月7日 陣地鉄筋伸しの使役。
- 8月8日 陣地にて第1回の大詔奉戴日を向う。2分隊覆蓋し
混凝土作業をなす。5日より**毎日空襲警報ある**。
- 8月9日 陣地行き交通壕の掘削。第2回（内地）の便りをなす。
- 8月10日 砂利取りの使役。正午頃**空襲警報**。敵機20機來る。
- 4発ボーイング。
- 8月11日 臼砲の試験射撃の予定の所、中止。中隊の使役。
- 8月12日 砂利採取。**空襲**午前11時頃。
- 8月13日 陣地2小隊の掩蓋のコンクリート材料運搬。
- 8月14日 臼砲の試射。午前9時頃無事終了、又自分も砲手（5番）となり此の上なし。
午後混凝土作業。**空襲**有り。
- 8月15日 1小隊交通壕の築造共同作業。
- 8月16日 15日と同じ。
- 8月17日 2小隊陣地砂利運搬。
- 8月18日 2小隊陣地水汲み。午後1時過ぎ**空襲あり**。
本日の空襲にて2中隊に3名の犠牲を出す。
- 8月19日 指揮小隊の横穴掘り。
- 8月20日 昨日と同じ。午前11時作業止め。久方振りに雨が降り生き返った気持ちす。
- 8月21日 本陣地掘開作業
- 8月22日 本陣地21日と同様。衛兵午前中にて作業止め。
- 8月23日 同じ。昼間空襲警報2回、夜間1回。
- 8月24日 本陣地混凝土作業。基礎並側壁一部。
- 8月25日 西波止場揚陸作業に行く（セメント）。
午後1時過ぎ**空襲**有る。**2中隊2名戦死**。
- 8月26日 陣地構築。午前11時頃空襲有り。**敵中約20機**。
2中隊1名戦死、1名負傷。
- 8月27日 陣地枠取付。午後作業中止。
- 8月28日 陣地混凝土（※コンクリート）作業。午後1分隊の左近壕の整備。午後1時過ぎ**空襲**有り。
午後7時より12時過ぎ迄**空襲**。衛兵（以下不明）
- 8月29日 交通壕の掘下げ。
- 8月30日 同じ（29と）
- 8月31日 2小隊に応援。石運搬。午後2時半頃**空襲**有り。
敵戦闘機の物すごい急降下爆撃有り。飛行場並船舶に大分被害有り。夜中も2回**空襲**有り。
- 9月1日 午前5時40分頃より**空襲**有り。**殆んど終日有り**。
午後4時20分解除。
- 9月2日 午前5時頃**空襲**。本日も終日有り。
正午頃より**艦砲射撃有り**（巡洋艦2、駆逐艦4）。約2時間。空襲解除5時半。
- 9月3日 横穴の使役。**空襲**有（午後一時）。陣地付近相当**大型爆弾**落つ。
- 9月4日 陣地午前中射撃演習。午後2小隊の石運搬。衛兵。
- 9月5日 第3小隊の砂利運搬。

9月6日 6分隊陣地掩蓋コンクリート竣工。
 9月7日 6日と同じ。午前中工事完了。午後水運搬。
 9月8日 漏水器作りの使役（砂、砂利採取）。
 9月9日 8日に同じ（砂利、シュウロの皮、白サンゴ）
 9月10日 漏水器の使役（本日完了）。
 9月11日 前夜12時頃より陣地侵入射撃準備をなす。
 朝解除となり交通壕の整備をなす。
 9月12日 水汲み使役。午後9時頃揚陸作業。
 午前2時頃終了す。
 9月13日 午前中休養。午後横穴掘り。
 9月14日 陣地衛兵午前中休養。正午頃**空襲**有り。
衛兵所破壊す。付近に4・5発落下す。
 午後衛兵所の整理をなす。
 9月15日 陣地型枠取外し午後砲据付。夜間一回**空爆**有る。
 被害なし。
 9月16日 午前3時半南波止場の揚陸作業出発。船遅れした
 め一時帰営す。
 午後7時出発揚陸作業に行く。午前3時頃帰る。
 9月17日 午前中休養。午後陣地6分隊掩蓋土運搬。
 9月18日 午前3時半起床。南波止場に揚陸作業に行く。
 9月19日 陣地3分隊交通壕の整備。
 6分隊衛兵なるも自分**腹具合悪く帰営す**。
 9月20日 **診断を受けて休養す。昼食絶食。夕食より粥食と
 なる**。
 9月21日 休養。便通は少くなるも**下腹の気持悪し**。
 自9月22日至9月26日、休養。
 26日より並業となる。業は重曹。

【その後、10月14日に急性大腸炎で戦病死されました】

【体験談一玉砕の電報を傍受したときは悲壮なものでした。私ら泣きました。】

伊藤 重一 さん（草津市）

伊藤さんは通信兵として厚木飛行場（神奈川県）に配属されていました。

電報で送ってくる電文は受信はしますけどね、自分では文章の中身はわからないんです。暗号ですから。暗号兵がおって、それを渡すと解読しよる。

でもね、戦争の最後ぐらいになってきましたね、硫黄島が玉砕した時ね。硫黄島と交信しとったのは、千葉県の本更津ゆうとこでね。硫黄島とそこは常時交信してるんです。通信網やから。ほで、東京の海

軍大本営とね。それを傍受してますねん、いつも。

島が玉砕前になってきたらね、もう、電文を暗号化してる間がないんですよ。戦況を早く報告するのにね。暗号化してたら時間がかかるし、解読するのに、訳さんならんし、また時間かかる。そやから、私ら通信関係では、『生電報』言いましてね、普通にしゃべってるような形の電報が来る。それで私は、硫黄島が玉砕した時の電報を、神奈川県の本木航空隊で傍受してました。サイクルゆうて、波長がありますやん。それを合わせたら聞けます。日本海軍の電信機を持ってたら。で、聞いてるとこもあったと思いますし、関心の強いとこや関係のあるところは聞いてたと思います。私は、東京のすぐそばやったから聞いてました。

戦争で、海軍が玉砕する前は、こういう電報を打つんですよ。『トントントンツー、トトツー・・・』でこういう電報ですけど。これはね、『これにて、連絡を止む』ちゆう最後の交信です。玉砕したということです。その電報聞きました、私。硫黄島と本更津航空隊のやりとりをね、ずーっと傍受してたんです。私のとこからは電波を出せませんけど。私、ちょうど当直の時、それを聞きました。涙が出ました。向こうには、私らみたいなもんがいますねわ。それが、電信室ですから、どうせ、硫黄島の洞窟の中やっただと思うんですけど。それ思うとね、電報を傍受した時は、それは悲壮なものでした。私ら、泣きました。

私らの職業柄、言えなんだけど体験としてわかりますからね、もう戦争は負けるなど。硫黄島ゆうたら、東京のちょっと先ですやん。飛行機やったら、1時間もかからしません。そこまで敵が押し寄せて来よったんやから、これはもう負けるなど思てました。

【体験談一遺骨箱の中は空っぽでした。】

〇さん（愛荘町）

夫は海軍で、戦闘機の整備兵をしていました。近く、外地への異動命令が出されるだろうという話でした。「行っても飛行機がないからあかん」と夫は言っていました。昭和20年（1945年）1月、夫は横浜から飛行機で南方に飛び立ちました。行き先が硫黄島であることは、間もなくいろいろな情報で分かり

ました。

昭和20年2月19日、アメリカ軍の硫黄島への上陸が始まりました。両親は硫黄島の戦闘記事の載った新聞は、みんな私の前から隠しました。私が心配するからです。でも、私には硫黄島の戦況が一日一日悪くなっていくのが分かっていました。硫黄島守備隊が全滅したのは3月26日です。夫の戦死した日は3月17日となっています。32歳でした。1月に出発し、3月には戦死しているのです。まるで死に行ったようなものです。

私は夜、布団に入ると一人で泣きました。泣いて泣いて、けれども子ども二人の前では涙を見せることは出来ませんでした。戦死の通知が村に集団で来ました。間もなく、八木荘村役場の人が遺骨箱を家まで持って来てくれました。けれども、遺骨箱のままです。私は大急ぎで白い布を探し、遺骨箱を包みました。箱の中は空っぽでした。遺骨箱に夫の写真を入れ、お墓に埋めました。

ずっと後に、長男が硫黄島への慰霊・遺骨収集の旅に滋賀県から派遣してもらいました。それが、せめてもの慰めです。硫黄島は水が無いところだそうです。だから、お仏壇には毎日欠かさずお水を供えています。



展示パネル：硫黄島

左上：硫黄島の摺鉢山、右上：摺鉢山山頂から南海岸を望む
海上自衛隊ホームページから転載

左下：地下壕での遺骨収容作業、右下：地下壕の内部
厚生労働省ホームページから転載



硫黄島に残された海軍砲台跡 防衛省ホームページから転載



硫黄島に残されたアメリカ軍の戦車(M4中戦車シャーマン)
防衛省ホームページから転載



上段：硫黄島で戦病死された松崎壽吉さんの千人針

下段：伊藤嘉兵衛さん関係資料 編み上げ靴、水筒、雑のう

【体験談—幹部の中におったので、もうすでに日本が負けることは知っていました。】

Nさん（高島市）

乗っていた艦が撃沈された後、Nさんはラバウルで南東方面艦隊の司令長官付きになりました。

私は、司令長官付きになりまして、敵が上陸して

きた場合に大砲でどう応戦するか作戦会議に参加していました。けど、その頃(昭和19年(1944年)12月頃、司令長官の)草鹿中将は風呂には入りながら、「もうダメだよ。僕はもう戦犯でオーストラリアかアメリカに連れて行かれるだろうが、おまえはとにかく身体を大事にして生きて帰れ」と、そのような意味の話をされました。

終戦の玉音放送を聞いたときは、やっぱりかと思いました。草鹿中将に聞くまでもなく、わたしも幹部の中におったので、日本からの情報は聞いて、もうすでに負けることは知っていました。しかし、そんな顔をしたら軍規が衰えてしまうので、普通の顔をしてました。しかし、日本の状況が、刻々と分かるということは悲しい時間でした。毎日攻めてくる飛行機よりも、その気持ちとの戦いの方がつらかった。

(昭和)20年8月に戦争が終わって、10月にもう私ら大砲関係をやってたもんは、捕虜収容所に収監されまして、21年の5月までラバウルの収容所に捕虜としていました。収容所では、サツマイモを作らされて、私らの食事はサツマイモばかりでした。でも、とにかく食べられたらいいと思っていました。仕事は、沈んだ軍艦の引き揚げ作業を毎日してました。陸軍の戦犯で来ている兵隊さんらは、戦争中に日本軍にやられた向こうの兵隊の遺体を掘り起こす作業をしている人もありました。労働は厳しいもので、歩くのがノロイとか言われて、毎日たたかれるんです。



海軍の履歴表 (Nさんのもの)

陸軍軍人が所持していた軍隊手帳に対して、海軍軍人の軍歴などを記録して、各人が所持していたのが履歴表です。

履歴表には「戦陣訓」などが書かれたページはありません。

【体験談一敵の船が「早くこっちに逃げて来なさい」と言うんです。】 佐藤 保 さん(大津市)

(敵は)飛行機からビラをいっぱい撒くんですよ。そのビラにね、いろいろ書いてあるんです。「帝国海軍は君たちを救いにくると思いますか？ 君たちはネズミ、草木を食べて、永久に生きられると思いますか？ 君たちは餓死したら日本軍は勝つと思いますか？ 君たちの現在の苦しみを内地の人は知っているでしょうか？ 餓死を戦死と偽られ、君たちは満足して死にますか？ 君たちの親兄妹は餓死と聞いてどう思うでしょう？ 君たちの親兄妹は内地を出るとき、口では死んで帰れといいますが、心から君たちが死ぬことを願っているでしょうか？ 神風はなぜ吹かないのでしょうか。」(昭和)19年頃に撒かれたビラです。19年の3月19日にもすごい艦砲射撃を受けて、その後すぐだったと思いますよ。

それとね、アドック船というのがあってね、アドックというのはね、島民の言葉でね、「こっちに来い」という意味なんです。それがね、200トンぐらいの船でね、ずっと来るんですよ。その船からね、拡声器で蘇州夜曲、私達が若い頃によく歌った歌です。それをジャンジャン、ジャンジャンかけながら来るんです。そうしてね、その歌が終わるとね、こういう大きな拡声器で「本船は皆様方を救助に参りました」。これは、もうそのまま覚えてますが、「皆様方の戦友は、米軍の手厚い保護に恵まれております。この機会を見逃したら、皆様方は島で餓死することになりますから、早くこっちに逃げて来なさい」。「早く、来いよ～」と言うんです。だから、僕らは、その船をアドック船と呼んでたんです。

その船にね、みんな逃げて行くんですよ。軍属ね、それと陸軍が多かったですよ。海軍でも行った人がいます。でも陸軍の方が多いです。軍属は兵隊じゃないんだから逃げてもいいと思います。「どうせ死ぬんだから、なんか旨いものを食べさせてもらおう」と、それで逃げていくんです。それで「逃げてく者は撃て」、敵前逃亡ということになるんだね。戦陣訓というのがあるんですが、その中にね「生きて敵の辱めを受けることなかれ」、捕虜にはなるな、捕虜になったら死ぬ、ということをやっている。それで、とにかく逃げて行く者は撃てというわけですよ。

だけど、やっぱり鉄砲で狙ってもね、それは絶対撃てないですよ。親兄妹がおるね、奥さんや子どもがおるかもしれない。そういうことが頭をよぎるでしょ。そしたら、やっぱりね、撃ってもね。それに、弾はやっぱり節約しなけりゃ、いつ敵が上がりてくるかわからんから、なるべく撃ちたくないし、撃つても、なるべく横を撃つようにね。みんなそうしてた。

【体験談—飛行機が撒いたピラで、大都会が焼け野原になった写真を見て、日本は負けたんやなと思った。】

黒川 増吉 さん (甲賀市)

昭和20年(1945年)、日本が無条件降伏という電報が内地から入って、(ラバウル守備隊の)今村大將から、「君たちは、今まで気張ってやってくれたけど、日本は無条件降伏やと。武器を捨てて、もうじき豪州(オーストラリア)軍が上がって来るから、抵抗せんとおとなしく武装解除をせないかん。」という訓辞があったんですね。けど、私ら本当にしやしませんにやわ。ほんなもん、日本は負けえへんて。ラバウルだけでもやろか言うて、青年の若い将校が張り切っと一るんですね、まだ。

ほんで、飛行機が飛んできて、今度は爆弾落としよらへんにやわ。ピラ撒きよるんですね。捨てきたらね、「日本無条件降伏。ラバウルの将兵は速やかに武器を捨てて、降伏せよ」と書いたある。こんな馬鹿なことないと思ってたんよ。日本は負けてえへんと言うてた。

あくる日になったら、また飛行機がピラ撒きよるで、捨てみたら、今度は、東京、大阪、静岡、沼津から名古屋から大都会が焼け野原になった一る写真が載せてあるんですよ。もう、それ見たらガクンと来てね、これで日本は負けたんやなと思った。ピラ見て。写真が載ってますにや。



伝単6点(敵の飛行機が撒いたピラ)

太平洋戦争では「伝単」と呼ばれるピラを飛行機から撒いて、敵側の戦意を失わせる作戦を互に行いました。

【体験談—一家に帰るまで、音信不通。家族は戦死したと思てたそうや。】 伊藤 嘉兵衛 さん(高島市)

ソロモン、ガダルカナルの海戦で日本が負けて、空見ても日本の飛行機は一機も通らへん。こらあ、あかんなあ、と思いました。早ように、もう負けるなあと思てました。せやけど、無線がこわれてて、日本が負けたという大本營の発表を知らんかったんや。毎日のように爆撃があったのに、(昭和20年(1945年))8月15日からピタッとうななって、9月2日かいなあ、無線が直って日本が負けたちゅうのを知ったんや。

それから、えらいこっちゃなあ、とにかく食べるもん困った。3度の食事に芋の葉と油揚げみたいなのを2切れ、3切れ食べて。そうこうしてたら、9月15日頃に、オランダ軍が出て来よってな。武装解除や。大砲やら鉄砲やらをみんな広場に並べて、剣もなにもかも、ズラッと並べて、それを船に積んで、沖まで持って行って、ここに放せて言いよるさかいに、ドッポ〜ン、ドッポ〜ンと放した。ほして、それから捕虜生活や。囲いのなかに入れられた。基地の中にそれを建てて、オランダの将校の家はお造らんならんし、道路はひかんならんし。そらあ、もう忙しい、忙しい。オランダ人は使役に300名、400名出せ、言いよる。初めはな、知らんさかいに前の方に並びまっしゃろ。ほうしたら、「1番から30人こっち来い」言われて、前に並んでるもんから、えらい(しんどい)仕事をさせられる。あ〜、こりや〜あかん、こんなとこに並んでたら、体がもたん、と思てな。整列のときに、しんがりに向かって走るんですね。

楽な仕事は、どういう仕事かと言いますとな、オランダの将校は、なんと嫁さん連れてなあ、小さい家を建ててもろてなあ、生活してるんですね。ほとん、しんがりに並んでるもんはお前はここの家へ行け、言われて、洗濯したり掃除するんですね。それに、食事の残飯を飯ごうに入れて、持って帰れるのが何よりうれしかったな。仲間と一緒に食べたら、うまいと言って大喜びや。反対に一番イヤやったのは、慣れん仕事で、ちょっと休憩したらオランダの兵隊にバ〜ンと棒でどつかれるんですね。

食糧は、捕虜になってからは、グッとようになった。牛肉の缶詰でも、1週間に一度、2人で1缶出たりし

てけっこうええもんもあたりましたわ。

日本に帰れるようになったんは、(昭和) 21年の6月21日。家に帰るまで、音信不通。家族は戦死したと思ってたそうや。

【体験談—日本に帰るとき、戦犯かどうかの首実検がありました。】

Mさん(大津市)

Mさんはニューギニアで終戦を迎えました。

終戦の時、生き残ってたのは9名でした。(昭和20年(1945年))8月15日、「今日はちょっと爆弾を落とすよらへんなあ。」と言うてたんです。飛行機が飛んできて、爆弾を落とさないんです。バァ〜とビラをまきました。拾って読んでみたら、「日本軍、全面降伏した。命は保障する。」と書いてあった。せやけど始めのうちは「あかん、殺される、出んところ」言うて、出ませんでした。それでも、3回、4回飛行機が飛んできて、終いには拡声器で「日本は全面降伏した。命は保障するから出てきなさい。」と日本語で言うてきた。それで、「海岸まで出ていこか」と互いに話し合って、ボツボツ出ていったんですわ。「あ〜、負けて良かった。これでいねる(帰れる)。」と思いましたね。

出ていったら、日本人が200名ほどいましたね。みんな互いに隠れてたから、近くにいてもわからなかった。日本に帰れると思たら、みんなどこからか出てきて、集まったら200名ほどおった。それから、毎日農園の使役をやらされた。

(昭和)21年の5月に、突然「帰れるぞ」というニュースが入った。しかし、日本に帰るときに、戦犯かどうかの面通しがあった。ニューギニア人とオランダ軍が首実検するんです。その側にはブラックとホワイトの幕舎があって、現地の人間を殴った、殺したと言われたら、戦犯ということで黒い幕舎に入れられてどこかに連れていかれる。ホワイトの幕舎に入れられたら、無事日本に帰れる。もう、帰る間際にそれをやられて、分けられるんです。数は少ないけど、やっと帰れると思ったのに、それで引かかって戦犯になった人もいる。

21年の5月、こうこうと光を放って、日本の船が迎えにきました。その時の嬉しいこと。涙がポロポロ出たなあ。これで「もう死なんですむ」と思ったなあ。

21年6月17、18日頃に名古屋に上陸しました。一緒にいた9名は、その後も次々と死んでいって、日本の土を踏めたのは、その内の6名だけでした。家族はもう死んでいると思ってたそうです。何遍も白い着物を着て、僕が家内(妻)の枕元に立ったそうです。

【体験談—終戦の時に掌返して、「私らひどいことされた」言うてな。】

黒川 増吉 さん(甲賀市)

日本が勝ってる時はね、(島の人は)友好だったんです。「ジャパーン、ソルジャーナンバー1」言うてね。「もしもし、カメよ、カメさんよ、」「しろじにあかく、ひのまるそめて」て、先に宣撫班が行ってね、教育しときよる。私らが上陸した時にね、日の丸の旗振ってね、歌うたって、「ジャパーン、ジャパーン、ナンバー1」言うてね、迎えてくれました。そやけど、もう、日本人はな、良いところは良いんやけど、悪いとなると何するや分からんでな。部落へ入って鶏やら豚やらね。ほて、椰子の木、実取るだけやなよいけど、根から切るんですよ。日本人は最後になったら何でもするさかいに、あれがいかんわ。椰子の木は(地元の人には)1本植えて尊いもんらしいな、必要なもんらしい。それをな、実取ってしもてよ、下から切り倒して、芯の軸がね、タケノコぐらいの軟らかさのものがあるんですよ、それを食ってしまうんやから。豚やらも鉄砲で撃って食ったり、鶏やらも食ったり、そういう事をするで、段々敵性になんて行きてよるわけやな。ほんで殺された人もいやはるわ。

ラバウルにインドネシアの捕虜も、ようけ来てましたわ。それを第一線で使役に使わんならんで。船が着いたら、弾薬やら糧秣やら荷揚げをせんならんで、皆そいつらにさせた。どんと来てましたわ。終戦の時に、がらりと掌返して、「私らひどいことされた」言うてな。私らは、おとなしいゆうのか、甲斐性なかったゆうのか、ひどいことしとかなんだけど、中にはね、ひどい事しよったやつがおったですわ。そのインドネシアの捕虜を使うのに、ひどいことをね。「そんな可哀想なこと、せんとけえ」て、私らも言うたけどな。「いや、これぐらいせな動きよらへん」言うてな。そんなん覚えとーるのやわ。終戦になって、武装解除して、収容所へ送られる時に、皆首実

検しよるのやわな。ひどいやつは、みんな引き抜かれよる。わしらは、そんな事ようせなんだ。わしらは、まだ止めてた方やった。

トロトロ、トロトロやっというにや。殴るぐらいは殴ったけど。ひどい事しよるやつがおった。椰子の木に括ってな、足の上にロウソク点けてな。そういうやつは、みんな覚えと一るな。ちゃんとネームまで覚えと一るわ。並ばしてな、みんな引っこ抜かれよる。私らでも、なんぼビクビクしたや、わからんな。そういうやつは戦犯で残りよった。

【体験談—帰国する船の中でも、毎日5人、6人と死んでいきました。】 K Sさん(東近江市)
K Sさんは、南方の島で終戦を迎えました。

敵機が、「日本降伏」のチラシを撒きました。「武器を捨て、島の高地へ集まれ」というものです。皆は信用しませんでした。ラバウルから無線が入り、敗戦を知りました。

9月に入ってから、オーストラリア軍が上陸してきました。彼らに時計その他、金目のものはすべて取られてしまいました。

(昭和)21年2月に、迎いの船がきました。最初は病院船でした。私は、次に来た船に乗りました。日本まで直行で15日間でした。けれども、その間も毎日5人、6人と死んで行きました。

死人が出ると毛布にくるみ、乾パンをのせて海に沈めました。日本の陸地が見えるようになってからも、死者が出ました。人間として最低の環境であり、最低の暮らしをしてきたのでした。

【体験談—「お帰りなさい」と言われて、みんな声上げて泣きましたね。】 佐藤 保さん(大津市)

勝つとか負けるとか、そういうことは余り考えなかった。負けるとは思いたくなかった。だから終戦の日までわからなかった。(広島・長崎への)原爆(投下)は知らなかったけど、負けると思いたくないというのが、本当じゃないかと。だから(悪い)情報は自分で打ち消してるみたいだね。

結局、無線でね。(マーシャル諸島の)ミレー島でもって、戦争が終わったということが無線で入ってきました。私たちが敗戦を知ったのは、(昭和20年

8月)16日でした。15日に玉音放送があったということ。16日の無線で聞きました。「ああ、戦争が終わったかあ」という気持ちでしたね。

けど、まだその時は生きて帰れるとは思わなかった。アメリカがやって来たら、何するか判らないと思っていました。結局ね、アメリカの兵隊が上陸してきてね、食料をくれたりね、いろいろ世話してくれました。それと、兵器、銃とか機関銃とか、そういうのを全部持ってね。兵隊が処分するようにな。それをみんな海に廃棄したわけなんです。それで、大砲なんかは、今だにそのまま残ったりしてますけどね。

それでね、氷川丸が来たのはね、(昭和)20年の9月27日です。終戦のときにはね、まだ松葉杖を突いてたかね。それで帰ってきて、10月の7日に浦賀(神奈川県)に上陸したんです。

「俺たちは負けたんだ」という頭があるでしょ。内地の人たちに申し訳ないという気持ちがあるでしょ。だから、何を言われても仕方がないと思って、帰って来たんです。それでケガした者は、先にその日に船から上がったんです。それで、ケガしてないもんは、明くる日に上がる。だから、ケガしてる私達は一番先に上がったんです。そしたらね、大日本国防婦人会の人たちがね、泣きながら「お帰りなさい」と言ってくれたんです。ほんとうにね、みんなね、声上げて泣きましたね。

【体験談—あんまり悲しい、可哀想な死に方やったんで、お祖母さんに言えなんだ。】

安藤 良枝さん(高島市)
昭和19年(1944年)11月にニューギニアで亡くなられたお父さんの葬式が行われたのは、昭和24年だったそうです。

父親は昭和19年11月11日に戦(病)死しました。父親の上官に当たる人が「安藤太良の小指の骨」と書いた箱を送ってくれた。お祖母さんは「こんなもん、何の骨かわかれへん。あいつは死んどらへん、お前、行って調べてこい」と母親に言うて、聞かへらへんかったそうです。ほんで、母親は毎日弁当をこしらえて、父親の消息を尋ねてまわらしました。ほんで、尋ねて、尋ねて、何ヶ月かたって、

とうとう（京都の）北白川に住んではるTさんという隊長さんの所へ行って、父親の最後を聞いてきたんです。お母さんは「もう、あんまり悲しい、可哀想な死に方やったんで、帰ってきてお祖母さんに言えなんだ」と後になって言いました。

目的も知らされへんまま、とにかくジャングルの中を歩け、歩け、やったそうです。ほんで、もうとにかく食べるものがなかったそうです。父は、ここにいる当時から胃腸がもう一つ丈夫でない人で、夏になるとげっそり夏痩せしやはるような体質の人やった。ニューギニアみたいな暑いところに配属されたから、早い間にあかんようになったんかなあ、と思います。まあ、言うたら餓死ですね。それとマラリア。食べるもんはないし、薬はないし、体力は消耗してくるし、もう、死ななしょうない。そういう話は、母親から聞きました。私が子供の頃から、折りにふれて言うてはったから。

戦死の公報はいつ来たのか、私は全然知りません。駅へお骨を取りに行ったのは覚えてるけど、それが悲しいということは何もなかった。葬式は（昭和）24年やったから、村葬ではなくて家でやりました。



父に届かなかった写真（安藤さん母娘）

安藤良枝さんのお父さん（太良さん）は、良枝さんが生まれる一週間前の昭和18年9月12日に入営されました。

お母さんは母・娘の写真を撮影して送ったのですが、船が出た

あとで間に合わず、写真は戻ってきてしまいました。

お父さんは昭和19年11月にニューギニアで戦死され、娘の写真を見ることはできませんでした。

南洋の島々の現在

第二次世界大戦（太平洋戦争）終結後、国際連盟の委任統治制度は、国際連合の信託統治制度に引き継がれます。かつて日本が統治し、昭和19年（1944年）からアメリカが占領していた南洋群島は、昭和22年から太平洋諸島信託統治領としてアメリカが統治することになりました。アメリカが昭和21～33年の間に23回もの核実験を行ったことで知られているビキニ環礁も、この信託統治領に含まれるマーシャル諸島の島です。

太平洋諸島信託統治領の島々は、自治政府の発足などを経て、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国が独立国となりました。一方、サイパン島などの北マリアナ諸島は現在、アメリカ合衆国領です。

終戦から長い歳月が経過した現在ですが、パラオでは沈没した日本の輸送船に残された爆雷が劣化して火薬が漏れ出し、海洋を汚染するといった問題が発生したり、ミクロネシア連邦のチューク州（かつてのトラック島付近）において、沈没した旧日本軍の軍艦からの油漏れによる海洋汚染が発生しています（※日本地雷処理を支援する会（JMAS）のホームページによる）。

かつての戦争の負の遺産は、今も現地に暗い影を落としているのです。

【体験談—伝えたいのは、戦争の恐ろしさを知っているかということや。】 Hさん（守山市）
テナアン島での戦闘を体験したHさんが、後世に伝えたいメッセージです。

火薬をもって、殺傷して戦場で勝ち負けを決める。それが鉄鋼戦や。あんなんはもう、大東亜戦争（太平洋戦争）で終わりや。私はそう思います。（今では）もう、ロケット弾やらで戦争してますやろ。鉄鋼戦での戦争はもうないやろ。

戦争はしてはいけない。そろそろ、今日の命を明日に延ばすのは、並大抵のことやない。どこでどう

なって死ぬやわからん。ジャングルに入って、ミシミシゆうたら、前に死んだ人。死んで間のない死骸やと、ワァーッと、ハエがたかっている。(そういう光景を) 忘れられへん。

言葉のはき違えて戦争ちゆうのは起こるんや。勝てるつもりでいても、勝てへん時もあるねん。(後世の人に伝えたいのは、) 長い間平和なので、戦争の恐ろしさを知ってるのかということや。若い子や子供が、戦争物のマンガやいろいろ見てまっしゃろ。果たしてこの子たちは、戦争の恐ろしさゆうもんを認識するやろか思いますねや。人を殺すゆうことはどんなことやろ、と考えます。

【体験談—お父さんへの手紙をサイパンの海に流しました。】

○さん(東近江市)

主人に召集令状が来たのは、忘れもしません、昭和18年(1943年)12月27日のことです。私たちは野良で草むしりをしていたのです。家で留守番をしていたおばあさんが、「今、村長さんが持ってきやあった」と令状を届けにきたのです。臨時召集令状です。私は、それこそひっくり返るくらいに驚きました。

その頃には、若い人からどんどん兵隊に取られて行かれるし、主人は村役場の兵事係の人から、「今度はお前も行かんならんぞ」と言われては、いました。だから、もちろん覚悟はしていましたが、でも実際に令状を受け取った時には、ビックリしました。そのとき、お腹に4人目の子どもがいて産み月にかかっていた。

戦死の通知は、サイパン玉砕から半年ほどして来ました。村長さんが持って来てくれました。それはそれは、びっくりしました。覚悟してはいましたが、さて、どんなことで戦死したのか、何もはっきりしたことは分かっていません。お骨も戻ってないし、何もないので頼りないものでした。(昭和47年にグアム島から帰還した)横井(庄一)さんのように、「いつか、ひよこっと帰らはるのと違うかしらん」と思いました。

けれど、たちまち、田んぼをせんならんし、4人の子どものも育てんならん。私は、朝の4時から苗取りに行き、そしてまた、よその家の田植えに行っ

たり、田刈りも手伝ったりして働きに働きました。

子どもも孫もみんな大きくなって、曾孫も3人います。みんな同じ屋根の下で暮らさせて貰えるなんて、有り難いなあとと思っています。けど、悲しかったことが薄らぐことはありません。主人も、もう一ぺん生まれたこの土が踏みたかったやろうなあと、思っています。

平成8年(1996年)11月に、サイパンへの戦跡巡拝・慰霊の旅がありましたが、私も行けんし長男も用事があるって、代わりに嫁が参加してくれました。そのとき、私の言葉を持って行って、サイパンの海に流してくれました。



パラオのペリリュー島にある西太平洋戦没者の碑

○さんがサイパンの海へ流した手紙の文面です

おとうさんへ

おとうさんとお別れしてからの年月のたつ早さ、五十年を越えてしまいました。九歳を頭に四人の子供とおばあさん、私と六人で何とか頑張ってきました。長男も六十歳の坂を越え、四人の子供達皆それぞれ、カ一杯頑張っております。

私もおかげ様で八十三歳になり、毎日畑仕事やゲートボールに精を出しております。残り少ない人生を、おとうさんの分まで、元気で楽しく過ごして行きたいと思っています。今日は、長男の嫁が私のかわりにと、はるばる日本を離れ、お参りにきてくれました。

では、さようなら。

●●より

第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」展示資料一覧表

展示資料番号	資料名	点数	資料説明	提供者名
第1章 太平洋戦争開戦までの南洋群島				
1	『尋常小学国語読本』巻九	1	大正10年(1921年)発行	個人
2	平和記念東京博覧会の絵ハガキ	2		田村 芳江さん
3	『実業 新撰地理 外国篇修正版』	1	昭和15年(1940年)発行	個人
4	『冒険ダン吉』(全4巻)	4	昭和51年(1976年)の復刻版	個人
5	大東亜共栄圏地図	1	昭和16年(1941年)発行	個人
第2章 南方への進軍と転進				
6	陸軍の軍服(上・下)	1		中西 一雄さん
7	戦闘帽	1		中西 一雄さん
8	肩掛けカバン	1		中西 一雄さん
9	大東亜戦争(太平洋戦争)開戦詔書の掛軸	1		木村 高広さん
10	簡易テント	1		中西 一雄さん
11	上陸作戦に使用した浮き袋	1		中西 一雄さん
12	ヤシの実で自作したタバコ入れ	1	黒川増吉さん関係資料	黒川 増吉さん
13	軍刀のさや入れ	1	黒川増吉さん関係資料	黒川 増吉さん
14	戦地から送ったハガキ	1	黒川増吉さん関係資料	黒川 増吉さん
15	事実証明書のコピー	1	黒川増吉さん関係資料	黒川 増吉さん
16	ニューブリテン島全図・ラバウル近傍図	1	黒川増吉さん関係資料	黒川 増吉さん
17	昭和17年のダイアリー	1	川副岩之助さん関係資料	川副 宇八さん
18	海軍の履歴表	1	川副岩之助さん関係資料	川副 宇八さん
19	懐中時計(裏面に「賞 海軍大臣」の文字あり)	1	川副岩之助さん関係資料	川副 宇八さん
20	海軍軍帽	1	川副岩之助さん関係資料	川副 宇八さん
21	飛行服	1		個人
22	「飛行機発達図」	1	高橋亮一さんが昭和11年(1936年)に書いたもの	高橋 正さん
23	放送ニュース聴取用地図	1		滋賀県
24	ゴーグル(ケース付き)	1	川副岩之助さん関係資料	川副 宇八さん
25	「ラバウル小唄」の歌詞	1		中西 一雄さん
26	海軍軍帽・ベルト	2	北林利男さん関係資料	北林 利男さん
27	身体歴	1	北林利男さん関係資料	北林 利男さん
28	被服物品交付表	1	北林利男さん関係資料	北林 利男さん
29	あっせん状	1	北林利男さん関係資料	北林 利男さん
30	サスペンダー	1	塚本繁一さん関係資料	個人
31	軍隊手帳	1	塚本繁一さん関係資料	個人
32	襟カラー	2	塚本繁一さん関係資料	個人
33	写真(塚本繁一さんは後列左から2人目)	1	塚本繁一さん関係資料	個人
34	死亡通報	1	塚本繁一さん関係資料	個人

35	軍服（上・下）	1	塚本繁一さん関係資料	個人
36	出征幟	2	勝見益治郎さん関係資料	勝見 一恵さん
37	勝見益治郎さんからのハガキ	2	勝見益治郎さん関係資料	勝見 一恵さん
38	勝見益治郎さんの戦病死の様子を伝える手紙	1	勝見益治郎さん関係資料	勝見 一恵さん
39	中村甚平さんの写真	1		雁瀬 久子さん
40	中村甚平さんが南方へ移動する際に、妻わきさんに送った手紙	1		雁瀬 久子さん
第3章 戦場となった南洋群島				
41	『戦陣訓読本』	1	昭和16年（1941年）発行	川嶋 清道さん
42	軍隊手帳（戦陣訓が書かれたページ）	1	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
43	絵ハガキ「アッツ島玉砕」	1	画：藤田嗣治	田村 芳江さん
44	駒井宇之助さんの葬儀での滋賀県知事の弔辞	1	駒井宇之助さん関係資料	駒井 まきさん
45	駒井宇之助さんの葬儀での児童総代の弔辞	1	駒井宇之助さん関係資料	駒井 まきさん
46	駒井宇之助さんから娘の文子さんへの手紙	2	駒井宇之助さん関係資料	駒井 まきさん
47	駒井宇之助さんの写真（昭和14年5月11日撮影）	1	駒井宇之助さん関係資料	駒井 まきさん
48	疎開先で描いた絵日記	1		坂本 正邦さん
49	神社の御守り	4	土田正忍さん関係資料	土田 廣志さん
50	御守り袋	1	土田正忍さん関係資料	土田 廣志さん
51	パラオで戦病死された土田正忍さんの写真	2	土田正忍さん関係資料	土田 廣志さん
52	財布	1	土田正忍さん関係資料	土田 廣志さん
53	財布の中にあった写真	5	土田正忍さん関係資料	土田 廣志さん
54	海軍の毛布	1	角田與惣治さん関係資料	角田 與惣治さん
第4章 硫黄島玉砕 そして終戦へ				
55	貴口品袋	1	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
56	財布	1	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
57	御守り	2	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
58	鏡	1	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
59	硫黄島への移動前日に書かれたハガキ	1	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
60	松崎壽吉さんの手帳	2	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
61	硫黄島で戦病死された松崎壽吉さんの千人針	1	松崎壽吉さん関係資料	松崎 香苗さん
62	編み上げ靴	1	伊藤嘉兵衛さん関係資料	伊藤 嘉兵衛さん
63	水筒	1	伊藤嘉兵衛さん関係資料	伊藤 嘉兵衛さん
64	雑のう	1	伊藤嘉兵衛さん関係資料	伊藤 嘉兵衛さん
65	海軍の履歴表	1	Nさんのもの	個人
66	伝単	6	敵の飛行機が撒いたピラ	滋賀県
67	父に届かなかった写真	1	安藤さん母娘	安藤 良枝さん

第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」 写真・図表パネル一覧表

章	項	写真・図表タイトル	提供者名	備考
メインタイトル	パネル	パラオで行われた健康乳児審査会での記念撮影	高橋 正則さん	
第1章 太平洋戦争開戦までの南洋群島	パネル	南洋神社前での記念撮影	高橋 正則さん	
		南洋群島主要島図	-	『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会)から転載
		大洋洲(オセアニア)の区画	個人	『実業新撰地理 外国篇 修正版』(昭和15年(1940年)帝国書院発行)から転載
		帝国の膨張	個人	『新選 歴史精図 国史之部』(昭和13年(1938年)帝国書院訂正発行)から転載
		第一次世界大戦でドイツに宣戦布告した際の閣議書	国立公文書館	国立公文書館デジタルアーカイブ「公文書にみる日本のあゆみ」から編集
		主要島の人口分布(昭和10年10月 日現在)	-	『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会)から転載
		南洋群島人口表	-	矢内原忠雄著『南洋群島の研究』(昭和10年(1935年)岩波書店)から転載
		パラオのコロール島に設置された南洋庁	国立国会図書館	『南洋群島写真帖』南洋庁・昭和7年(1932年)(国立国会図書館デジタルコレクションから転載)
		パラオのコロール市街	国立国会図書館	『南洋群島写真帖』南洋庁・昭和7年(1932年)(国立国会図書館デジタルコレクションから転載)
		トラック水曜島新教教会附属幼年団	国立国会図書館	『南洋群島写真帖』南洋庁・昭和7年(1932年)(国立国会図書館デジタルコレクションから転載)
		パラオでもらった健康乳児の寝状	高橋 正則さん	
		昭和6年にパラオで開業した当初の高橋商店	高橋 正則さん	
		高橋さんのお母さんとパラオの人たち	高橋 正則さん	
		高橋さんのお父さんが結婚後にコロールの繁華街に移転した店	高橋 正則さん	
	パネル	日本軍の勢力拡大範囲	当館作成	昭和6年(1931年)から17年(1942年)まで
		小公学校の児童数 昭和10年4月末	-	『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会)から転載
		サイパン公学校でのミシン実習	-	『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会)から転載
		西邑 仁平氏旧蔵文書(一部)	当館撮影	個人蔵、長浜市浅井歴史民俗資料館寄託
		徴兵適齢者	当館撮影	西邑 仁平氏旧蔵文書(個人蔵、長浜市浅井歴史民俗資料館寄託)より
	徴兵旅費算出方依頼の件	当館撮影	西邑 仁平氏旧蔵文書(個人蔵、長浜市浅井歴史民俗資料館寄託)より	
	徴兵旅費算出方依頼の件(再依頼)	当館撮影	西邑 仁平氏旧蔵文書(個人蔵、長浜市浅井歴史民俗資料館寄託)より	
	旧南洋群島全体図	沖縄県教育委員会	『沖縄県史ビジュアル版9 旧南洋群島と沖縄県人』(平成14年(2002年)発行)から転載	
	敵艦日本爆撃路仮想図	個人	『大東亜共栄圏地図』(『家の光』創刊十五周年記念附録(昭和16年(1941年)発行)の一部)	
第2章 南方への進軍と転進		「ハワイ空襲の壮観」	川崎 光作さん	
		「ハワイ海戦 特殊潜航艇攻撃ノ魚雷命中沈没寸前ノ米軍艦」	川崎 光作さん	
		ウエーキ島(アメリカ領)の爆撃	西村 君枝さん	『大東亜戦争 海軍作戦写真記録Ⅰ』大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)から転載
		ガラム島(アメリカ領)占領	西村 君枝さん	『大東亜戦争 海軍作戦写真記録Ⅰ』大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)から転載
		日本軍によるソロモン諸島爆撃(昭和17年2月)	西村 君枝さん	『大東亜戦争 海軍作戦写真記録Ⅰ』大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)から転載
		ソロモン諸島	西村 君枝さん	『大東亜戦争 海軍作戦写真記録Ⅰ』(大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)掲載図に加筆して作成)
		ニューブリテン島ラバウルでの戦闘(昭和17年1月頃)	西村 君枝さん	『大東亜戦争 海軍作戦写真記録Ⅰ』大本営海軍報道部・昭和17年(1942年)から転載
	パネル	ニューブリテン島ラバウルの墓地にて	木村 ますさん	
		ニューブリテン島(バブアニューギニア)のラバウルに残る砲台跡	丹羽 典生さん	
		砲完船の歌	木村 ますさん	
		木村ますさんたちの薫剤についての新聞記事	木村 ますさん	
		ガダルカナル島の野外博物館に展示されている零式艦上戦闘機の残骸	藤井 真一さん	
		ガダルカナル島の野外博物館に展示されている日本軍の大砲	藤井 真一さん	
		ガダルカナル島のホニアラ国際空港(日本軍が建設したルンガ飛行場跡)敷地内に残る日本軍の八八式七擲野戦高射砲	藤井 真一さん	
		ガダルカナル島のホニアラ郊外に残る日本軍車両の残骸と慰霊碑	藤井 真一さん	
		ガダルカナル島の上陸作戦にアメリカ軍が使った水陸両用装軌(キャタピラー)車	藤井 真一さん	
		フィジー諸島(当時、イギリス領)に残る砲台跡	丹羽 典生さん	
	ミレー島周辺の地図	-	『南洋群島島勢調査書』(南洋庁、昭和12年(1937年)発行)の附図を改変	
	佐藤保さんが描いた中部太平洋の地図	佐藤 保さん		

第3章 戦場となった 南洋群島		佐藤保さんが描いたミレー島の地図	佐藤 保さん	
		ミレー島	-	『南洋群島島勢調査書』(南洋庁、昭和12年(1937年)発行) 附図から転載
		トラック諸島図	-	『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会) 掲載図を改変
	バナー	サイパン島のLast Command Post (最後の司令部跡)	森 亜紀子さん	
		駒井宇之助さんと文子さんたち	駒井 まきさん	昭和14年(1939年)5月11日撮影
		内藤貞七さんの次兄、保さんの遺書	内藤 貞七さん	
		内藤貞七さんの次兄、保さんの戦死の内報	内藤 貞七さん	
		サイパン島及びテニアン島・ロタ島	-	『南洋群島島勢調査書』(南洋庁、昭和12年(1937年)発行) 附図に加筆
		テニアン島などで製糖業を行った「南洋興発株式会社」の跡地(2枚)	森 亜紀子さん	
		南洋興発株式会社テニアン製糖工場	国立国会図書館	『南洋群島写真帖』南洋庁・昭和7年(1932年)(国立国会図書館デジタルコレクションから転載)
		敬甲貯金の呼びかけ	当館撮影	滋賀県立公文書館保管(昭-こ-368 3-6)
		「全国の会員に檄す」	当館撮影	滋賀県立公文書館保管(昭-こ-368 3-6)
		南洋群島地図	-	矢内原忠雄著『南洋群島の研究』(昭和10年(1935年)岩波書店)から転載
		高橋さんのお父さんが出征前に撮影した最後の家族写真	高橋 正則さん	
		パラオ諸島図	-	『南洋群島教育史』(昭和13年(1938年)南洋群島教育会) 掲載図を改変
	パラオでの遺骨収容作業①・②	厚生労働省		
	南洋群島/パラオ島からの未帰還者に関する調査書類	当館撮影	滋賀県立公文書館保管(昭-18-294-464)	
第4章 硫黄島玉砕 そして終戦へ		テニアン島の原爆ピット	森 亜紀子さん	
		硫黄島	厚生労働省	厚生労働省ホームページ掲載の「令和5年度日米戦没者合同慰霊追悼顕彰式及び天山硫黄島戦没者慰霊追悼顕彰式(結果概要)」の図を一部改変
	バナー	硫黄島 ①硫黄島の摺鉢山 ②摺鉢山山頂から南海岸を望む ③地下壕での遺骨収容作業 ④地下壕の内部	海上自衛隊 ・ 厚生労働省	①海上自衛隊ホームページから転載 (https://www.mod.go.jp/msdf/mf/04it/04iwo.html) ②海上自衛隊厚木航空基地ホームページから転載 (https://www.mod.go.jp/msdf/atsugi/topics/index_2.html) ③厚生労働省ホームページから転載 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000205722_00030.html) ④厚生労働省ホームページから転載 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000205722_00032.html)
		硫黄島に残された海軍砲台跡	防衛省	防衛省ホームページから転載 (https://www.mod.go.jp/nda/obara dai/boudaitimes/btrns200701/teikun/iou/i_ouphoto200701.htm)
		硫黄島に残されたアメリカ軍の戦車(M4中戦車シャーマン)	防衛省	防衛省ホームページから転載 (https://www.mod.go.jp/nda/obara dai/boudaitimes/btrns200701/teikun/iou/i_ouphoto200701.htm)
		パラオのペリリュー島にある西太平洋戦没者の碑	厚生労働省	

戦時下の滋賀県民とスポーツ

(会期：令和7年1月8日～6月22日)



第11回明治神宮国民体育大会の開会式 (昭和15年(1940年)撮影)

ごあいさつ

明治時代以降、日本人は西洋発祥の様々なスポーツを知り、学校での授業やクラブ活動を通じて体力向上に役立ててきました。太平洋戦争が始まると、日本伝統の武道が奨励される一方で、スポーツの全国大会開催などに対する規制が強まり、さらには食糧増産のために運動場が畑になるなど、スポーツどころではない状況になっていきます。

今回の企画展示では、滋賀県民とスポーツとの関わりについて、昭和初期から昭和20年(1945年)の終戦までの15年にわたる戦争の期間中を中心に、滋賀県平和祈念館が長年にわたって収集してきた関係者の体験談や関連資料などで紹介します。展示を通して、我々がスポーツを楽しむことができる平和の大切さについて思いを深めていただき、今年秋に滋賀県で開催される国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会を、多くの方に応援していただくきっかけになればと思います。

なお、今回の企画展示開催にあたりまして、多くの方々から貴重な資料や写真の提供をいただきましたことに深くお礼申し上げます。

令和7年(2025年)1月8日

滋賀県平和祈念館

第1章 昭和初期のスポーツ



パネル写真：昭和初期のさまざまな学生スポーツ

昭和初期のスポーツ

明治時代に欧米から様々なスポーツが、日本に伝来しました。特に師範学校、旧制中学校、高等女学校、実業学校などでは、教育の一環として各種のスポーツが推奨され、体育の授業以外にクラブ活動としても行われるようになりました。

大正9年(1920年)にベルギーのアントワープで開催されたオリンピックにおいて、日本史上初のメダルを獲得したのが硬式テニスであったように、現代の我々が想像する以上に、大正時代から昭和初期にかけての日本では、学生・生徒たちを中心として、さまざまなスポーツが活発に行われていました。その様子は、当時の学校の卒業アルバムや同窓会誌などによって、うかがい知ることができます。

しかしながら、学校を卒業してからも競技スポーツを続けられる環境にあった選手はごくわずかであり、全国大会などに出場できるような競技人口は限られたものでした。



県下女子中等学校競技会

(大正14年(1925年)撮影、会場：県立長浜高等女学校)



上：県下高女連合競技会 下：運動会風景(ダンス)

昭和4年(1929年)度～6年(1931年)度ころ
『長浜北高百年史』(平成23年(2011年)発行)から転載

【体験談—彦根の女学校は強かったですよ。】

Tさん(東近江市)

県立の彦根の(高等)女学校で。彦女ちゅうたですけどね。で、こっから彦根まで通ってたわけなんです。卒業が(昭和)17年(1942年)ですぞね。5年制でしたのやわ。彦根と大津の女学校だけがね。あと(の女学校)は皆4年制でしたけどね。

私は短距離とハイジャン(走り高跳び)とやっておりました。100メートル。ほの時分は400(メートル)でもう、おなご(女子)でやったらね、中距離になります。800(メートル)ちゅうのがありましたと思いますけど。今みたいにそんな1万(メートル)や5千(メートル)やたら、そんなんはね、その当時は全然なかったように記憶してますけどね。

県下大会ちゅうのがね、今みたいにあっちやらこっちで、そんなにいくあれもないんですけど、長浜

へ行ったり、大津行ったりね。大会には行ったりしてました。今みたいに高校みたいに、たくさんはありやしません。そら、もう数える程しかないですけどね。そら、皆が寄って、大会、県下大会ちゅうのでしたけどね。

彦根の女学校は強かったですよ。ほの時分でも。うん。いろんな科目がね、あるのでも、私も5年行ってる間に、全科目優勝ちゅう時もありましたね。大会はやはりその地区、彦根やったら彦根のグラウンドであります。テニスやとか、各皆、分かれてね。バスケット（ボール）やら室内ですけどね。

（大会は）最後まで、私5年生まで、あったかなと思いますけどね。私の記憶するのに。うん。彦根の今いう、野球場になったりしてる市民運動場（現在の彦根総合スポーツ公園）ちゅうのですかな、あっころへんが、あんなきれいやなかったですけど、ああいうところにも行って、しましたけどね。5年間確かにあった、最後まであったとは思いますが。私らの時まででは、まあ5年間まともに、ずーっと授業受けましたしね。



彦根高等女学校の卒業アルバムに紹介されている運動部



滋賀県立八日市中学校校友会規定

八日市中学校の『生徒心得』には剣道部などの運動部があったことが書かれています。



左上：八日市中学校の生徒心得

左下：滋賀県体育協会競技章

競技章（バッジ）に描かれているのは、天照大神が隠れている天岩戸を開こうとする神話の場面で、戦前・戦時中に多く使用された図柄です。

右：彦根高等女学校の卒業アルバム

昭和15年：皇紀2600年

【体験談—私は彦女で弓道をやりました。】

古川 みす さん（豊郷町）

昭和5年（1930年）に、彦女（彦根高等女学校）を卒業しまして、2年間専攻科へ行きまして、それからここへ嫁いで来ました。

あの当時からクラブ活動もありましてね、バレー（ボール）もバスケット（ボール）もありました。ちょっと今ではありませんけど、長刀とか、弓道とかね、陸上もありました。私は弓道をやりました。

（小学校）5年生、6年生ぐらいに病気もしましたので、家族と相談しまして、激しいクラブもなんやし、ということで入りました。

大会に出るといふところまでは、まだできませんでした。テニス部なんかは、よく出てました。優勝も

何回もしていました。高女（高等女学校）だけでなく、（そのほかの）女子中等学校も一緒に出る県大会がありました。男子は男子で大会がありました。

【体験談—陸上部で、よう走りまして。】

杉本 智恵子 さん(甲賀市)

尋常高等小学校を6年生で終わって、水口（甲賀市）の高等女学校か。4年間、陸上部でよう走りまして、運動神経抜群で。やっぱりこうして生きていて、幸せにこうして病気ひとつせんとな。お産で入院したぐらい、ちっとも病気せんとな。おかげさんで、陸上で走ってきました。

運動会になると、私が先生の代わりに台の上に乗って。女学校の運動会で脚光を浴びて、ちゅうんやろうか。「杉本さん、杉本さん」と先生の代わりにさせて。それでよう走ったんです。滋賀県では彦根高女(高等女学校)の上杉さんということがいあった。その人が、いつでもスタートで競争して。私がちょっと、よう走ったんかな。彦根は強敵やったわ、学校も大きいしな。上杉、なんちゅう人やったろう、忘れてしもうたけど賢そうな方でしたわ。棒高跳びもしたり。いろいろな思い出がまた蘇るわ。

※『滋賀陸上競技史』(滋賀陸上競技協会 昭和59年)によれば、上杉征子さんという彦根高等女学校の生徒が、昭和11年(1936年)に滋賀県選手権大会の女子200mの部で優勝しておられます(記録31秒8)。この方が杉本さんの証言に出てくる「上杉さん」だとすると、杉本さんは競技人口が限られていた当時において、県内トップクラスのスプリンターだったと言えます。

【体験談—競技会を待ちに待ったものです。】

田中 春枝 さん(彦根市)

※このパネルの内容は、彦根高等女学校(以下「彦女」)出身の田中さんが「戦前の女子陸上競技界の思い出」として、『滋賀県体育協会史』(財団法人滋賀県体育協会、1989年)に掲載された文章から抜粋して作成したものです。

当時は県下女子中等学校体育大会が唯一の競技会で、全校を挙げて待ちに待ったものです。(中略) 昭和10年(1935年)の第2回県体(滋賀県大会)の時、

東伏見宮妃殿下の御下賜金により新調された真紅の大優勝旗をめざして県下約13校350余名の女子は壮快なスポーツ絵巻を繰りひろげたものです。幸いにして苦闘の結果、彦女が真先にその栄誉を獲得したわけです。それから昭和11年、昭和12年と彦女は優勝旗を守りつづけたのですが、他校もなかなか油断ならず、技倆、精神力共にすぐれ、特に大津高女は吉岡隆徳先生の講習を受け猛練習、驚くべき技倆で彦女に迫って来られたこともありましたが、幸いにして我が校が5連覇することが出来ました。

一方、昭和11年から県下陸上選手権大会が大津商業グラウンドで開催され、10種目中7種目まで彦女が選手権をとりましたが、記録はいま一つ不満であったようです。私も400mに出場しましたが力足らず、2着になり残念に思ったことです。それから昭和14年まで出場しました。

県外では京都植物園競技場で行われた西日本女子陸上選手権大会に、彦女からも第5回、第7回と出場しています。



『ながら』第10号(昭和14年1月発行)、第11号(昭和15年11月発行) 大津市高等女学校発行



滋賀県大津市高等女学校平面図

『ながら』第11号（昭和15年発行）に掲載されている平面図には、運動場に「排球（バレーボール）」「庭球（テニス）」「籠球（バスケットボール）」のコートが描かれています。

吉田 信太郎 さん（1923～1945）

吉田さんは八日市中学を卒業後、昭和16年（1941年）に滋賀師範学校（第二部）に入学されました。滋賀師範時代には、昭和17年の明治神宮国民錬成大会に「戦場運動部」の選手として出場しておられます。

海軍の航空兵を志願し、昭和18年9月に滋賀師範を卒業すると第13期海軍専修予備学生として三重海軍航空隊に入隊されました。その後、美保海軍航空隊（鳥取県）、百里原海軍航空隊（茨城県）などに所属しておられましたが、昭和20年4月6日に特別攻撃隊（特攻隊）として鹿児島県の串良基地から出撃することになり、南西諸島で戦死されました。※滋賀師範学校は、昭和18年（1943年）4月に滋賀県師範学校と滋賀県女子師範学校が統合されて発足した学校です。したがって、吉田信太郎さんが入学した時点での学校名は「滋賀県師範学校」で、卒業時には「滋賀師範学校」でした。今回の展示の説明文では「滋賀師範学校」という表記に統一しています。

【体験談—兄は水泳が上手で、スキーも楽しんでいました。】 吉田 亀治郎 さん（東近江市）

後に特攻隊員となった信太郎が長男で、私より一学年年上で、よく遊びました。

兄・信太郎は水泳も、とても上手でした。兄は、吸い上げの冷たい用水池に飛び込み、潜ったまま池

の中を何度も行き来しました。見ているものが思わず「危ないぞー」と叫ぶくらいでした。中学時代、兄が湖岸から多景島（彦根市）まで遠泳したとの話も聞きました。

小学校を上がって、兄は八日市中学校に進学しました。兄は、その頃としては珍しいスキー道具を買って楽しんでいました。油絵もやっていました。その上、文学にも関心を持っていたらしい。いろいろな事に積極的に興味をもち、充実した中学生を送っていたように思います。

（滋賀）師範学校での兄はグライダー部に属していたようですが、詳しいことは知りません。在学中、明治神宮で行われた「第十三回明治神宮国民錬成大会」（昭和17年（1942年）開催）に滋賀師範を代表し、「戦場運動部」の選手として参加しているようです。この時の「選士証」が、今も残っています。



八日市中学校の水泳部員たち



吉田信太郎さんの水泳着（八日市中学時代のもの）、バスケットボールのゴールネット

学資計算簿

昭和10年に彦根高等女学校に入学した田中（旧姓：久保田）春枝さんの金銭出納帳です。水泳着・水泳帽などの購入を記録しています。



来日したカナダチームとのバスケットボールの試合
『時事写真新聞』昭和14年（1939年）7月17日号から転載



第8回極東選手権競技大会に出場した栗太農学校の谷口忠康選手（昭和2年（1927年）8月に上海で撮影、『草津高等学校五十年誌』（昭和45年（1970年）発行）から転載）

中等学校での水泳

昭和初期に滋賀県で強豪として知られていたのは、栗太農学校（現在の草津高等学校の前身）の水泳部でした。大正時代から馬池（現在の草津市矢倉にあった池）に杉の丸太を打ち込んで、飛び込み台と水路をつかったプールで練習していました。

県下中等学校水泳大会は、第1回大会が大正13年（1924年）に開催されていますが、栗太農学校は昭和2年（1927年）の第4回大会で優勝し、このときの中心メンバーだった谷口忠康さんは、昭和2年8月に中国の上海で開催された第8回極東選手権競技大会（参加国は日本、中国、フィリピンの3国）に出場されています。

栗太農学校の活躍によって、同校にプールを建設しようという機運が盛り上がり、昭和3年に完成しました。長さ50メートルで7コースある立派なプールで、県内の学校で初めて造られたプールだったそうです。県下の大会や近畿大会が、このプールで行われるようになりました。

八日市中学校でも、同じ昭和3年に50mプールが完成しています。吉田信太郎さんは、同校の水泳部で活躍された方です。しかし、同校の水泳部はあまり強くなかったようで、目立った戦績はあげられなかったようです。

一方、プールの無い学校では、琵琶湖や海で水練合宿が行われたりしていました。



プール建設前の栗太農学校水泳大会（昭和2年（1927年）撮影）『創立70周年記念』（滋賀県立草津高等学校、平成4年（1992年）発行）から転載

昭和初期における競泳の公認記録



吉田信太郎さんのスキー板・ストック、
滋賀師範学校時代の制服
ボタンに「師」の文字が書かれています。

スキー

明治 35 年 (1902 年) に青森県の八甲田山で発生した陸軍行軍中の遭難事故がきっかけとなり、明治 44 年 (1911 年) に陸軍がオーストリア・ハンガリー帝国のレルヒからスキー技術の指導を受けたのが、日本におけるスキーの始まりとされています。

滋賀県でも、大正初期には早くも伊吹山でスキーが行われ、大正 13 年 (1924 年) には伊吹山スキー場、昭和 4 年 (1929 年) にはマキノスキー場が開設されています。昭和 10 年には第 1 回の滋賀県スキー競技会が伊吹山で開催されました。昭和 12 年には全日本スキー選手権大会 (第 15 回) が伊吹山で開催され、このときに初めてアルペン種目 (滑降・回転・複合) が行われたそうです。

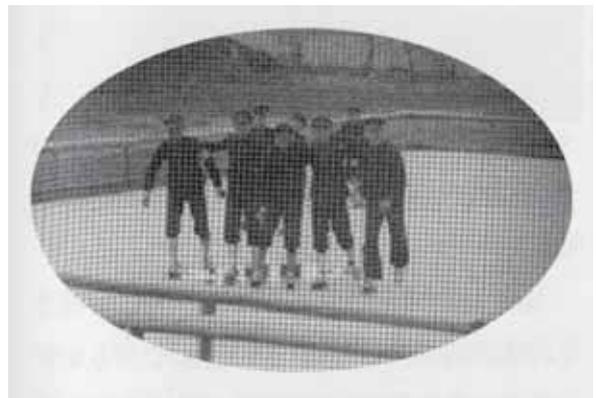
学校教育の場においても、積雪が多い滋賀県北部を中心にスキー講習が行われていた様子を当時の同窓会誌などから知ることができます。今津中学校 (現在の県立高島高等学校の前身) では、昭和 8 年から授業として全校でスキーを行っていたそうです。



今津中学校の校内スキー大会 (昭和 12 年 (1937 年) 2 月、
『滋賀県体育協会史』(財団法人滋賀県体育協会、平成元年
(1989 年) 発行) から転載)



全校雪中行軍 スキー練習 大津市高等女学校『ながら』第
10 号 (昭和 14 年 (1939 年) 発行) から転載



大津商業学校のスケート場 (昭和 10 年 (1935 年) 12 月 7 日
使用開始) 『滋賀県立大津商業高等学校創立 100 周年記念誌』
(平成 18 年 (2006 年) 発行) から転載

大津商業学校にはアイス・スケート場がありました。

【体験談—天理とラグビーの試合しましたよ。学生時分には。】

Fさん(近江八幡市)

中学が京城(韓国のソウル)中学、朝鮮の京城中学ね。うちの店が、ありましたんでね。将来その店を継がせるつもりで、父が向こうにやっとなんで。小学校は馬淵小学校(近江八幡市)なんだけど、中学は京城中学。京城中学から京城高商(高等商業学校)へ行って、高商の時に応召で行ったわけ、学徒動員で。満州におりましたのが、ちょうど終戦の前、昭和19年(1944年)の6月頃だったかな。

(ラグビーをやっていたのは)京城中学の時です。野球もありゃあ、ラグビーもあるし。内地まで遠征来てましたもん。だから天理高校やら今でもラグビー強いけど、その時分は天理中学でしたが、天理とよう試合しましたよ。学生時分には。(中学校の時のクラスは)全部日本人です。日本人の子弟しか入れない学校なんだから、京城でも。だから朝鮮人やとか他の国の子は入ってないです。

(ラグビーには)フォワードとかキックオフとか専門語はありますよ。(そうゆう言葉は)自由に使えました。それは構いませんけど。ところがもう、英語の教科書はもう、全部廃止されている。取り上げられてしもうてねえ。英語はだめ、朝鮮語と中国語だけは勉強しなさい。そうちゅうのはやっぱり、どんだん海外発展していかないと、そんな時代だねえ。



第10回明治神宮国民体育大会(昭和14年)でのラグビーの試合 神戸二中 VS 秋田工業 戦

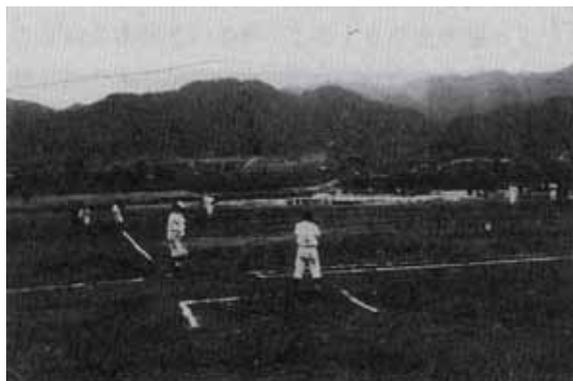
『写真週報』90号(昭和14年(1939年)11月8日号)アジア歴史資料センター Ref. A06031068500、写真週報(国立公文書館)から転載



緑ヶ丘球場と仮停車場(臨時停車場)の位置

(滋賀県立公文書館ホームページのデジタル展示「体育ノススメ〜鍛えよからだ〜」から転載)

京都府との境界に近い場所に緑ヶ丘球場が昭和2年に造られ、甲子園出場校を決める中等学校京津大会などが開催されました。昭和14年には県立彦根総合運動場、昭和15年には近江神宮外苑運動場も設置され、野球などの競技が行われました。



緑ヶ丘球場での中等学校京津大会(昭和2年(1927年))

『滋賀県体育協会史』(財団法人滋賀県体育協会、平成元年(1989年)発行)から転載



緑ヶ丘球場での中等学校京津大会決勝後の行進(昭和5年(1930年))

『滋賀県体育協会史』(財団法人滋賀県体育協会、平成元年(1989年)発行)から転載



近江神宮外苑に昭和15年(1940年)に造営された運動場
『滋賀県体育協会史』(財団法人滋賀県体育協会、平成元年(1989年)発行)から転載



上:『校友会誌』第17号(昭和13年7月発行)
彦根高等女学校の生徒が彦根総合運動場造成のため勤労奉仕していました。

下:第4回滋賀県中等学校優勝野球大会開催案内・招待券
昭和9年(1934年)7月には近畿防空演習が各地で行われました。この演習に伴う大会の休止日が記されています。



木銃など

第2章 戦争によるスポーツ環境の変化



パナール写真:栗太農学校の銃剣術班

戦争によるスポーツ環境の変化

昭和12年(1937年)に中国との戦争が本格化してからも、スポーツは推奨されていました。昭和13年1月には、国民の体力向上や結核等の伝染病への罹患防止などを行う組織として厚生省が新設されています。

競技者の心身鍛錬だけでなく、観戦者を含めた一体感の強化に役立つスポーツは、軍国主義教育に利用されやすい側面があります。スポーツの中で、特に奨励されたのは武道でした。学校教育では、昭和6年から武道教育が正課として採り入れられていましたが、昭和16年3月の国民学校令施行規則では「体錬科」のなかに「体操」と「武道」を科目として定め、5年生以上の男子は剣道・柔道が必修とされました。女子に対しては昭和11年から薙刀(長刀)と弓道が女子師範学校や高等女学校、女子実業学校の正課になり、その後、国民学校でも長刀が武道の正課になりました。

一方で、国家総力戦に向けて政府は「国家総動員法」(昭和13年5月施行)を定めて「物資動員計画」を発表しました。昭和15年に日本での開催が決まっていたオリンピックは、戦争への物資調達の影響となること懸念され、昭和13年7月に開催権返上が決定しました。

また、重要な軍需物資のひとつである牛・馬などの皮の使用を規制する「皮革使用制限規則」などが定められ、運動用具などへの牛革の使用は原則として禁止されるなどの制約が加えられました。



「学校運動場 (1)」「運動会の絵」「学校運動場 (2)」

昭和18年に国民学校1年智組だった武田さんの絵です。運動場の様子には戦争の影響は特にみられません、空を飛んでいるのは飛行機だそうです。

幻の東京・札幌オリンピック

日本において各種のスポーツが盛んに行われるようになったことを背景として、神武天皇即位紀元(皇紀)2600年を迎える昭和15年(1940年)に東京でオリンピックを開催しようという気運が高まり、招致運動が進められました。そして、昭和11年7月31日の国際オリンピック委員会(IOC)での投票において、ライバルのヘルシンキ(フィンランド)を破って、東京での第12回夏季オリンピック開催が決定しました。

会期は9月21日～10月6日の予定で、この頃にはまだ東京郊外で土地に余裕があった東京府駒沢町(現在の東京都世田谷区)に新たな競技場を建設する計画で準備が進められました。この東京オリンピックでは、正式競技のほかに野球や柔道を公開競技として行うことも計画されていました。また、当時は冬季オリンピックも夏季大会と同国で同年に開催することが一般的であり、昭和15年2月に札幌で第5回冬季オリンピックを開催することが、昭和13年3月のIOC総会で正式決定しました。

しかしながら、前年に始まった日中戦争の戦局が激化したことにより、オリンピック開催が軍への物資調達への障害となることが懸念されるようになりました。IOCにおいても日本開催に反対する意見が、いくつかの国から出されました。このような状況の中、日本は夏季・冬季オリンピックの開催権を返上することとし、昭和13年7月15日に閣議決定されました。



右：ベルリンオリンピックについて報道した『オリンピック写真画報』(朝日新聞社、昭和11年(1936年)発行)

中：『写真週報』第8号(昭和13年4月6日発行)復刻版『フォトグラフ・戦時下の日本』1(大空社、平成元年発行)

左：東京オリンピック記念年賀はがき(4枚セット)



左：日本蹴球代表チームの試合

右：開会を直するヒトラー総統

『オリンピック写真画報』(朝日新聞社、昭和11年(1936年)発行)から転載



滋賀県立公文書館ホームページのデジタル展示「体育ノススメ～鍛えよからだ～」から転載

滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭お45(24)」

昭和15年のオリンピック開催に向けて滋賀県が選手強化に取り組んでいたことを示す昭和12年の公文書です。

【体験談ーボールは打つと割れてしまうような粗悪品になりました。】

Hさん(甲良町)

当時、東甲良・西甲良(当時、東甲良村と西甲良村。現在の甲良町)から彦根中学に通学している者

で「東西クラブ」というグループを作っていました。皆、野球が好きで多賀まで他流試合に出掛けたりしました。

太平洋戦争が始まる頃になると、革製品のグローブがなくなり、また合成ゴムで出来たボールは2、3回も打つと割れてしまうような粗悪品になりました。第一、野球そのものが敵性スポーツだということで遠ざけられるようになりました。

私たち滋賀師範（学校）の昭和17年（1942年）卒までは、卒業後2年間教壇に立ち、その後現役応募することになっていました。一年下からは、滋賀師範は専門学校になり、中学卒後3年間（それ以前は2年間）就学することになりました。しかし、戦局が厳しく半年の繰上げ卒業が実施され、昭和18年9月に卒業することになったのです。

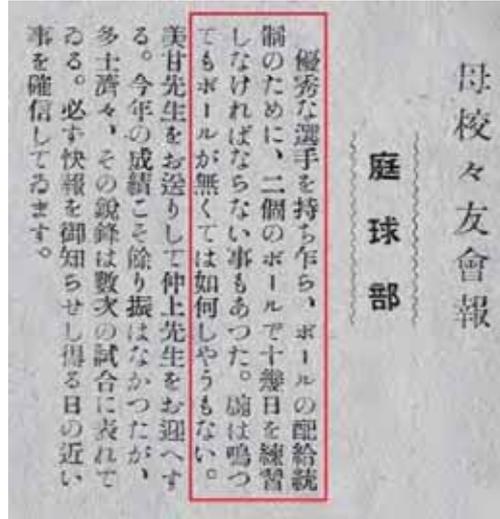


皮革使用制限規則

この規則は昭和13年（1938年）7月1日に公布されたものです。政府の物資統制などにより、スポーツ用品は不足し、粗悪なものになっていきました。

出典：

「皮革需給調整に関する件（臨時物資調整局第5部長より）」
 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A05032337100、
 警保局長決裁書類・昭和13年（上）（国立公文書館）



彦根商業学校同窓会発行の『同窓会誌』第15号（昭和14年発行）から抜粋



『同窓会誌』第15号（彦根商業学校同窓会、昭和14年発行）、
 野球用グローブ（2点）

詳しい年代は不明ですが、右側のグローブ（ミット）には「MIZUNO」の商標があります。

【体験談—グローブも、母親が綿でつくってくれたりね。】

Hさん（大阪府）

私はね、ものすごくスポーツ好きだったんですわ。小学校からずっと。特に野球が好きだったんです。で、野球をするのにね、近所の同年輩の人を集めてね、チームをつかって、そして、ほかのチームと対抗試合をするということが唯一の楽しみでした。

当時オバットなんかないんですよ。棒切れなんです。で、ボールがないからね、綿で、丸いボールをつかって。グローブも、母親が綿で手袋みたいなやつつくってくれたりね。そんなことをして、やってたんです。で、そういうことをね、どっかの空き地を借りて、勉強もせんと、もう

日が暮れるまで。もういつも母親に笑われてたんですけど、「もうそんだけ遊んでどないすんねん」って言われたぐらい、ボールが見えなくても、暗闇になるまで遊んでた。そういう人間だったんでね、夢というのはね、やっぱり野球選手になりたいなというのが夢だったんですわ。

(戦時中は英語が禁止されていたので)「ボール」とも言わなかったし、「セーフ」とも言わないし。で、全部日本語で言うてましたね。「三振」とか「四球」とかね。そういうふうな言葉ですわ。で、「盗塁」というのもね、盗むやからね、あんま良くないいうことで、何か言うてましたね。

【体験談—スパイクちゅうのが駄目になって。革ですわね。】 Tさん(東近江市)

私(高等女学校の)1年生入った時、あれスパイクちゅういますけど、裏にね、針の付いたやつがね、あるでしょう。ああいうなんをやっぱり1年生でしたけど、そういうなん、よその試合に行かんならんちゅうので、学校から与えてくれはったんか、自分で買ったんか、なんかしらんスパイク袋ちゅうもんがあつてね、そういうなん持って行つてたこと覚えてますけども。それが戦争中にできなくなり、なくなりましてね、もうほんで、地下足袋で、ランニング足袋ちゅうのがありましたが。子どもらが履いてるみたいに、よう。今の子はそんなもの履かせせんけどね。そういうなんで、やっぱり試合しましたんやわ。もう、スパイクちゅうのが駄目になって。出来なくなつて。革ですわね、そういうもんでできなくなつたんでしょ。使用禁止に、おそろくなつたと思ひますわ。

ほいで、私ら走り高跳びなんかやったら、やっぱり踏み切りしようと思ふのがね、スパイクやったら、ぐっところ踏み切りできるのですけど、足袋みたいなもんやと、やっぱりしにくうてね。ほやけど、みんなが条件一緒ですわね、他の方もみんなそうですわね。そうですけども、それで実記録もやっぱりあれかなと思ふこともありますが、そういう戦争中やからね。ほら、そういうもんが次第になくなりましてね。うん。

私らバレー部ではなかつたけども、バレー部の人らでもボールとかああいうなん、皆革でしょう。あ

あいうもんでもね、そら数が少のうなつた、て聞いてましたけども。

学校教育における武道

それまでの小学校を昭和16年(1941年)に改変した国民学校では、体操科に替わつて体練科が設けられ、その中が体操と武道に分かれていました。武道では男子は柔道や剣道、女子は薙刀(長刀)を教えられました。また、中等学校になると男子では木銃を用いた銃剣道が加わり、女学校では長刀や弓道を学んでいました。

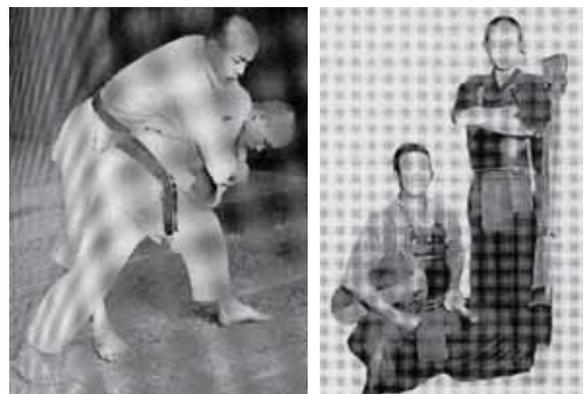
銃剣道は、銃を持った歩兵による接近戦を想定した武道です。明治時代にフランス人教官から学んだ戦術に、日本古来の槍の技術などを取り入れたもので、昭和15年に、それまでの「銃剣術」から「銃剣道」に呼び方が変えられ、学校で盛んに教えられていました。



五年間武道寒稽古精勤賞状、

武道日誌(昭和13年度)・(昭和17年度)

滋賀師範学校の生徒だった碓本守さんと宇野栄一さんが武道の授業内容について記したノートです。碓本さんと宇野さんについては、展示の後半で改めて紹介します。



大津商業学校柔道部、大津商業学校剣道部

『滋賀県立大津商業高等学校創立100周年記念誌』(平成18年(2006年)発行)から転載

【体験談—長刀を週に一回ずつ、高等科で教えてたん。】

Mさん（近江八幡市）

Mさんは昭和17年(1942年)の4月に教師になり、南五個荘国民学校に赴任されました。

(昭和)17年からね、受け持つときに(国民学校)高等一年と高等二年の女の子、長刀の武道ちゅうのを私が教えることになったんです。長刀のね、基本体操やいろんなもん、教えてもらってね。ほで、それを、週に一回ずつね、高等科で教えてたん。ほれが私の仕事やったん。

女も組み立て体操やら、ほうゆうことしてはったようやけど、武道ちゅうのは私が受け持ちやったん。運動会で発表したことがある。段の上あがってね、一、二、三、四、私が言うて。ほで、ずら〜っと女の子20人ぐらいかな、うん、方形に。これ振り回さんならんでな、ものすごい広い場とってね。演技としてね。高等科の武道としてね、私教えてたの。わたし18(歳)か19か、ほこらのときに、せんならん、きばってしてますやろ。

その時分ね、時々、武道の講習会ちゅうのがね、県からありますねん。運動会前になると大津でね。ほとね、あそこ(※昭和12年に滋賀県庁横に建設された武徳殿[平成30年(2018年)に解体撤去])へ行ってよ。ほで、武道のね、あの時分は、女子師範のこわいお婆さんの、お祖母さんみたいな顔の先生でしたけどね。ほいで長刀の講習ちゅわはると、それをね研究に行くんですねん、ほいてまた向こうでちょっと新しいことを教えてもらって。

【体験談—銃剣道で全日本の頂点におりました。】

Iさん（東京都）

滋賀県(大津市)山中町が私の本籍です。ほんとに山の中で京都と繋がっているところなんですけれど。(学校は)京都の立命館大学経済学部で、軍隊に入りましたのは、昭和18年(1943年)の学徒出陣です。「ペンを捨て、銃を取れ」ということで。12月1日です。

戦争中、国を挙げて普及していた銃剣道というのがありまして、私は中学時代から興味を持って、やりだした。すると、私に合っていたということで、だんだん腕を上げてまして、最後はプロになりまして

ね。教える側ですね。昭和17年に全日本の頂点におりました。で、大学でね、皆、次々軍隊に入るものですから、銃剣道を知っておかなくちやいかんということで、指導しまして。大学から給料をくれましたね。

昭和17年11月3日に、今でいう国体(国民スポーツ大会)、当時は「明治神宮大会」といましてね。明治神宮に全国から集まりまして、これにもちろん私も出場しまして。残念ながら3位になったのですが・・・。160人出場です。当時は、満州・朝鮮・台湾からも大勢選手が来ました。

当時の新聞ではね、東の近藤と西のI(私)の決戦かと書かれていました。で、私が3位で、その近藤が4位になりました。大学の1年だったと思います。

【体験談—新兵でありながら、銃剣道の指導をすることになりました。】

Iさん（東京都）

(昭和)18年(1943年)の3月だったと思う。戦争中当時、文部大臣をやった陸軍大将荒木貞夫という閣下がいまして、その方が、私の銃剣道の模範試合を見せろということで、大勢みえたんですよ。

それで、荒木閣下が私を特別にお呼びになりましたね、「おまえはこれから、どこの部隊に入るかわからんけど、もし、入ったら、お前の直属の上官に、陸軍戸山学校へ入れて欲しいと言いなさい。」と。こういう、ありがたいお言葉をいただいてね。陸軍戸山学校というのは、当時、武道とかあらゆるものの指導をする学校(東京にあり、射撃・武道などの訓練を行った。)なんですよ。

そして、(昭和)18年の12月1日に三重県の中部131部隊に入ったわけですよ。鈴鹿の近くにあったんですよ。大学2年、数えの21(歳)ですね。入って間なしのお正月に、「当連隊お武道大会を実施する。兵・下士官は銃剣道、将校は剣道。従って、その準備のために1時間早く起きて寒稽古をやれ。」と。

私は、よし、ここで中隊長のところへ行ったら話しようと思って、「荒木貞夫閣下が、私にこのようなことを言われました。」と言いました。そしたら中隊長がね、私が荒木貞夫閣下といった瞬間にね、パーッと直立不動の姿勢をとって「荒木閣下は、おまえに直接話をされたのか。」「はい、直接です。」

さあ、今度は大騒ぎになりましたね。

そいで、私帰りましたら、中隊長が銃剣道の防具を付けて、待ってる。それで私にも防具をすぐ付けろっていうんです。私は大学で、銃剣道の3段をもらってたんです。日本で最初だっかっていました。その中隊長は2段だったらしいんですよ。そう聞いてたんですけど、歳はいつてるから、これはもう試合したって全然問題はないだろうと思って、適当にやったんですよ。適当にやり、すぐ終わりました。そして終わるなり、寒稽古の全員指導を、私にやれということになったんですよ。新兵がね。偉い人、上の人をみんな指導するんですよ、全員ですから。

まあそんなことでね、当時、私が新兵でありながら、古い、階級の上の人が私の前を通る時に、ハッと息を止めて通るような、ね。(飛行学校に入校するまでの) 2ヶ月間でしたけどね。



銃剣道一級証書



体操風景 (銃剣術)

昭和16年(1941年)度~18年(1943年)度ころ

『長浜北高百年史』(平成23年(2011年)発行)から転載



右上: 武道日誌 (昭和16年度)、右下: 『剣道精義』

左: 寄せ書き日の丸 (彦根高商剣道部)

寄せ書きの中には、平成元年(1989年)に内閣総理大臣を務めた「宇野宗佑」さんの名前もあります。



『剣道精義』表紙、「神様に拝礼」・「相互に礼」

国民学校での剣道指導用に昭和16年に刊行された『剣道精義』から転載



傷兵慰問体育運動大会の紹介記事

『時事写真新聞』昭和14年(1939年)3月25日号から転載



剣道具 (胴・籠手)



吉田信太郎さんの剣道着（剣道着・面・前垂れ・籠手）
吉田信太郎さんが滋賀師範学校の授業で着用していたもの
と思われる。



高二男 体練科体操指導案 滋賀師範時代の教案綴から転載



滋賀師範時代の教案綴
昭和18年に滋賀師範学校の生徒が作成した国民学校体練科の
授業の指導案です。

学年	科目	時数	備考
第一学年	国語	10	
	算数	10	
	理科	10	
	社会	10	
	英語	10	
	音楽	10	
	美術	10	
	体育	10	
	衛生	10	
	職業	10	
第二学年	国語	10	
	算数	10	
	理科	10	
	社会	10	
	英語	10	
	音楽	10	
	美術	10	
	体育	10	
	衛生	10	
	職業	10	
第三学年	国語	10	
	算数	10	
	理科	10	
	社会	10	
	英語	10	
	音楽	10	
	美術	10	
	体育	10	
	衛生	10	
	職業	10	

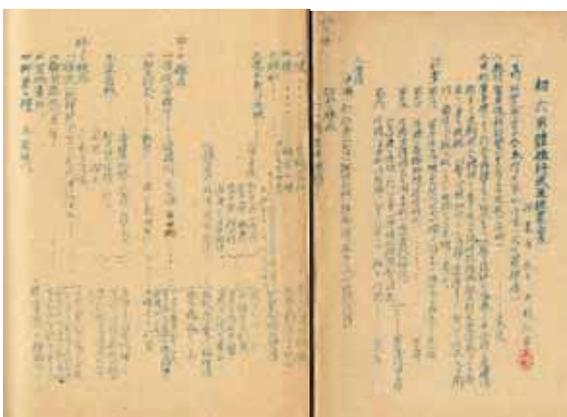
滋賀県立彦根工業学校学科過程及毎週教授時数（昭和17年）
滋賀県立彦根工業高等学校創立 80 周年記念誌『飛揚』（平成
12年（2000年）発行）から転載

学校教練

戦前・戦中の学校では「教練」という授業がありました。兵士になるための軍事的予備教育として大正14年（1925年）から行われるようになったもので、中等学校以上の官立・公立学校などには配属将校として在郷軍人（現役を離れた予備役の軍人）が配置され、学生たちの指導を行いました。

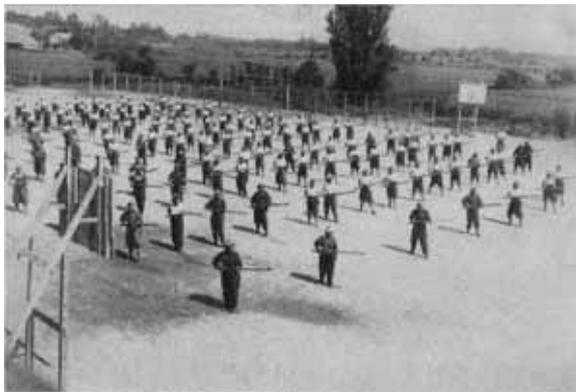
行進の練習などのほか、本物の銃を使用した射撃訓練もあり、各学校には教練用に多くの銃が備えられていました。銃は、軍で使用していた旧式のもの（三八式歩兵銃など）が払い下げられたりしました。運動会では「教練」学習の成果発表の場として、模擬戦も行われました。

また、男子中等学校では滑空（グライダー）部の設立と滑空訓練が文部省によって推奨されました。将来の軍用機パイロット育成を目的として、昭和17

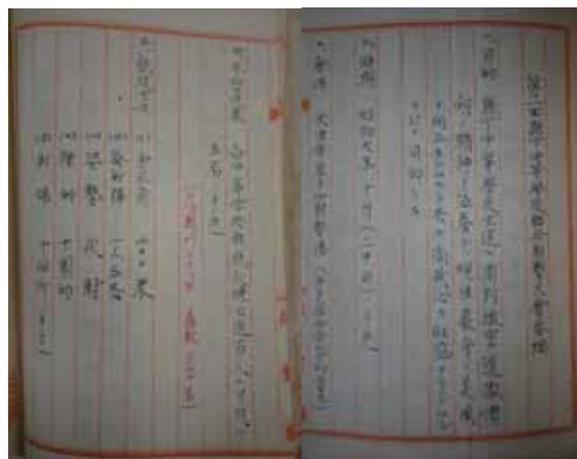


初六男 体練科武道授業案 滋賀師範時代の教案綴から転載

年（1942年）4月からは滑空訓練が3年生以上の正課として実施されています。



草津高等女学校での学校教練 『創立70周年記念』（滋賀県立草津高等学校、平成4年（1992年）発行）から転載

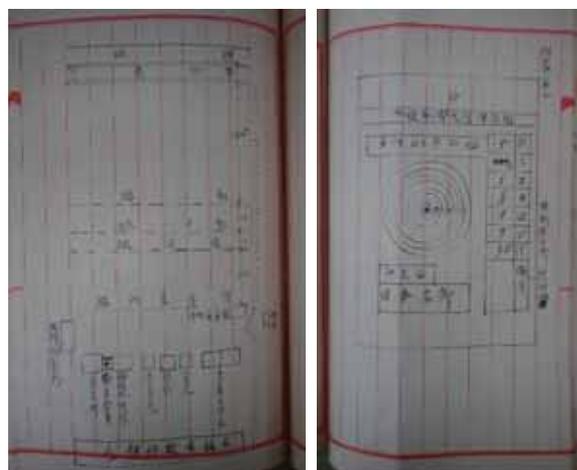


第一回 県下中等学校連合射撃大会要綱（昭和7年（1932年）開催）滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し157（15）」

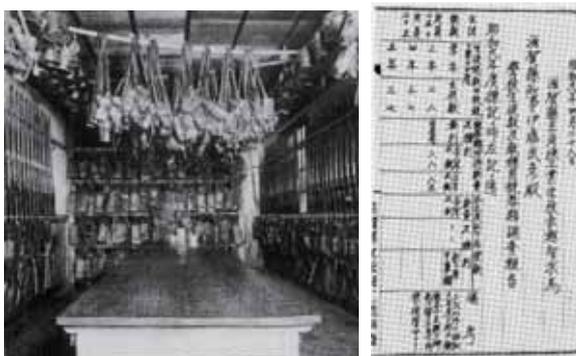


全国中等学校射撃大会の紹介記事

『時事写真新聞』昭和14年8月7日号から転載



第一回 県下中等学校連合射撃大会の会場概略図と標的 滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し157（15）」



左：彦根工業学校の銃器庫内部

右：学校生徒数及教練用銃器類調査報告

滋賀県立彦根工業高等学校創立80周年記念誌『飛揚』（平成12年（2000年）発行）から転載

男子が通う中等学校には、教練に参加する人数分程度の銃が、銃器庫に備えられていました。また、射撃の県大会も開催されていました。



私下兵器品目価格標準表 昭和8年（1933年）度 滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し157-37-54」



軍用銃器私下に関する参考調査表 昭和7年(1932)度
滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し157-19-26」



昭和8年度 学校教練査閲日割表(第九師団担当分)
滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し157-27-37」



昭和8年度 学校教練査閲日割表(第九師団・第十六師団担当の県内分) 学校教練には軍からの査閲も行われていました。
滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し157-35-50」

【体験談—運動会で教練の模擬戦がありました。】

Mさん(東近江市)

私は、昭和14年(1939年)春に県立八日市中学校を卒業し、しばらく中学校理科の助手を務めていましたが、翌15年5月、滋賀師範学校に入学しました。

私の中学時代の教練の配属将校は、1~2年生の時は大野少佐で、3年生の時は吉田大尉でした。運動会で教練の模擬戦があり、理科の先生が竹筒に硝煙などを詰め手製の煙幕を作りましたが、これが爆発し、横山君が内腿と顔にケガをしたことを覚えています。

滋賀師範学校の教練では、高野大佐の指導を受けました。私は、模擬手榴弾投げで40メートルが投げられず、「赤札!」と怒られました。私が海軍に進んだのは、自分が「手榴弾投げだけで評価されていてはかなわん」と思ったからです。

※「赤札」の使い方は、第3章で紹介する今西さんの体験談と食い違うので、どちらかの記憶違いなのかもしれません。

手榴弾投擲競技(手榴弾投げ)

模擬手榴弾を投げて距離を競う競技は世界各国で行われ、国際的な競技会が行われたこともあります。

厚生省が昭和14年(1939年)10月から始めた体力章検定では、男子では100m走や走り幅跳びなどと並んで、手榴弾投げが行われていました。使用された規格手榴弾は、陸軍の九一式手榴弾の重さ530gに近い540gで、スポーツメーカーなどが生産していました。

軍に入営した野球選手は、軍隊内の大会やアトラクションとして硬式野球ボール(重さ150g弱)の3倍以上も重い手榴弾の遠投をさせられ、巨人軍のエースだった沢村栄治選手は肩を壊したと言われています。

手榴弾投げは国防競技のひとつとして、明治神宮国民体育大会でも第10回(昭和14年)から第12回(昭和16年)まで行われています。

【体験談—6年生になったら手榴弾の投げ方の練習。まだ全然忘れてないわ。】

久野 孝子さん(東近江市)

大阪市内で生まれ育った久野さんの小学生時代の体験談です。

昭和16年（1941年）のときは小学校5年生でしたわ。太平洋戦争が始まったときは。

（小学校）1年2年3年4年までは、別に何もなかったんですよ。5年生になってからね、女子は長刀があったんです。体育の時間に。木で作った長刀で。で、面とか胴とか足とか腕とかって、肩車たらしいて、長刀の練習があったんです。食後ですね。

そして、正常歩、行進の練習。正常歩いうて、今みたいに膝を上げなくて。膝上げないんです。上げないで歩く。こういう、何か、どう言うたらいいかな。正常歩。正常歩ですね。胸を張ってちゅうて、サーッともう。隊列組んでです。学級ごとに。

それからね、6年生になったら手榴弾の投げ方の練習。ちょうどこのくらいのね。あれ鉛のような色がしてたな。投げても壊れないんにゃから、鉛のような色してあった。わりに重いんでしたわ。持って「1、2、3」って投げる練習。前、両手こう出して、「1、2、3」って。後ろから前にバーンと投げる。まだ全然忘れてないわ。

体育の時間、1時間やるわけやないんですけどね、ちょっと初めにそういうなんやったりね。ちょうどこのくらいの、レモンのような形してね。こうやって、こう持って、バーンと。足がこう、斜めに構えて。



左上：体力章検定証 種目の中に「手榴弾投」がありました。

右上：訓練用手りゅう弾

下：賞状（昭和14年度第1回手榴弾投擲競技に於いて）

【体験談一雪の中を裸足で走らすて、女学校ですやろ。】

Tさん（東近江市）

昭和12年（1937年）に彦根高等女学校に入学されたTさんの体験談です。

（授業では）おなご（女子）でもね、そら男みたいに物持って、あれ、長刀いうのがありましたね。長刀もやっぱりね、棒持って、ああいうの教えはったしね。

教練とまで行きませんが、（私が通っていた）彦根（高等学校）は厳しかったで、運動場を何回も朝、まわしたりね。それで、弱い人はやっぱり、ダウンしやはった人もございますよ。雪の中も走らさりました。裸足で。きつかったんでしょ。

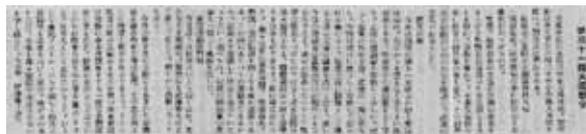
他の学校なんか聞くと、やっぱり厳しかったみたいです。そんな弱い子供はね、親がよう学校へ言いに行かはったゆうこと、よう聞いてましたけどね。そんな酷いことする言うてね。なんも戦争中でもね、雪の中を裸足で走らすて、女学校ですやろ。



上段：「支那軍変遷戦博覧会」パンフレット（昭和13年発行）、
『校友会誌』第18号（昭和13年12月発行）・
第19号（昭和14年3月発行）

中段：『会誌』第5号（昭和7年発行）・第6号（昭和8年発行）・
第7号（昭和9年発行）・第11号（昭和10年発行）・
『同窓会誌』第13号（昭和12年発行）・第18号（昭和17年発行）

下段：三八式模擬銃



「第三十一回大運動会」彦根高等女学校『校友会誌』第18号（昭和13年発行）から転載



「支那事変聖戦博覧会」パンフレット（昭和13年発行）



「西宮聖戦博覧会見学」彦根高等女学校『校友会誌』第17号（昭和13年発行）から転載



昭和初期の彦根商業学校の様子

滋賀県立彦根商業学校校友会『会誌』第5号（昭和7年（1932年）12月発行）から転載

【体験談—小学校にグライダーがあったわ。】

大橋 郁夫さん（東近江市）

体育の時間がね、教練やったなあ。小学校にグライダーが2台あったわ。

それを、この堤防の下に川南（東近江市川南町）というところがあって、竹藪、あれを伐採して、ほ

で、砂山という小さい山があっせん。ほんまに小さい小さい、砂ばかりの山があっせん。それを除けて、そこをグライダーの練習場にしたんや。グライダーをゴムでひっぱるんや。ゴムというのはね、ちょうど自転車の荷物を括るひも、それで引っ張るんですわ。ほんで、ある程度引っ張つといて、先生が手を上げはったら、後でゴムを持つてる人が手を離すと、ビューと上がっていくねん。私（昭和7年生まれ）より2級ぐらい上の人が、皆乗ってはった。

ほして、銃剣やらね、全部ありましたよ。もう、ずうと、鉄砲が並んだんねん。ほんまの鉄砲や。



「グライダーの飛行訓練」彦根高等女学校『校友会誌』第19号（昭和14年発行）から転載

【体験談—滋賀師範学校にグライダー部が新設されました。】

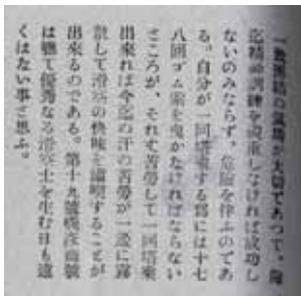
Fさん（※文集からの引用）

吉田信太郎君は、八日市中学校時代は水泳部に籍を置いていた。吉田君はターンをするとき、ヒイヒイ喘ぎながら力を出し切って懸命に頑張っていた。その姿が臉に焼きついて離れない。

滋賀県師範学校には水泳部がなかったの、水泳部を新設することになり、吉田君も推進者の一人であった。私もその一員に加わったが、人数が少なく存続が不可能となり、学校側が新設したグライダー部に吸収合併の形になった。同級生にグライダーの経験豊かな者がいて、皆の技量も随分向上した。

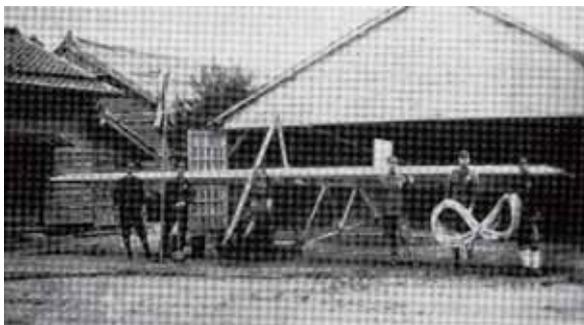
夏の合宿は寄宿舎で寝泊まりして行われたが、この時、海軍の飛行科予備学生の募集があり、部の性格もあって、ほとんどの者が応募することになった。吉田君もその中の一人であった。

（以上、『滋賀県立八日市中学校第17回卒・記念文集』（昭和61年5月1日発行）に掲載された吉田さんへの追悼文から要約して引用）



『同窓会誌』第18号

(昭和17年、彦根商業学校同窓会発行) から転載



長浜農学校に昭和17年(1942年)に創設された滑空班

(『長農百年史』(平成11年(1999年)発行)から転載)

昭和13年の文部省次官通達などにより、飛行士育成のためグライダー(滑空)が推奨され、昭和17年からは全ての男子中等学校で教練の時間に滑空訓練が行われるようになりました。

【体験談—国民皆泳ちゅう言葉がありました。】

Kさん(東近江市)

Kさんは昭和18年(1943年)に八日市中学校に入学されました。

運動会もなかったです。なんせもう横文字やったら敵性語ちゅうて、あかんのやしね。もちろん野球もないし。ほんなん私らの時なかったですわ、野球部ちゅうようなもんは。

柔道部と剣道部。柔道か剣道か、どっちかせんならんちゅう具合。所属せんならんちゅう。ほれがまあ今の人の言葉でゆうたらクラブ活動ですわな。ああ、水泳はありましたわ。プールで水泳およがしたりね。

国民皆泳ちゅう言葉がありました、ほの時分。国民皆、泳ぐちゅうね、国民皆泳ちゅうてね、うん。ほの時分やさかい、みんな泳げなあかんちゅうことで、教師がプールにポンと入れましたがな。もう泳げるようになるようにね。無理矢理。

女の子でも、女学校あたりでも、ほうやったらしいですわ、女の子に聞くとね。女学校もやっぱりほういう式に、女の子でも(プールに)はめたらしいですわ、先生が。うん。ほんかわりほれ、首からは出ますでな、うん。深いことはないやで。



「国民皆泳」のスローガンを記した記事

『時事写真新聞』昭和14年(1939年)8月14日号から転載

【体験談—近江八幡の人は、力がみんな強いなあて思いましたね。】

Hさん(大阪府)

(近江)八幡の小学校に疎開したのはね、昭和19年(1944年)の8月31日ですわね。学年で言いますと小学校の6年生なんです。私の学校では306名

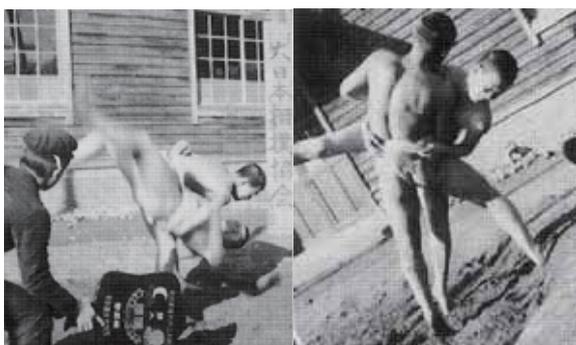
が、3年から6年まで、皆勢揃いして市電に乗ってね、とつとことつとこ、大阪駅まで行ったんです。で、地元の人でもまた、近江八幡駅に着いたら、「よう来たねえ」といって皆ね、旗振って迎えてくれました。

(近江八幡の子どもたち) 学校は一緒ですね。教室は別でしたけどね。で、交流したんはね、対抗試合なんかがあるんですよ、ときどきね。例えば腕相撲大会とかね、それから相撲大会とか、運動会とか。そういうものは、八幡小学校の生徒さんとわれわれと一緒にね、やったんです。

相撲大会で、まあ面白い話を言いますと、私が、わりに体大きいほうだったんですよ、小学校のとき。で、いつもね、まあ力自慢だったんですね。ですから、いつも借り出されてね。キャプテンで(笑)。

相撲大会が始まりますと、向こうのキャプテンといつも鉢合わせして、相撲取りますけどね、いつも寄り倒されてね(笑)。こらやっぱりもう八幡の人は、力がみんな強いなあ思うて、私思いましたしね、悔しい思いもしましたし(笑)。腕相撲もね、一生懸命やるんですけども、もうあっさりと負けましたりね。

やっぱりね、いろいろと力仕事もしてはるんですよ。ですから、われわれ都会っ子で、何もそういう運動もあんまりしてない人間では、とても太刀打ちできないことをね、つくづく思い知らされたというか、そんな感じしますね。まあそんなことが、八幡小学校との交流ではあったんですけども。



彦根工業学校の相撲部 (滋賀県立彦根工業高等学校創立 80 周年記念誌『飛揚』(平成 12 年(2000 年) 発行) から転載)

相撲は日本の「国技」と言われ、子どもたちにとっては、もっとも身近なスポーツでしたが、戦時中の学校で武道として教えられることはありませんでした。プロスポーツである大相撲は、とても人気がありました。



上:「第7回大阪場所」パンフレット (昭和 15 年 6 月)

右下: 関西大場所星取表 (昭和 14 年 6 月)

左下:『小学生相撲読本 全』(昭和 13 年初版発行)



「ラジオ体操実施ノ件通知」滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭お36(20)」(滋賀県立公文書館ホームページのデジタル展示「体育ノススメ〜鍛えよからだ〜」から転載)

現代でも多くの国民が親しまれているラジオ体操は、昭和初期のラジオの普及とともに、全国で行われるようになりました。

そのほかにも「天突き体操」など様々な集団体操が健康増進のために行われました。これらの体操は国家総動員のための手段として利用された側面もあることから、戦後はラジオ体操の放送が中止された時期もあります。



長浜農学校の朝礼時に行われた天突き体操、昭和 15 年(1940 年) 度

『長農百年史』(平成 11 年(1999 年) 発行) から転載

【体験談ーバスケット、バレー、テニスのコートをつぶして。】 藤川 誠一郎 さん（東近江市）

（藤川さんが通っておられた長浜農学校（現在の県立長浜農業高等学校）では）いや、ほらほんでグラウンド、半分ほどなにして、蔬菜場やとかね、獣畜舎建てたり。ほてから、バスケット、バレーのコートをつぶして。テニスのコートもつぶした。ほいで、ええコートやった。下からね、石炭ガラを、鉦物を敷いてね、ほんでちゃんとしとった。雨のあとでも（水はけがいいので）すぐにできました。ほれをあんた、砕くのもったいなかっただけな。掘り起こした。ほいで皆、野菜場にして。ほんで、ほこらの人がね、ようけ買いに来やはるし。



彦根工業学校の校舎間空地で食糧増産に励む生徒たち

（滋賀県立彦根工業高等学校創立 80 周年記念誌『飛揚』（平成 12 年（2000 年）発行）から転載）

戦線拡大に伴って、国内で消費するコメが不足するようになると、空地を利用したイモ類などの栽培が奨励され、学校の運動場も畑になりました。

【体験談ー学校の運動場も皆開墾してね。】

伴 作兵衛 さん（近江八幡市）

国民学校 6 年生、高等科時分、高等科 3 年ぐらいはね、学校の運動場も皆、開墾してね、サツマイモ植えたり。運動場って、もう許されませんでしたね。耕してね、ほれで。もうほこ、イモ植えたちゅうこと覚えてます。

【体験談ー運動場ではカボチャを作っていました。】

M さん（米原市）

（私は）終戦の時は、小学校 6 年生ですかね。5 年生になったらね、「明日は鋤を持ってきなさい」とかね。

いわゆる男の働き手のない家が、ものすごく多くなりましたわね、出征で。鋤を持っていくと、その家の畑にいてるおばさんのとこへ行っては、仕事を手伝うたんですわ。そういう勤労奉仕をやりました。

運動場は消防団の人が開墾して、カボチャを作っていました。そんな時代ですけどね。運動会は伊吹山の 1 合目でやったんですわ。その運動会も情けないもので、綱引きしたら必ず下のほうが勝つという綱引きで。そういう運動会がありましたわ。

運動場が、とにかく畑になってしまいましたね。運動会ができんちゅうのでね。

第 3 章 戦争の犠牲になったアスリートたち

戦争の犠牲になったアスリートたち

20 歳以上の男子にとって兵士となるのが義務だった当時の日本においては、一流のスポーツ選手たちも徴兵検査を受けて兵役につく必要がありました。むしろ、優秀な兵士として国家の役に立つために、スポーツで心身を鍛えてきたと言ったほうがよいのかもしれませんが。職業野球（プロ野球）や明治神宮国民体育大会などで活躍した滋賀県出身のアスリートたちも、多くが兵士として戦地に派遣され、尊い命を犠牲にされた方も少なくありません。

今回の展示では、滋賀師範学校の蹴球（サッカー）部員として全国 3 位の成績を残した宇野栄一さん・碓本守さん、甲子園に出場してプロ野球でも活躍した広瀬習一さん・天川清三郎さんなどについて紹介します。



天川 清三郎 さん (1919~1944)

天川さんは滋賀県（現在の津市）で生まれ、その後京都府へ転居された方です。強豪校として知られた平安中学校（京都市）の野球部員として甲子園に8回出場し、最後の出場となった昭和13年（1938年）夏の大会では優勝投手になりました。

卒業後に南海軍（現在の福岡ソフトバンクホークス）に入団し、翌昭和15年のシーズンまでプロ野球選手として活躍されましたが（投手としての通算成績3勝8敗）、シーズン終了後に兵役につかれ、昭和19年10月26日にフィリピンのレイテ島で戦死されました。まだ24歳の若さでした。

令和6年（2024年）12月に、天川さんが戦場で持っていたと思われる日章旗（寄せ書き日の丸）が、アメリカのNPO法人「OBON ソサエティ」を通じて御遺族のもとに返還されました。この日章旗には、チームメイトだった南海軍の選手など18名の寄せ書きがあります。

『防人の詩』レイテ編（昭和56年（1981年）、京都新聞社発行）に記されている入営後の天川清三郎さんの様子

（前略）兵士のなかに、自分と同じ第五中隊の軽機関銃の射手に天川清三郎兵長がいた。彼は、緒戦のバターン半島の攻略戦にも勇敢・・・というよりも抜群の奮戦をみせた兵士のひとりであった。

（中略）

手榴弾を握らせたら連隊内においても、その右に出るものがないほどに遠投と正確度において抜きん出ている。ただ、この連隊随一の投擲力を誇る天川兵長が外征の軍に加わる前、平安中学の主戦投手として甲子園大会にて全国優勝した経歴を持つことを知るや、みんなが、改めて『あの・・・天川が、お前なのか？』と驚いたものであった。

（中略）

比島での緒戦の戦火が収まり、（昭和）十七年の中期以降、日本軍の占領下で一時期ながらも銃声の聞かれない平和なときが訪れた際、日比野球の親善大会が開かれるや、彼はマウンドに上がらされたのだった。

（中略）

『甲子園で優勝した平安の天川が歩兵第九連隊の五中隊にいるそうだ』ということから、急遽、彼のところへ出場の命令が

伝えられ、この天川投手を起用しての対戦で、全占領軍チームはようやくにして相手方を撃破し、待望の勝ち星をあげたのだった。だが、そのような平和は、ほんの一時期のこととて、再び、大反攻に転じたマッカーサー軍のレイテ湾進攻を迎えて、戦雲は全比島を覆うことになった。（以下略）

天川清三郎（あまかわせいざぶろう）さんの年譜

- ・大正8年（1919年）12月27日 出生
- ・（京都市へ転居）
- ・昭和13年（1938年）8月21日 夏の甲子園大会で優勝投手になる
- ・昭和14年（1939年）3月 平安中学校を卒業（南海軍に入団）
- ・昭和15年（1940年）7月15日 徴兵検査
- ・昭和16年（1941年）1月10日 現役兵として歩兵第9連隊第5中隊に入営
- ・昭和16年（1941年）11月 屯営を出発し、フィリピンへ向かう
- ・昭和19年（1944年）12月8日 フィリピンのレイテ島ブラウエンで戦死
- ・昭和21年（1946年）4月12日 死亡内報
- ・昭和23年（1948年）4月10日 死亡公報
- ・令和6年（2024年）12月5日 遺品の日章旗を遺族に返還



天川清三郎さん関係の展示

天川清三郎さんに贈られた寄せ書き日の丸、平安中学校卒業時の天川清三郎さん、「鎮魂の碑」に刻まれた戦没プロ野球選手の名前（管理者：公益財団法人野球殿堂博物館【※この写真は許可を得て展示しているものですので、無断転載はできません。】）



右上：天川清三郎さんの平安中学が優勝した昭和13年の甲子園大会の様子（『週刊ベースボール別冊：春暖号』（ベースボール・マガジン社、平成元年（1989年）発行）

右下：第24回全国中学校野球優勝大会 スコアブック選手名鑑（昭和13年発行）

左上：第24回全国中学校野球優勝大会パンフレット（昭和13年発行）

左下：昭和14年度職業野球便覧（昭和14年4月発行）
南海軍の新人として「天川清三郎」さんの名前があります。



バナー写真：大津商業野球部と広瀬習一選手
『滋賀県立大津商業高等学校 硬式野球部創部100周年記念部史』（令和5年（2023年）発行）から転載

広瀬 習一 さん（1922～1944）

大津市出身の広瀬さんは、昭和10年（1935年）に大津商業学校に入学し、昭和14年春に甲子園出場した際には遊撃手（ショート）でした。

昭和15年に卒業して旭ベンベルグ（現在の旭化成工業株式会社）に入社し、都市対抗野球の近畿地区予選に出場しましたが敗退し、本戦に出場することはできませんでした。

昭和16年のシーズン途中で職業野球（プロ野球）の巨人軍に入団すると、8月21日に初登板・初先発の黒鷲軍（昭和18年に解散）戦で3安打完封勝利を飾りました。翌昭和17年のシーズンは、春季リーグ・夏季リーグで活躍し、チーム最多の20勝をあげました。しかし、秋季リーグでは虫垂炎になって入院したため、この年の勝利数は21勝で終わりました。シーズン全体では21勝6敗で、リーグ最高勝率（勝率.778）でした。なお、同年の最多勝は巨人軍の同僚だった須田博（スタルヒン）投手の26勝でした。

昭和17年に徴兵検査を受けた広瀬さんは、翌年1月に現役兵として京都の陸軍第16師団歩兵第9連隊に入営しました。4月には部隊がフィリピンに派遣されましたが、現地では日本兵による野球チームが結成されて、フィリピン人チームと野球をすることもあったようです。しかし、しだいに戦局が悪化し、昭和19年9月13日にフィリピンのレイテ島で戦死されました。



巨人軍のユニフォーム姿の広瀬習一選手

『滋賀県立大津商業高等学校 硬式野球部創部100周年記念部史』（令和5年（2023年）発行）から転載



第16回全国選抜中等学校野球大会 選抜旗



『滋賀県立大津商業高等学校 硬式野球部創部 100 周年記念部史』令和5年(2023年)発行

名前 生年~月	香林 貞彦 1908.3	水原 茂 1909.1	中島 治康 1909.8	三原 隆 1911.11	坂本 敏行 1912.3	笠原 伸 1916.7	スタルヒン 1916.8	藤岡 一 1916.7	藤村富良男 1916.9	沢村 栄治 1917.2	白石 静巳 1918.4	藤本 英敏 1918.5	宮原 正孝 1918.1	千原 彦 1919.5	中尾 健郎 1919.12	深川清三郎 1919.12	野口 二郎 1920.1	川上 智治 1920.3	別所 隆 1920.8	西沢 進夫 1921.8	広瀬 智一 1922.3	別所 隆彦 1922.10	大下 弘 1922.12	小島 隆 1922.12	青田 昇 1924.11		
昭和11年(1936)																											
昭和12年(1937)																											
昭和13年(1938)																											
昭和14年(1939)																											
昭和15年(1940)																											
昭和16年(1941)																											
昭和17年(1942)																											
昭和18年(1943)																											
昭和19年(1944)																											
昭和20年(1945)																											
備考	ハワイ出身						ロシア出身																				

主なプロ野球選手の兵役期間 (灰色が兵役期間)

※黄色はプロ野球選手として出場したシーズン

※12月生まれは現役兵として応召するのが1年遅れる制度でした

ロシア人だったスタルヒンなどを例外として、ほとんどの選手が兵役についています。昭和20年(1945年)には公式戦が開催されませんでした。



パナール写真：滋賀師範学校蹴球部

滋賀師範学校蹴球(サッカー)部

滋賀師範学校は、現在の滋賀大学教育学部の前身です。師範学校では明治時代から様々なスポーツが盛んに行われて、教員となった卒業生が全国各地で指導にあたり、西洋発祥のスポーツが日本国内に普及する上で重要な役割を果たしました。

師範学校の生徒は、旧制中学や実業学校(農学校、商業学校、工業学校など)と同じ中等学校のスポーツ大会に参加するのが一般的で、師範学校には年齢

が高い生徒もいたことから、中等学校の大会では優秀な成績を残すことも多かったようです。サッカーで全国大会に出場するためには、京都府などの学校が参加する近畿地区大会を勝ち抜く必要がありましたが、滋賀師範学校蹴球部は京都師範などのライバル校に勝ち抜いて、全国大会に何度も出場しています。

皇紀2600年である昭和15年(1940年)には、夏の選手権大会と秋の明治神宮国民体育大会(師範学校の部)で、いずれも3位の成績を残しています。宇野栄一さんや碓本守さんは、これらの大会のレギュラーメンバーでした。

※明治神宮国民体育大会では、一般の部、中等学校の部とは別に師範学校の部が設けられていました。

※滋賀師範学校は、昭和18年(1943年)4月に滋賀県師範学校と滋賀県女子師範学校が統合されて発足した学校です。したがって、碓本守さんと宇野栄一さんが入学した時点での学校名は「滋賀県師範学校」で、卒業時には「滋賀師範学校」でした。今回の展示の説明文では「滋賀師範学校」という表記に統一しています。

明治神宮国民体育大会

明治天皇を祀る神社である明治神宮（大正9年（1920年）創建）には、国内におけるスポーツ熱の高まりを背景に、陸上競技場、野球場、水泳場、相撲場が外苑に設けられました。そして、明治神宮外苑競技場を主会場として大正13年から昭和18～19年（1943～1944年）まで、全国規模の総合競技大会が行われました。

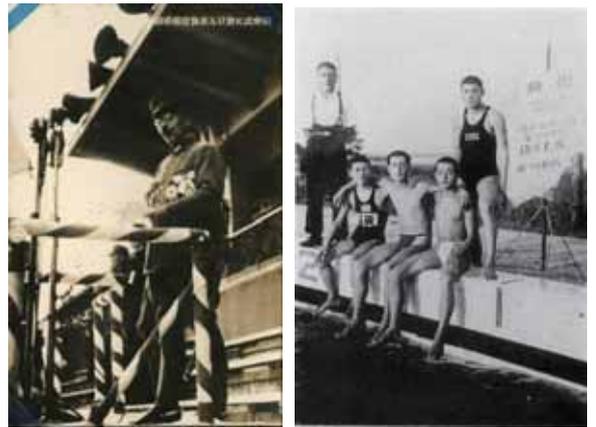
当初は内務省主催の「明治神宮競技大会」という名称で始まりましたが、第3回（大正15年）からは明治神宮体育会主催の「明治神宮体育大会」、第10回大会（昭和14年）からは厚生省主催の「明治神宮国民体育大会」、第13回（昭和17年）から「明治神宮国民錬成大会」という名称になりました。

明治天皇誕生日で例祭が行われる11月3日を秋季大会の最終日とする競技日程が組まれており、明治神宮に奉納する神事ゆき性格を有する大会でした。戦争の影響でスポーツの全国大会が次々と中止されるなか、第13回（昭和17年）までお通常どおり開催されましたが、戦局の深刻化によって第14回（昭和18～19年）には全国で分散して集団体操や戦時訓練を行うといった形に変化し、これが最後の大会となりました。

実施された競技には変遷があり、第10回から第12回は国防競技、第11回ではライダー競技、第12・13回では行軍訓練・滑空訓練が開催されるなど、戦時色が強い競技も行われました。国防競技は、手榴弾投げや障碍通過競争などで競う競技でした。



第11回明治神宮国民体育大会での「2600」の人工字
『時事写真新聞』昭和15年11月9日号から転載



上・左下：第13回（昭和17年）明治神宮国民錬成大会の
開会式

右下：第13回大会の青少年団水泳競技で優勝した滋賀県チーム
（『滋賀県体育協会史』から転載）

太平洋戦争の開戦が間近に迫った昭和16年（1941年）には、夏の全国中等学校優勝野球大会が予選の途中で中止されるなど、全国的なスポーツ競技会が次々と中止になっていきました。

明治神宮国民体育大会は、名称を変更して昭和17年まで全国大会として開催されましたが、戦時色の強い競技が増えていきました。



選士証、『写真週報』第246号（昭和17年11月11日発行）

吉田信太郎さんが出場された第13回大会は、戦時色が強まっていた様子がうかがえます。

明治神宮国民体育大会 競技種目・演目一覧表															
大会名称	明治神宮国民体育大会														
	明治神宮国民体育大会					明治神宮国民体育大会					明治神宮国民体育大会				
主催者	内務省					明治神宮体育会					厚生省				
西暦	1924	1925	1926	1927	1929	1931	1933	1935	1937	1939	1940	1941	1942	1943	
和暦	大正13	大正14	大正15	昭和2	昭和4	昭和6	昭和8	昭和10	昭和12	昭和14	昭和15	昭和16	昭和17	昭和18	
回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	
マスケム(集団体操)	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
陸上競技	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水泳(水上競技)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
飛び込み(水上競技)	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水球(水上競技)	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
野球	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
硬式テニス(硬球)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
軟式テニス(軟球)	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
サッカー(ア式蹴球)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ラグビー(イ式蹴球)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ホッケー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	
バスケットボール(籠球)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
バレーボール(排球)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
相撲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
相撲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柔道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
剣道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
銃剣道	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	
弓道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
乗馬(馬術・鞍馬)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
図形競技	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	
戦術運動	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
射撃	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
卓球	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	
体操競技	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
自転車	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	
ハンドボール(蹴球)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
乗馬(馬術)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ヨット(海洋競技)	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	
射撃	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	
飛行機	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
グライダー	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
スキー	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
スケート	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	
行楽訓練	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	
演習訓練	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	

【体験談—サッカー部は滋賀師範と八幡商業しかありませんでした。】 Fさん・Sさん(大津市)

当時の滋賀師範学校の部活動には柔道・剣道・ボート・サッカーがあって、一部生(小学校高等科卒業後5年制)には必修でした。二部生(中等学校卒業後2年制)には、陸上競技や籠球(バスケットボール)・器械体操・庭球(テニス)などがありました。どの部に属するかは、極端な偏りがある等の場合以外は、本人の希望によって決まりました。

滋賀県下でサッカー部のあった学校は、滋賀師範学校の外には八幡商業だけでした。しかし、八幡商業は弱くて、滋賀師範の敵ではありませんでした。いつも10点位の差をつけ、滋賀師範が勝っていました。近畿では神戸一中(現在の兵庫県立神戸高校)・神戸三中(現在の兵庫県立長田高校)などが強かったです。京都師範・滋賀師範も、なかなかのチームでした。

1年生にとっては、毎日の部活動は実に苦しかったです。日曜の朝食後、ほっと一息入れる間もなく「石拾いに来ーい」と寮棟間に大声がかかると、1年生全員と1・2年生部員が出て、2年生部員の指示のもとに1年生全員横一列に並び、グラウンドの石拾

いにかかるのです。1年生部員は、皆が拾った小石をバケツに集めては捨てに行くのが任務となっていました。また、毎日の練習前の諸準備や後始末・ゴールネットの破れの補修やボールのパンク直し(外皮からチューブを出してパンク箇所を見つけ、破れにゴム糊でゴム片を貼ったのち、膨らませ水に浸けて空気漏れがないかを確認したうえ、水気を拭き取り、外皮の中に戻し、所定の圧力まで空気を入れ、外皮の口を革紐を通して閉じ、完了)・圧力不足のボールに空気を入れるなどして、翌日の練習に必要なボール数を揃えるのが1年生部員の仕事でした。これらネットの補修やボールの整備は、毎夜日課が終わり、就寝前の点呼が済んでから深夜近くまで、蹴球(サッカー)部専用の階段下倉庫前廊下の薄暗い裸電球の下で密やかに行われていたのです。そして、この時ほど1年生部員としての悲哀をひしひしと感じ、早く3年生になりたいと思ったことはありませんでした。

【体験談—夏のサッカー全国大会で3位まで勝ち進みました。】 Fさん・Sさん(大津市)

(滋賀師範学校の)3年生になると、部をやめる者もいましたが、私たちが宇野君・碓本君も1年生からのサッカー部員であり、私たちは最後までサッカー部で頑張りました。

細かい技術習練については、毎日上級生の巧みな個人技やタイミングのよい連携プレーなどを見ながら繰り返しハードな練習を積み、「うまくなるんだ」「彼らを越えてやるんだ」と自らを励まし、執念を燃やして取り組んでいたのも、能力の高い者はキックやパス・シュート、トラッピングやヘディング、フェイントや切り返し・ドリブル等々のテクニックやボールコントロールなどには意外と熟達していました。

夏の選手権大会や明治神宮国民体育大会に上位進出できたのも、執念を持ってハードな練習に耐え、パワーをつけると共に、比較的バランスよく細かい技術も習得されていたからであったと考えられて、厳しかった先輩のしごきや叱咤激励に対する怒りや反発の念は薄らぎ、旅費や宿泊費等大会の参加遠征に係わる費用捻出のための募金依頼に奔走されていたのも先輩たちであったことを知っては、怒りや反

発どころか恩義を感じ、感謝の気持ちで胸あふれる思いになったのです。

紀元2600年(昭和15年・1940年)を記念した第22回全国中等学校蹴球(サッカー)選手権大会(※夏に開催)では、県予選で対八幡商業戦を10-1、近畿ブロック予選では京都師範を6-3、和歌山の海南中を12-0と撃破して本大会に進み、1・2回戦では台湾の長栄中や仙台一中を破り、3位まで勝ち進みました。参加賞として9×13×1センチメートルのラワン材に直径5センチメートルのボールにキッカーをデザインした鉛製のメダルをはめ込んだ楯をもらいました。

秋の第11回明治神宮国民大会蹴球競技の「師範学校の部」にも出場しましたが、これも第3位入賞となって、主催者から個人賞状をもらっています。この大会の参加賞は直径3.7センチメートルの表面に「馬上の神武天皇像」をデザインした陶製(前回大会は3.6センチメートルのアルマイト製)でしたが私にとってはこれらの参加賞は純金製に勝るものとの気持ちが捨てきれず、今も大切に保存しています。

蹴球練習成宿 日課時間表

日	日	月	火	水	木	金	土	日
練習								
大会								
入賞								

蹴球練習成宿 日課時間表

「蹴球選手練習成宿要領」から転載

碓本 守 さん (1921~1945)

大津市の出身で、尋常小学校の高等科を卒業してから県庁に勤務していましたが、教師を目指して滋賀師範学校に入学されました。このため、同級生の宇野栄一さんよりは2歳年上でした。子供のころからサッカーが得意で、宇野さんと一緒に出場した第11回大会(昭和15年)の前年の明治神宮国民体育大会にも、滋賀師範チームのメンバーとして出場しています。

碓本さんは昭和18年9月に滋賀師範を卒業して、第一章で紹介した吉田信太郎さんと一緒に10月に三重海軍航空隊に入隊されました。その後、予科練習生の指導教官などを務めておられましたが、昭和20年5月4日に特別攻撃隊(特攻隊)として鹿児島県指宿から出撃し、沖永良部島(鹿児島県)周辺で戦死されました。

【体験談一兄は滋賀県のサッカー代表選手でした。】

碓本 智 さん(大津市)

私たちは5人兄弟(姉妹)で、兄の守と私は10歳違いです。滋賀師範(学校)附属(小学校)の高等科時代、兄はなかなか「元気」がよくて、何度も親が学校から呼び出しを受けていたようです。

高等科を卒業すると、しばらく県庁に勤めていましたが、その後、滋賀師範男子部に進みました。同級生で仲よしグループだった一人に、今西莞爾氏があります。

兄は、当時では比較的珍しかったサッカーが得意で、東京での(明治神宮)国民体育大会に滋賀県のサッカー代表選手として出場しました。1回戦で負けたそうです(※昭和14年の第10回大会。翌年の第11回大会では3位)。

間もなく、サッカーは敵性スポーツであることから廃止されました。

【体験談一同級生の碓本守君は、サッカーが得意でした。】

今西 莞爾 さん(大津市)

私は、昭和13年(1938年)4月に滋賀師範学校一部に入学しました。一部は(小学校)高等科2年を卒業し入学するもので、師範学校での就学期間は5年でした。1学年で一部が37名、二部が68名、合

計 105 名でした。

昭和 20 年 5 月 4 日、指宿基地（鹿児島県）より特攻出撃して沖縄・南西諸島方面で戦死した碓本守君と私は、滋賀師範学校一部での同級生です。碓本君は勉強はあまり好きな方ではなかったが、サッカーが得意でした。サッカー一部の連中は皆、血気盛んで、碓本君も鎖を持ったりして喧嘩が強かった。下級生は何かあると碓本君に殴られるので、彼をととても怖がっていました。しかし、根は非常に気の優しい男で親分肌でもありました。

彼は頑丈な体をしていましたが、足がO脚で膝が少し外へ広がっていました。教練の高野配属将校が、「一ヵ月以内にO脚を直せ。お前たちは戦友として、碓本のO脚を直してやれ」と命令しました。それで、友人が暇があったら碓本君の両脚を押さえつけたが、そんなことくらいで直るはずがありません。仕方がないので、1ヵ月目の検査のとき、脚に雑巾を巻き、その上からズボンを履かせてやりました。配属将校は、「それでよし。赤札!」と言ってくれた。私たち学生は、いつも名前の書いた赤札と青札を持っていました。褒められたら赤札を出し、叱られたら青札を出す。赤札が何枚か貯まると教練の成績が上がり、青札が増えると下がる仕組みになっていました。

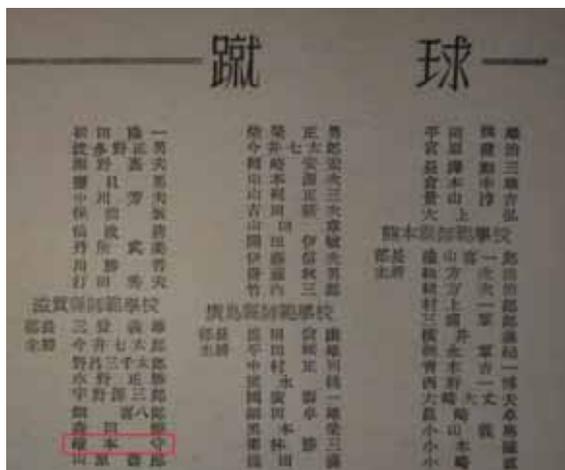


碓本守さん関係資料

上段：第10回明治神宮国民体育大会パンフレット（昭和14年）、腕章「滋賀県選士」、「県下中等蹴球選抜大会優勝」と書かれた桐箱（バッジが入っていたものと思われる）、中等学校選手権大会盾、宇野源三郎さんから碓本守さんへのハガキ、戦死通知、千人針

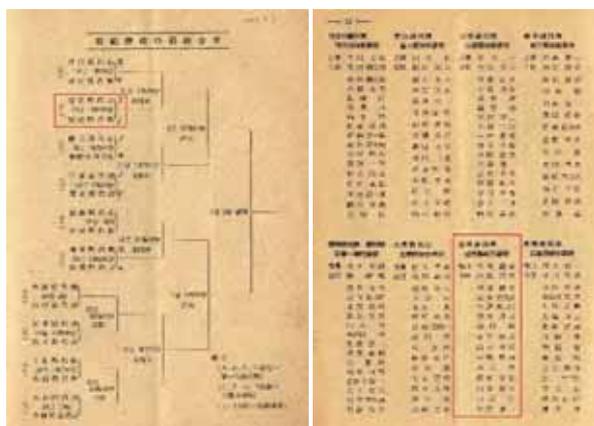
宇野源三郎さんは、碓本守さんと一緒に昭和14年の明治神宮国民体育大会に出場したメンバーです。

下段：『写真週報』第141号（昭和15年11月6日発行）、「任海軍大尉」



蹴球 師範学校試合組合・代表選手名簿（『第10回 明治神宮国民体育大会』（昭和14年）から転載）

この大会では、滋賀師範学校は初戦で敗退しています。選手名簿には、碓本守さんの名前があります。



師範学校の部組合せ・代表選手名簿

「第11回明治神宮国民体育大会 蹴球競技パンフレット」から転載

宇野 栄一 さん (1924~1945)

京都市生まれの宇野栄一さんは、市内の尋常小学校卒業後に滋賀師範学校附属小学校の高等科に入学し、昭和13年(1938年)に滋賀師範学校へ進学されました。滋賀師範では蹴球(サッカー)部員として活躍され、昭和15年の明治神宮国民体育大会などに出場されています。

教師になることを断念して、陸軍特別操縦見習士官第一期生に志願し、昭和18年9月に合格。鹿児島県の大刀洗陸軍飛行学校知覧教育隊に配属されました。この年の滋賀師範学校の卒業式は9月25日でしたが、卒業式の前に出発したようです。

特別攻撃隊(特攻隊)として昭和20年4月16日に知覧飛行場から出撃し、沖縄西方洋上で戦死されました。



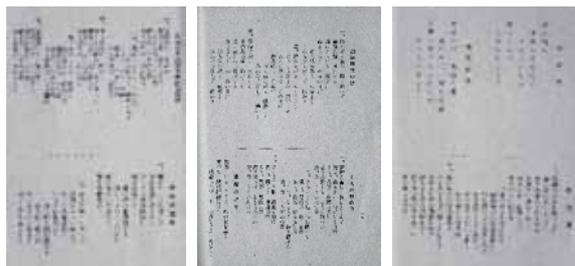
宇野栄一さん関係資料

蹴球第三位表彰状、明治神宮国民体育大会競技プログラム、第11回明治神宮国民体育大会のパンフレット、第11回明治神宮国民体育大会 蹴球競技パンフレット、蹴球選手錬成合宿要領、明治神宮御守、選手票、第11回明治神宮国民体育大会の参加章、腕章「滋賀県選士」、第11回明治神宮国民体育大会参加選手宿泊心得



宇野栄一さん関係資料

卒業証書、国民学校教員免許状、辞令及び勤務命令通知書、寄せ書き日の丸



君が代、海行かば、明治節、勤勞奉仕の歌、くろがねの力、食前の祈り、紀元二千六百年奉祝国民歌、蹴球行進曲
「蹴球選手錬成合宿要領」から転載



上：大津商業学校端艇部

下：大津商業学校端艇部の部員たち

『滋賀県立大津商業高等学校創立100周年記念誌』(平成18年(2006年)発行)から転載



栗山武男さんに贈られた寄せ書き日の丸

大津商業学校を昭和17年度に卒業された栗山武男さんは、端艇班

(ポスト部) 出身です。部活動の仲間から贈られた寄せ書きの日の丸を持って戦地へ赴き、学校の先輩である広瀬習一さんたちと同じフィリピンのレイテ島で、昭和19年に戦死されました。遺品の日の丸はアメリカ軍の兵士によって保管されていましたが、平成19年に返還され、大商史料館で展示・保管されています。

野田 佳穂 さん (1923~1945)

蒲生郡日野町出身の野田さんは、県立水口中学校(現在の水口高等学校)で陸上競技部に所属し、昭和15年(1940年)に早稲田大学に入学されました。陸上競技の中でも、特に障害物競走を得意とし、昭和17年の全国大学高専陸上競技大会では110mハードル(優勝タイム16秒2)と400mハードル(優勝タイム55秒7)の2冠を達成。同年の第29回日本陸上競技選手権大会でも400mハードルで優勝(優勝タイム56秒0)するなどの優秀な成績を残されており、日本を代表する陸上競技選手のひとりでした。

昭和18年に海軍第13期飛行科予備学生になられ、翌年にフィリピンへ派遣されて、昭和20年6月2日にレイテ島沖で戦死をとげられたそうです(※)。まだ22歳の若さでした。

※『滋賀陸上競技史』(滋賀陸上競技協会、昭和59年)を参考にして記述しましたが、墓碑銘では「ルソン島イバ北方にて戦死」とされています。

公認陸上競技日本記録										公認世界陸上競技記録									
種別	年	記録	氏名	所属	年齢	種別	年	記録	氏名	所属	年齢	種別	年	記録	氏名	所属	年齢		
100m	1925	17.2	高橋 啓	日本郵政	19	100m	1927	16.7	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	100m	1925	16.7	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
200m	1925	37.5	高橋 啓	日本郵政	19	200m	1925	37.5	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	200m	1925	37.5	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
400m	1925	1:11.0	高橋 啓	日本郵政	19	400m	1925	1:11.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	400m	1925	1:11.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
800m	1925	2:30.0	高橋 啓	日本郵政	19	800m	1925	2:30.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	800m	1925	2:30.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
1500m	1925	6:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	1500m	1925	6:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	1500m	1925	6:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
5000m	1925	17:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	5000m	1925	17:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	5000m	1925	17:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
10000m	1925	35:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	10000m	1925	35:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	10000m	1925	35:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
20000m	1925	70:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	20000m	1925	70:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	20000m	1925	70:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
30000m	1925	105:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	30000m	1925	105:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	30000m	1925	105:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
40000m	1925	140:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	40000m	1925	140:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	40000m	1925	140:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
50000m	1925	175:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	50000m	1925	175:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	50000m	1925	175:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
60000m	1925	210:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	60000m	1925	210:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	60000m	1925	210:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
70000m	1925	245:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	70000m	1925	245:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	70000m	1925	245:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
80000m	1925	280:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	80000m	1925	280:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	80000m	1925	280:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
90000m	1925	315:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	90000m	1925	315:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	90000m	1925	315:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		
100000m	1925	350:00.0	高橋 啓	日本郵政	19	100000m	1925	350:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23	100000m	1925	350:00.0	ヒューゴ・ボッシュ	オランダ	23		

昭和初期における陸上競技の公認記録

野田佳穂中尉の戦死

(日野町資料による)



蒲生郡日野町大字日田の出身で、野田六左衛門氏の長男として大正12年1月31日誕生、日野小学校から水口中学校にすすみ、ここで陸上競技部に属した。昭和15年早稲田大学に入ってから主に障害物競走における活躍ぶりは前出のとおりである。

太平洋戦争の勃発による時局の窮迫は何時までもこの若人に陸上競技の醍醐味を味合わせはあなかった。昭和18年、勇躍海軍第13期飛行科予備学生として祖国の難に馳せ参じ、19年比島ルソン島の空戦に海軍中尉として参加、翌20年6月2日、レイテ沖において華々しい戦死を遂げた。

この大戦に殉じた英霊の数は決して少なくない。幾多のアスリート、スポーツマンが悲憤の内に涙を呑んで散華していった。——その代表の意味で、野田中尉の霊に深甚な哀悼の意を表したい。(S)

『野田佳穂中尉の戦死』『滋賀陸上競技史』(滋賀陸上競技協会、昭和59年(1984年)から転載

野田佳穂選手の主な記録

1940年 第29回日本陸上競技選手権大会
400mハードル 55秒7
優勝

1940年 第29回日本陸上競技選手権大会
110mハードル 16秒2
優勝

1940年 早稲田大学
400mハードル 55秒7
優勝

1940年 早稲田大学
110mハードル 16秒2
優勝

1940年 早稲田大学
400mハードル 55秒7
優勝

1940年 早稲田大学
110mハードル 16秒2
優勝

野田佳穂選手の主な記録
『滋賀陸上競技史』滋賀陸上競技協会、昭和59年(1984年)から転載

エピローグ 終戦そして復興へ スポーツの復興

日本は連合国のポツダム宣言を受け入れて、昭和20年（1945年）8月15日に無条件降伏しました。東京、大阪などの大都市を中心に各地が焼け野原となっている悲惨な状況でしたが、新しい日本の建設に向けて、スポーツの復興が始まりました。

深刻な食糧不足により、ほとんどの国民が苦しい生活に耐えている状態でしたが、学校での授業が再開されて、運動会も行われるようになりました。昭和21年には、戦時中に中断されていた各種スポーツの全国大会が次々に再開されます。第1回の国民体育大会も京都を中心として開催されました。滋賀県でも漕艇競技が瀬田川で、ヨット競技が琵琶湖で開催されて、国体の会場になっています。この第1回大会には、漕艇の中等学校の部に県立長浜農学校が関西代表として出場し、見事に優勝を果たしています。



上：関西漕艇選手権大会 兼 国体関西予選会 決勝戦

会場：瀬田川、昭和21年（1946年）10月27日開催、左が長浜農学校（右は米子中学（鳥取県））

下：長浜農学校端艇部 第1回国体優勝のメンバー

『長農ボート百年史』（平成17年（2005年）発行）から転載

【体験談—高等科2年生の年は、かろうじて運動会できたの。】 大伴 方子 さん（大津市）
昭和20年（1945年）の終戦のころ、大伴さんは国民学校の高等科1年生でした。

運動場開墾してイモ畑になったと思うんで、運動会ができへんたんですわ。いつも秋に運動会しますわね。（運動場の）3分の1ぐらいは畑になってたと思う。そしたら運動会できへんのです。ほんで高等科1年生は運動会なし。終戦後、間なしの年は。

ほんで高等科2年生の年は、かろうじて運動会できたの。戦後やさかいに、もの植えんでもええさかいに。ほんでまた、元のようにきれいに運動場にしていね。ほんで、運動会できたの。

【体験談—終戦の年なんかは食べ物が無かったから走らへんわね。】 I さん（大津市）
戦時中、学徒動員で東洋レーヨン（大津市）で働いていましたが、戦後は瀬田工業学校に復学されました。

（戦時中は、）今あるバスケットとか野球とかは無かったですからね。英語を使うから敵国語やから、あったのは銃剣道、剣道とかの武術のクラブと、それに陸上部がなぜか知らんあったんですわ。その代わりに、走るだけじゃなくて、手榴弾を捕ったり、そんなことをやってたんです。クラブというよりも、（強制的に）どこかに入れやっただけね。

私は子供の時分から走りが結構速かったので、柔道部や剣道部やったら先輩の大きいのが来ますやんか。怖いですが。あんな怖いのは、かなわんさかい、足の速いのを利用して陸上部に入ったら、そこには一杯おったんですよ。（剣道とか柔道が嫌な子が）諸々が陸上部に来ておったと違うかな。

戦後、復学しますわね。終戦の後、8月ですから、まだ暑いですよ。校庭は半分以上がイモ畑になっていて、秋に授業も出来へんかったと違うかなあ。学校には行ってたけど、授業はしてなかったと違うかなあ、もう覚えてませんわ。

（教科書の）今までのところを墨で消しなさいと、そういうのは覚えてるけど。それで、秋だから運動会をしようということになったのかな。

今で言う瀬田工業高等学校（当時は瀬田工業学校）ですか、あそこに行ってたんですわ。あれは戦争中（※昭和14年（1939年）開校）に出来た

ので、秋には運動会をするしか、しょうが無かったと違うかなあ。下級生が上級生を集めて運動会をやって、はい、100メートルとか言ってやらはったけど、腹が減って走れなかった。割り当てじゃなくて、希望者みたいな形で走らせてはったけどね。何人走ったかな、ほとんど走ってないと違うかな、走ってる子といたら百姓（農家）の子くらいだと思うわ。

足には自信があったんやけども、終戦の年なんかは食べ物が無かったから走らへんわね、走る気力が無から走ってる人が少なかった。だから、もちろんグラウンド整備も適当にしてたんだろし、何人走ってたんかなあ。わずかしか走ってなかったと違うかな。ほとんどが周囲に、しょうがないから座ってただけで、人が走ってるのをこうやって見てた。ひどい状況だったね。

武道の禁止と復活

武道は戦時中に奨励され、軍国主義教育と強く結びついていましたが、GHQ（連合軍最高司令官総司令部）の指令により、昭和20年（1945年）11月に柔道・剣道・弓道などの武道を学校の授業や部活動で行うことが禁止されました。

柔道は昭和25年に、弓道は昭和26年に学校で教材として取り扱うことが認められます。しかし、剣道の復活は昭和27年に連合軍による占領統治が終わった後のことでした。その後、銃剣道も全日本銃剣道連盟が結成されて、日本体育協会にも加盟し、昭和55年から国民体育大会（現在の国民スポーツ大会）の競技としても行われるようになりました。

平成24年（2012年）には、中学校の保健体育の授業で武道が必修化されました。現在の学習指導要領では、いずれかを選択して履修させる柔道・剣道・相撲の3種目に加えて、空手道・なぎなた・弓道・合気道・少林寺拳法・銃剣道などについても履修させることができるとなっています。



第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」展示資料一覧表

展示資料番号	資料名	点数	資料説明	提供者名
第1章 昭和初期のスポーツ				
1	八日市中学校の生徒心得	1		個人
2	滋賀県体育協会競技章	1		田中 和之さん
3	彦根高等女学校の卒業アルバム	1	昭和15年：皇紀2600年	田中 和之さん
4	『ながら』第10号	1	大津市高等女学校発行（昭和14年（1939年）1月発行）	中西 一雄さん
5	『ながら』第11号	1	大津市高等女学校発行（昭和15年（1940年）11月発行）	中西 一雄さん
6	吉田信太郎さんの滋賀師範学校時代の制服	1		吉田 亀治郎さん
7	スキー板・ストック	一式		吉田 亀治郎さん
8	バスケットボールのゴールネット	1		吉田 亀治郎さん
9	吉田信太郎さんの水泳着	1	八日市中学時代のもの	吉田 亀治郎さん
10	学資計算簿	1		田中 和之さん
11	『校友会誌』第17号	1	彦根高等女学校、昭和13年（1938年）7月発行	田中 和之さん
12	第4回滋賀県中等学校優勝野球大会開催案内	1		個人
13	第4回滋賀県中等学校優勝野球大会招待券	1		個人
14	木銃	1		個人
15	「学校運動場（1）」「運動会の絵」「学校運動場（2）」	3		武田 倫江さん
16	ベルリンオリンピックについて報道した『オリンピック写真画報』	1	朝日新聞社、昭和11年（1936年）発行	個人
17	『写真週報』第8号（昭和13年（1938年）4月6日発行）	1	復刻版、『フォトグラフ・戦時下の日本』1（大空社、平成元年（1989年）発行）	当館
18	東京オリンピック記念年賀はがき（4枚セット）	一式		個人
第2章 戦争によるスポーツ環境の変化				
19	野球用グローブ	2	1点には「MIZUNO」の商標あり	個人
20	『同窓会誌』第15号	1	彦根商業学校同窓会、昭和14年（1939年）発行	田中 和之さん
21	武道日誌	1	昭和13年（1938年）度	碓本 綾子さん
22	武道日誌	1	昭和17年（1942年）度	宇野 博己さん
23	五年間武道寒稽古精勤賞状	1		宇野 博己さん
24	銃剣道一級証書	1		宇野 博己さん
25	寄せ書き日の丸	1	彦根高商剣道部	個人
26	武道日誌	1	昭和16年（1941年）度	碓本 綾子さん
27	『剣道精義』	1	東洋図書株式会社、昭和16年（1941年）発行	個人
28	剣道具（胴・籠手）	一式		吉田 亀治郎さん
29	吉田信太郎さんの剣道着（剣道着・面・前垂れ・籠手）	一式		吉田 亀治郎さん
30	滋賀師範時代の教案綴	1		宇野 博己さん
31	体力章検定証	1		宇野 博己さん
32	訓練用手りゅう弾	1		東近江市立能登川西小学校
33	賞状	1	昭和14年（1939年）度第1回手榴弾投擲競技に於いて	田中 和之さん
34	「支那事変聖戦博覧会」パンフレット	1	昭和13年（1938年）発行	個人
35	『校友会誌』第18号	1	彦根高等女学校、昭和13年（1938年）12月発行	田中 和之さん
36	『校友会誌』第19号	1	彦根高等女学校、昭和14年（1939年）3月発行	田中 和之さん
37	『会誌』第5号	1	彦根商業学校校友会、昭和7年（1932年）発行	田中 和之さん
38	『会誌』第6号	1	彦根商業学校校友会、昭和8年（1933年）発行	田中 和之さん

39	『会誌』第7号	1	彦根商業学校校友会、昭和9年(1934年)発行	田中 和之さん
40	『会誌』第11号	1	彦根商業学校同窓会、昭和10年(1935年)発行	田中 和之さん
41	『同窓会誌』第13号	1	彦根商業学校同窓会、昭和12年(1937年)発行	田中 和之さん
42	『同窓会誌』第18号	1	彦根商業学校同窓会、昭和17年(1942年)発行	田中 和之さん
43	三八式模擬銃	1		当館
44	「第7回大阪場所」パンフレット	1	昭和15年(1940年)6月	個人
45	関西大場所星取表	1	昭和14年(1939年)6月	個人
46	『小学生相撲読本 全』	1	田中宋栄堂、昭和13年(1938年)初版発行	個人
第3章 戦争の犠牲になったアスリートたち				
47	天川清三郎さんに贈られた寄せ書き日の丸	1		個人所蔵
48	平安中学校卒業時の天川清三郎さん(写真)	1		個人所蔵
49	天川清三郎さんの平安中学が優勝した昭和13年(1938年)の甲子園大会の様子	1	『週刊ベースボール別冊:春暖号』(ベースボール・マガジン社、平成元年(1989年)発行)	個人所蔵
50	第24回全国中学校野球優勝大会 スコアブック選手名鑑	1	昭和13年(1938年)発行	個人
51	第24回全国中学校野球優勝大会パンフレット	1	昭和13年(1938年)発行	個人
52	昭和14年度職業野球便覧	1	昭和14年(1939年)4月発行	個人
53	第16回全国選抜中等学校野球大会 選抜旗	1		滋賀県立大津商業高等学校所蔵
54	『滋賀県立大津商業高等学校 硬式野球部創部100周年記念部史』	1	令和5年(2023年)発行	滋賀県立大津商業高等学校
55	選士証	1		吉田 亀治郎さん
56	『写真週報』第246号	1	昭和17年(1942年)11月11日発行	個人
57	第10回明治神宮国民体育大会パンフレット	1	昭和14年(1939年)	碓本 綾子さん
58	腕章「滋賀県選士」	1		碓本 綾子さん
59	「県下中等蹴球選抜大会優勝」と書かれた桐箱	1	バッジが入っていたものと思われる	碓本 綾子さん
60	中等学校選手権大会盾	1		碓本 綾子さん
61	宇野源三郎さんから碓本守さんへのハガキ	1		碓本 綾子さん
62	戦死通知	1		碓本 綾子さん
63	千人針	1		碓本 綾子さん
64	『写真週報』第141号	1	昭和15年(1940年)11月6日発行	個人
65	「任海軍大尉」	1		碓本 綾子さん
66	蹴球第三位表彰状	1		宇野 博己さん
67	明治神宮国民体育大会競技プログラム	1		宇野 博己さん
68	第11回明治神宮国民体育大会のパンフレット	1		宇野 博己さん
69	第11回明治神宮国民体育大会 蹴球競技パンフレット	1		宇野 博己さん
70	蹴球選手錬成合宿要領	1		宇野 博己さん
71	明治神宮御守	1		宇野 博己さん
72	選手票	1		宇野 博己さん
73	第11回明治神宮国民体育大会の参加章	1		宇野 博己さん
74	腕章「滋賀県選士」	1		宇野 博己さん
75	第11回明治神宮国民体育大会参加選手宿泊心得	1		宇野 博己さん
76	卒業証書	1		宇野 博己さん
77	国民学校教員免許状	1		宇野 博己さん
78	辞令及び勤務命令通知書	1		宇野 博己さん
79	寄せ書き日の丸	1		宇野 博己さん
80	栗山武男さんに贈られた寄せ書き日の丸	1		滋賀県立大津商業高等学校所蔵
エピローグ				

第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」 写真・図表・パネル一覧表

章	項	写真・図表タイトル	提供者名	備考	
メインタイトル	パネル	第11回明治神宮国民体育大会の開会式（昭和15年（1940年）撮影）	宇野博己さん		
第1章 昭和初期のスポーツ	パネル	昭和初期のさまざまな学生スポーツ	曾和修さん、中居眞紀子さん、吉田亀治郎さん		
		県下女子中等学校競技会（大正14年（1925年）撮影、会場：県立長浜高等女子学校）	滋賀県立長浜北高等学校		
		県下高女連合競技会（昭和4年（1929年）度～6年（1931年）度ころ）	滋賀県立長浜北高等学校	『長浜北高百年史』（平成23年（2011年）発行）から転載	
		運動会風景（ダンス）	滋賀県立長浜北高等学校	『長浜北高百年史』（平成23年（2011年）発行）から転載	
		彦根高等女子学校の卒業アルバムに紹介されている運動部	田中政之さん		
		滋賀県立八日市中学校校友会規定	個人	八日市中学校の『生徒心得』から転載	
		滋賀県大津市高等女子学校平面図	中西一雄さん	大津市高等女子学校『ながら』第11号（昭和15年（1940年）発行）から転載	
		八日市中学校の水泳部員たち	吉田亀治郎さん		
		来日したカナダチームとのバスケットボールの試合	中西正人さん	『時事写真新聞』昭和14年（1939年）7月17日号から転載	
		第8回極東選手権競技大会に出場した栗太農学校の谷口忠康選手（昭和2年（1927年）8月に上海で撮影）	滋賀県立草津高等学校	『草津高等学校五十年誌』（昭和45年（1970年）発行）から転載	
		プール建設前の栗太農学校水泳大会（昭和2年（1927年）撮影）	滋賀県立草津高等学校	『創立70周年記念』（滋賀県立草津高等学校、平成4年（1992年）発行）から転載	
		昭和初期における競泳の公認記録	高橋 正さん		
		今津中学校の校内スキー大会（昭和12年（1937年）2月）	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	『滋賀県体育協会史』（財団法人滋賀県体育協会、平成元年（1989年）発行）から転載	
		全校雪中行軍 スキー練習	中西一雄さん	大津市高等女子学校『ながら』第10号（昭和14年（1939年）発行）から転載	
		大津商業学校のスケート場（昭和10年（1935年）12月7日使用開始）	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校創立100周年記念誌』（平成18年（2006年）発行）から転載	
		第10回明治神宮国民体育大会（昭和14年（1939年））でのラグビーの試合 神戸二中 VS 秋田工業 戦	国立公文書館	『写真週報』90号（昭和14年（1939年）11月8日号）アジア歴史資料センター Ref. A06031068500、写真週報から転載	
		緑ヶ丘球場と仮停車場（臨時停車場）の位置	滋賀県立公文書館	滋賀県立公文書館ホームページのデジタル展示「体育ノススメ～鍛えよからだ～」から転載	
		緑ヶ丘球場での中等学校京津大会（昭和2年（1927年））	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	『滋賀県体育協会史』（財団法人滋賀県体育協会、平成元年（1989年）発行）から転載	
		緑ヶ丘球場での中等学校京津大会決勝後の行進（昭和5年（1930年））	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	『滋賀県体育協会史』（財団法人滋賀県体育協会、平成元年（1989年）発行）から転載	
		近江神宮外苑に昭和15年（1940年）に造営された運動場	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	『滋賀県体育協会史』（財団法人滋賀県体育協会、平成元年（1989年）発行）から転載	
	第2章 戦争によるスポーツ環境の変化	パネル	栗太農学校の銃剣術班	上村清子さん	
			日本蹴球代表チームの試合	個人	『オリンピック写真画報』（朝日新聞社、昭和11年（1936年）発行）から転載
			開会を宣するヒトラー総統	個人	『オリンピック写真画報』（朝日新聞社、昭和11年（1936年）発行）から転載
			昭和15年（1940年）のオリンピック開催に向けて滋賀県が選手強化に取り組んでいたことを示す昭和12年（1937年）の公文書	滋賀県立公文書館	滋賀県立公文書館ホームページのデジタル展示「体育ノススメ～鍛えよからだ～」から転載（滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭お45（24）」）
			皮革使用制限規則	国立公文書館	『皮革需給調整に関する件（臨時物資調整局第5部長より）』JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A05032337100、警保局長決裁書類・昭和13年（上）
			母校々友会報 庭球部	中西一雄さん	彦根商業学校同窓会発行の『同窓会誌』第15号（昭和14年（1939年）発行）から転載
		大津商業学校柔道部	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校創立100周年記念誌』（平成18年（2006年）発行）から転載	
		大津商業学校剣道部	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校創立100周年記念誌』（平成18年（2006年）発行）から転載	
		体操風景（銃剣術）昭和16年（1941年）度～18年（1943年）度ころ	滋賀県立長浜北高等学校	『長浜北高百年史』（2011年発行）から転載	
		『剣道精義』表紙、「神様に拝礼」・「相互に礼」	個人	国民学校での剣道指導用に昭和16年（1941年）に刊行された『剣道精義』から転載	
		傷兵慰問体育運動大会の紹介記事	中西正人さん	『時事写真新聞』昭和14年（1939年）3月25日号から転載	
		初六男 体練科武道授業案	宇野博己さん	宇野栄一さんの「滋賀師範時代の教案綴」から転載	
		高二男 体練科体操指導案	宇野博己さん	宇野栄一さんの「滋賀師範時代の教案綴」から転載	
		滋賀県立彦根工業学校学科課程及毎週教授時数（昭和17年（1942年）、本科機械科）	滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県立彦根工業高等学校創立80周年記念誌『飛揚』（平成12年（2000年）発行）から転載	
		草津高等女子学校での学校教練	滋賀県立草津高等学校	『創立70周年記念』（滋賀県立草津高等学校、平成4年（1992年）発行）から転載	
		全国中等学校射撃大会の紹介記事	中西正人さん	『時事写真新聞』昭和14年（1939年）8月7日号から転載	
		彦根工業学校の銃器庫内部	滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県立彦根工業高等学校創立80周年記念誌『飛揚』（平成12年（2000年）発行）から転載	

	学校生徒数及教練用銃器類調査報告	滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県立彦根工業高等学校創立 80 周年記念誌『飛揚』（平成 12 年（2000 年）発行）から転載	
	第一回 県下中等学校連合射撃大会要綱昭和 7 年（1932 年）開催	当館撮影	滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し 157（15）」	
	第一回 県下中等学校連合射撃大会の会場概略図と標的	当館撮影	滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し 157（15）」	
	払下兵器品目価格標準表 昭和 8 年（1933 年）度	当館撮影	滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し 157 - 37 - 54」	
	軍用銃器払下に関する参考調査表 昭和 7 年（1932 年）度	当館撮影	滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し 157 - 19 - 26」	
	昭和 8 年（1933 年）度 学校教練査閲日割表（第九師団担当分）	当館撮影	滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し 157 - 27 - 37」	
	昭和 8 年（1933 年）度 学校教練査閲日割表（第九師団・第十六師団担当の県内分）	当館撮影	滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭し 157 - 35 - 50」	
	「第三十一回大運動会」	田中政之さん	彦根高等女学校の『校友会誌』第 18 号（昭和 13 年（1938 年）発行）から転載	
	「西宮聖戦博覧会見学」	田中政之さん	彦根高等女学校の『校友会誌』第 18 号（昭和 13 年（1938 年）発行）から転載	
	昭和初期の彦根商業学校の様子	田中政之さん	滋賀県立彦根商業学校校友会『会誌』第 5 号（昭和 7 年（1932 年）12 月発行）から転載	
	「グライダーの飛行訓練」	田中政之さん	彦根高等女学校の『校友会誌』第 19 号（昭和 14 年（1939 年）発行）から転載	
	「滑空機の活躍」	田中政之さん	『同窓会誌』第 18 号（昭和 17 年（1942 年）、彦根商業学校同窓会発行）から転載	
	長浜農学校に昭和 17 年（1942 年）に創設された滑空班	滋賀県立長浜農業高等学校	『長農百年史』（平成 11 年（1999 年）発行）から転載	
	「国民皆泳」のスローガンを記した記事	中西正人さん	『時事写真新聞』昭和 14 年（1939 年）8 月 14 日号から転載	
	彦根工業学校の相撲部	滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県立彦根工業高等学校創立 80 周年記念誌『飛揚』（平成 12 年（2000 年）発行）から転載	
	「ラジオ体操実施ノ件通知」	滋賀県立公文書館	滋賀県立公文書館ホームページのデジタル展示「体育ノススメ～鍛えよからだ～」から転載（滋賀県特定歴史公文書 請求番号「昭お 36（20）」）	
	長浜農業学校の朝礼時に行われた天突き体操、昭和 15 年（1940 年）度	滋賀県立長浜農業高等学校	『長農百年史』（平成 11 年（1999 年）発行）から転載	
	彦根工業学校の校舎間空地で食糧増産に励む生徒たち	滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県立彦根工業高等学校創立 80 周年記念誌『飛揚』（平成 12 年（2000 年）発行）から転載	
第 3 章 戦争の犠牲になったアスリートたち	バナー	大津商業野球部と広瀬習一選手	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校 硬式野球部創部 100 周年記念部史』（令和 5 年（2023 年）発行）から転載
		巨人軍のユニフォーム姿の広瀬習一選手	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校 硬式野球部創部 100 周年記念部史』（令和 5 年（2023 年）発行）から転載
		「鎮魂の碑」に刻まれた戦没プロ野球選手の名前	当館撮影	管理者：公益財団法人野球殿堂博物館
		東京ドーム横に建立されている「鎮魂の碑」	当館撮影	管理者：公益財団法人野球殿堂博物館
		主なプロ野球選手の兵役期間	当館作成	
	バナー	滋賀師範学校蹴球部	宇野博己さん	
		第 11 回明治神宮国民体育大会での「2600」の人文	中西正人さん	『時事写真新聞』昭和 15 年（1940 年）11 月 9 日号から転載
		第 13 回（昭和 17 年（1942 年））明治神宮国民錬成大会の開会式	吉田亀治郎さん	
		第 13 回大会の青少年団水泳競技で優勝した滋賀県チーム	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	『滋賀県体育協会史』（財団法人滋賀県体育協会、平成元年（1989 年）発行）から転載
		明治神宮国民体育大会 競技種目・演目一覧表	当館作成	
		蹴球錬成合宿 日課時間表	宇野博己さん	「蹴球選手錬成合宿要領」から転載
		蹴球 師範学校試合組合	碓本綾子さん	『第 10 回 明治神宮国民体育大会』（昭和 14 年（1939 年））から転載
		蹴球 代表選手名簿	碓本綾子さん	『第 10 回 明治神宮国民体育大会』（昭和 14 年（1939 年））から転載
		師範学校の部組合せ・代表選手名簿	宇野博己さん	「第 11 回明治神宮国民体育大会 蹴球競技パンフレット」から転載
		君が代、海行かば、明治節、勤労奉仕の歌、くろがねの力、食前の祈り、紀元二千六百年奉祝国民歌、蹴球行進曲	宇野博己さん	「蹴球選手錬成合宿要領」から転載
		大津商業学校端艇部	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校創立 100 周年記念誌』（平成 18 年（2006 年）発行）から転載
		大津商業学校端艇部の部員たち	滋賀県立大津商業高等学校	『滋賀県立大津商業高等学校創立 100 周年記念誌』（平成 18 年（2006 年）発行）から転載
		昭和初期における陸上競技の公認記録	高橋 正さん	
		「野田佳穂中尉の戦死」	一般財団法人滋賀陸上競技協会	『滋賀陸上競技史』（滋賀陸上競技協会、昭和 59 年（1984 年））から転載
		野田佳穂選手の主記録	一般財団法人滋賀陸上競技協会	『滋賀陸上競技史』（滋賀陸上競技協会、昭和 59 年（1984 年））から転載
	エピソード	関西漕艇選手権大会 兼 国体関西予選会 決勝戦（会場：瀬田川、昭和 21 年（1946 年）10 月 27 日開催、左が長浜農学校（右は米子中学（鳥取県））	滋賀県立長浜農業高等学校	『長農ボート百年史』（平成 17 年（2005 年）発行）から転載
		長浜農学校端艇部 第 1 回国体優勝のメンバー	滋賀県立長浜農業高等学校	『長農ボート百年史』（平成 17 年（2005 年）発行）から転載

滋賀県平和祈念館 令和6年度 地域交流室展示

戦傷病者の社会復帰

(会期：令和6年10月9日～令和7年2月9日)

戦場で傷を負った方々等の
その後のあゆみ

地域交流室展示

戦傷病者の 社会復帰

一歩の追撃砲弾で私の部隊は全滅しました。
私は右目が見えなくなり、帰郷することになりました。

さあ、これからどう生きるか。戦友は戦争で死んでいる。

「野戦では間に合わないが、建物の敷居なら役に立つ」
ということで、「傷痍軍人の小学校教員養成学校」へ入りました。

(H24)

滋賀県平和祈念館は、県民の戦争体験と関連資料を収集してきました。
展示では、戦地での負傷者や感染症などを患った方々の社会復帰
に焦点をあて、体験談を交えながら帰郷後の生活を紹介します。

関連行事：平和教育講座
令和7年(2025年)1月18日(土)13:30～
「義肢の歴史 川村義肢歴史展示室の資料紹介」
(講師：川村義肢株式会社 剣持 悟氏)

令和6年(2024年) 10月9日(水)～ 令和7年(2025年) 2月9日(日)

滋賀県平和祈念館1階 地域交流室
協力：川村義肢株式会社

入館
無料

開館時間/9時30分～17時(入館は、16時30分まで)
休館日/月・火曜日(12/23-1/7は3休館)
※その他業務の都合により休館する場合がございます。
駐車場/約50台(無料)

〒527-0857
滋賀県米原市下平野町49番地
電話：078-45-0000、E-mail:hiwakawo@fnpn.jp

ごあいさつ

滋賀県平和祈念館は、昭和6年(1931年)の満州事変からアジア・太平洋戦争までのおよそ15年にわたる戦場や県内の暮らしを中心に、体験談を聞き取り、関連する資料を収集してきました。

長きにわたる戦争では、多くの戦傷病者、戦死者を出しました。当館には、戦場で負傷または感染症などを患った方々から提供いただいた体験談や資料を保管しています。戦友を残し、二度と戦場に戻れない身体となった心苦しさを吐露した体験談や、戦場で失った手足となった義肢装具があります。終戦後は、戦傷病者に対して支給されていた恩給が一部を除き廃止となり、苦しい状況におかれましたが、自身の可能性を諦めず社会とかがわってきました。令和6年度地域交流室展示では、体験談や資料をとおして、戦傷病者のあゆみを紹介します。

さいごに、今回の地域交流室展示にあたりまして、これまで当館に体験談と資料を提供いただいた方々、また、戦傷病者の概要やリハビリなどについては、川村義肢株式会社、しょうけい館、日本義手足製造株式会社、兵庫医科大学 道免和久さんより御所蔵資料や記録映像を提供いただきました。あらためて深くお礼申し上げます。

令和6年(2024年)10月9日

滋賀県平和祈念館



地域交流室 導入展示

第1章 戦地での負傷

受傷病の原因

戦場での受傷病の状況について、しょうけい館のパネルを用いて紹介しました。それによると、戦地での受傷病の原因は、①銃弾、砲弾、投下された爆弾などによる戦傷、②結核やマラリアなどの感染症、戦場の恐怖から引き起こした精神病など戦病でした。展示では、陸海軍別の受傷原因などを示しました。

戦傷病者の收容と医療の流れ

戦傷病者となった兵士に対して、第一線では衛生兵によって応急処置が行われ、重傷者は野戦病院へ搬送されました。戦争末期の野戦病院は、医療品が不足するなか、多くの戦傷病者を看る状態となりました。



第1章 戦地での負傷のパネル展示

【体験談—ハチの巣を叩いたようなもんや】

Nさん (甲賀市)

Nさんは、昭和14年(1939年)に志願して呉海兵団へ入団しました。昭和18年(1943年)に駆逐艦「岸波」に転属を命じられ、翌年の昭和19年(1944年)フィリピン・ルソン島のリングエン湾の戦いに参戦しました。

ボルネオを出て、明るる日の朝、鈴谷、摩耶、鳥海、愛宕、重巡洋艦4隻が敵の魚雷にやられ、そして武蔵がやられましてん。おとりの長野、金剛やは太平洋側から攻めよったや。僕らはリングイエン湾の方から攻めに行った。それから毎日空襲空襲で、夜はありませんけどね。私らの船は何発撃ったかなあ。なんせ弾あるだけ撃ちましてん。

けど、リングイエン湾に行ったら、駆逐艦なんか相手にしてくれませんねん。長野やら金剛やら戦艦ばっかし。ちょうど、蜂の巣を叩いたようなもんや。叩くと火災が起こる。そうすると消火しよる。また、機銃掃射でやりよる。船が沈む。重油が浮く。海は重油が燃えて、兵隊はその中を泳いでる。もう、断末魔でしたなあ。そらあ、もう酷かったなあ。こっちには、もう飛行機はぜんぜんあらしまへんねん。

今度は(敵が)駆逐艦を相手にしてきましたん。その爆弾が岸波のそば、海面で爆発しまして。高いところから弾を落としたり、水面は鉄板と同じだけの硬さになる。直撃したら、海面で炸裂する。その断片が砲筒を突き抜けて、わしの手に当たってそれから一番砲長の腹の中に入ったんや。一番砲長はそこで即死やった。私は白のはちまきを20本もろてきてそれで止血しましてん。

岸波も「撃ち方、止め！」があったから、夜になって「治療を受けよ」と言われて「はい！」と、医務室に行った。そこで簡単な手術(左手の切断)をしてもろたんや。

気が立ったるから(麻酔がなくても)痛いことあらへん。一番痛いのは神経を切るとき。(弾が当たった時は)カンを立ったるから、痛いことあらへん。もう死ぬと思てるから痛いことあらへん。順番待ってた兵隊の機銃兵は出血多量で死によった。

もう役に立たんので、レイテまでうちの班員が送ってくれて、それから私は巡洋船に乗せてもろて、

その後、小さな病院船に乗った。そこでまた仮手術をして、それからマニラに行った。

【体験談—Iさんの体験談① 「あ、わし、生きていたんや」】

Iさん（草津市）

Iさんは補充要員として、昭和13年（1938年）に陸軍の輜重兵に入隊しました。自動車の運転手として中国の湖北省武昌から江西省南昌へ兵士輸送の任務中に襲撃されました。

その時は、東北の方から新設の部隊が来ましてんや、大きい部隊が。それが、南昌攻撃に移動する時で、その輸送に行っていました。トラックに武装した兵隊が1個小隊ぐらいやったんかな。その部隊を何十台と連なって、輸送に行きますねん。

私はその日『自衛車』ゆうてね、50台ほど連なる中の1番先頭の自動車に乗っていました。前を走る犠牲車です。地雷踏んで飛ばされたら、そのまま全部が戦死ですわな。もう、死骸もあらへんわ。

昭和14年（1939年）5月29日、目的地から6kmど手前で休憩があつて、なんやら敵の気配がするなあゆう話でしてん。山の谷へ行ったら、道の両脇の土手の方ににずーと菰（ワラで編んだもの）を被った敵が待ってったんや。蒋介石の直営軍で強いですわ。全部で300名程いましたな。

昼の12時半頃ですわ。敵がおるでなあゆうてそこを通ったら、バンバンバンバンと撃ってきたんですわ。敵がおるゆうので止めたら、前の橋が黒こげや。この辺でゆうたら、逢坂山の辺りみたいなもんや。道は、バラス（砂利）も何もない泥の道や。橋ゆうな橋やないけど、そこ通ろ思てたら、橋は落としてしても。前へ行けしませんわな。上から敵が、バーッと撃ってきよりますねや、自衛車1台に。後方に迫撃砲積んだり銃器とか機関銃積んだりしてる自動車が応援してくれよつて、敵が、いられんゆうて逃げよりましたん。

自衛車に乗ってったんは15~6人やったんかな。全部やられて。そんだけケガしてるんやから、奥へ行くのは中止や。軍医さんも皆いたから、仮病舎をこしらえてそこで治療してくれましてん。のどからあごから、肩からやられてますさかいな。

昼やさけ、ようよう周りが見えたんねやけど視力がないようになってね。何にも見えんようになりました。ほんで、右の手はブラブラやしね。服のボタンはずして、胸元に突っ込んだんは、覚えてますねん。もうほで、だんだんだんだん暗うなつてきて、もう、これが最後やなあ思た。

意識なくなって、夜中の2時か3時頃に気がつきましてん。リングルを打つてくれてたみたいで、「この薬が効いたんやから、もう死なへん言うとのぞ。」言われて。「あ、わし、生きてたんや。」思いました。ほつたらかされてたら死んでますわ。

右肩を骨折し、歩けなくなったIさんは、昭和14年（1939年）7月に日本へ送還されました。

【体験談—人間かなわぬ時の神頼み】

H Yさん（東近江市）

昭和13年（1938年）から日中戦争に参加したH Yさんは、同年10月の揚子江沿岸での激しい戦闘で左足を負傷しました。

10月の18日の晩、敵の擲弾筒（個人サイズの軽迫撃砲）。よつて倒れた。その爆風であおられて、長い大きな竹で足元をガーッとすくわれるような痛さを感じて。転んでちょっと3~4メートルあるいは5メートルもあったかしらんが、山をまくれて下りた。

止血をせねばと思つて、持って行つた三角巾という布切れで止血をして、左足の大腿の部分のぐつと付け根の方でひとつ結わえた。これでは十分ではないと思つて、注射などに使われるゴム管で股の上をしっかりとくくつて。

もうほの時は、本当にねもう一生懸命。人間叶わぬ時の神頼みということは、よく聞いておりました。ほして一生懸命に命だけはとり繋ぐようにとおすがりしたのは、それ一遍限りだつたと思つております。

連隊の野戦病院の軍医さんが「この足は切断以外にお前の身を助ける道はない」と聞かされて、「はい」と答えはしましたが。世の中真っ暗にくらがつてきて、何とも知れない気持ちになつたことも、その時初めて経験した。我29歳にして終わりか、もうここまでの命かと、断念するような気分になりました。



第1章 戦地での負傷（前半）

戦地から後方へ

長期の治療を要する患者や重症患者に対して、野戦病院から兵站病院に搬送されました。さらに長期の治療を要すると診断された患者らは、病院船で日本の陸海軍病院に還送され、そこで療養や訓練を受けました。また、失った機能を補う義手足が造られました。

例えば、当時の最新技術で製作された恩賜の義足は、皇后から下賜されたもので、ありがたいものとされていました。その他に、恩賜の義眼や包帯、外観を重視した装飾用の義手などを展示しています。

東京第一陸軍病院では、海外の事例を参考に、鉄脚義足を開発・実用化しました。鉄脚義足を装着した兵士は、行進や体操のほか、球技やスキー、自転車などの訓練をしました。



第1章 戦地での負傷（後半）



【写真】恩賜の義足（戦時中、川村義肢株式会社 提供）

手足などを失った兵士に対し、皇后から下賜されたものです。戦争当時の最先端の技術で製作されており、とても高級でありがたいものでした。しかし、本人に合わせて製作されたものではなかったため装着する人は少なかったようです。または畏れ多いという思いから、未使用のまま大切に保管される場合が多いです。

ソケット部分（切断部位と接する部分）はアルミの叩き出しで、バケツ型と呼んでいました。外装の革貼りは一枚物で筋金の筋を付けており、優れた美観となっています。大腿部前方のボタンを押すことで、膝の屈曲制限を解除することができます。また、中腰の姿勢を取りたいときは、下腿前方のつまみを回せば膝の軽度屈曲位を保持できます。さらに内蔵されたばねの力で屈曲制限機能も有しており、当時の最高技術が注ぎ込まれた義足といえます。

【体験談—Hさんの体験談① 二度と戦争には間に合わん、ということになったんです】

Hさん（東近江市）

Hさんは、昭和13年（1938年）5月に召集令状を受け、歩兵第109連隊の軽機関銃隊の分隊長を命じられました。同年10月から戦地の作戦に参加しました。

私が怪我をしたのは、その貴池県（今の中国東部にある安徽省）ちゅうとこです。私の分隊は、中隊の予備をしておりますね。ほんまの一線にはおらず、鉄砲や機関銃をばしばし撃ってるそのすぐ後ろの方。必要なところへ補充されていくという予備隊であったわけです。そこで砲撃を受けましてね、私の分隊、軽機関銃分隊というのは、中隊にとっては、非常に

大事な戦闘力なんです。ここでほとんど全滅し3人戦死。私をはじめ、5～6人くらいは怪我したと思います。一発の迫撃の砲弾で、私の軽機関銃分隊は、戦闘能力がなくなってしまった。

私は、こっちから上へね（上半身）砲弾破片を受けましてね。顔面に、最初は擦過傷（皮膚がすりむいた状態）と思っちゃったんですけどね。

私はほんまいうと、もう一遍原隊へ帰りたいという気持ちがあった。というのは、なんしろ、自分らの戦友が皆、戦死したり、怪我したりしてますでね。私だけがこんな所でうろろして、ほして、内地へ帰されるようなことは、自分の気持ちとしては耐えられんなあという、そういう思いがありましたんで、なんとか原隊復帰をと思ったんですが。

（私は）怪我をして、もう再起不能。私は右の眼がもう見えんようになりましてね。それで、上海の兵站病院で連隊復帰は不可能、内地還送やということで、内地へ帰されました。

12月17日に広島陸軍病院へ収容され、昭和14年（1939年）広島から京都の高野川陸軍病院へ転送され、3月14日に高野川の病院を退院しました。その時の兵役法によって、私は、もう兵役を免除されたんです。二度と戦争には間に合わん、ということになったんです。

【体験談—フィリピンの民兵に襲撃されて】

TTさん（近江八幡市）

TTさんの部隊は、ゲリラ戦で抵抗するフィリピン人の民兵を掃討するため、ルソン島南部のキャラモアーン半島へ送られました。

（米軍が降伏した後は）「ゲリラが出た」といっては討伐に行ったりしましたんや。部隊が分散して、小さな街まで10人とか20人とかの（部）隊で行くわけです。でもね、ゲリラ（民兵）も現地人です。住民みたいな服を着て、銃やらは隠してますしね。普通はわからないですよ。よその国から来て、（日本軍が）統治するわけです。若い血気に走った者が（祖国を）奪回するため、襲撃してきたんです。

（警備地区では）本部から連絡船で港まで運んでくる食糧や弾薬、給料などを山の中（の道）を通過して、月に1回、取りに行っていたんです。昭和18年

（1943年）1月、山の上から手りゅう弾とかで襲撃されて、また、怪我したんです。目の前で手りゅう弾が爆発して、顔面や両上肢、胸部が爆傷で、両眼とも見えなくなりました。入院して1週間ほどして、眼帯を取ると、左眼がかすかに見えるだけで、右眼は全然見えなかったんです。そしたら、眼科専門の軍医が来られて、「君の眼は化膿してるから、化膿を放っておくと良い眼まで駄目になるから、ちょっと膿を取るから」と言って、右眼の摘出でした。その後、そこそこ良くなったら、「国のためやと思って、右眼をもう、あきらめてくれ。国としては、まあ出来るだけのことはしてもらえんから」と、引導を渡されたわけです。

その頃は、（ルソン島も）わりあい平和やったから、戦傷の人（戦争で負傷した入院患者）が少なかったんです。眼科に20人ほど（入院患者が）いましたが、戦傷関係の人は2人だけでしたね。院長回診なんかでも、戦傷関係（とそれ以外の患者）との、差別がものすごかったですな。それで、入院している間も、私らは戦傷関係ということで大事にはしてもらえませんでした。でも、「片眼は健康でこのまま見えてほしい。この眼だけは助けておくれ」と、一生懸命祈っていましたね。

1月に怪我して、マニラの病院で摘出手術してもらって、4月に病院船で帰ってきました。病院船は「いかなることがあっても、誰も攻撃が出来ない」という規定があって、真っ白に塗ってあったんです。三笠丸という病院船で富山に帰って来て、その後、東京の第1陸軍病院で『恩賜の義眼』を入れてもらったんです。



御恩の義眼（個人提供）



展示風景（左から、御下賜包帯、傷痕軍人手帳、恩賜の義眼、
軍人傷痕記章、負傷した兵士の手首に入っていた砲弾破片、
『闘ふ義手』）

【体験談—Tさんの体験談① 手だけで歩こう と固く決心】

Tさん（大津市）

Tさんは、昭和18年（1943年）、独立混成第34旅団に配属されました。翌年に仏領インドシナのサイゴン（今のベトナムのホーチミン）に上陸、昭和20年（1945年）3月、戦闘で負傷し入院しました。この時のTさんは、両肢関節脱臼や顔面骨折の重傷でした。病院には、松葉杖だけで歩く兵士をみかけ、Tさんは手だけで歩こうと練習をはじめました。

松葉杖でやりかて、その時に何遍もひっくりかえって倒れまして、立ち上がるといっても、自分では立ち上がれないから、他の人手をかりて立ち上がる。それで腕が丈夫になってきまして、半月も1カ月もしていたら足も関係なしで、手だけで歩く稽古をしました。松葉杖について手だけで歩いている人もたくさんいるんですから、私もそれを真似しようと思ひまして、足を地面に付けずに手だけで歩こうという固い決心で、その頃はまだ若いからそれくらいのはできました。

昭和21年（1946年）5月に帰国、病院を転々としてきましたが、12月に退院することになりました。

もうここにも治療の方法はないし、強制的に退院しなさいと。次から次へと入って来るものですから、患者が待っていますから、私は終戦の翌年の12月30日に新発田の陸軍病院を松葉杖を頼りに退院したわけです。退院しても行く所がありませんが、とりあえず、家内のいる佐渡に行くより他にしようがなかったんです。



【写真】鉄脚（戦時中、川村義肢株式会社 提供）



「わが鉄腕、鉄脚部隊」、『写真週報』54号（昭和14年3月1日号、内閣情報部編集）

第2章 帰国、リハビリ

臨時大津陸軍病院

昭和13年（1938年）2月10日、大津市別所にあった第9連隊の兵舎の跡地に臨時大津陸軍病院

が開設しました。昭和18年(1943年)には、臨時大津陸軍病院は北側へ移り、跡地に大津陸軍少年飛行兵学校が設置されました。



【写真】臨時大津陸軍病院内の様子

臨時大津陸軍病院の新聞「湖寮の友」

展示した「湖寮の友」は、臨時大津陸軍病院の新聞として、軍人患者や職員へ配布されたものです。この中から、臨時大津陸軍病院の取組を紹介します。

臨時大津陸軍病院は、後方治療の施設として位置づけられ、患者らは、自転車行軍(行軍は、兵士が目的地まで長時間歩く訓練を指す軍事の言葉)や水泳など身体機能の回復のための訓練を受けていました。運動部には、野球部や弓道部、庭球(テニス)部があり、他の団体との交流試合に参加していたことがわかります。

「職業準備教育」という名目では、除隊後の就職に必要な技能を習得することができ、科目には電気工学機械科、農畜産科、竹細工科、ミシン科、タイプ科等がありました。また、「趣味情操教育」には、短歌科、俳句科、詩吟科、絵画科等があり、「湖寮の友」には、患者らの俳句や短歌の作品が紹介されています。その他の科目には、写真科、ハーモニカバンド科、茶道科、活花科、水引科、珠算科、絵画科、園芸課、音楽科、尺八科、ラジオ科などがありました。(「湖寮の友」第43号、44号、46号～56号)



「湖寮の友」第56号(臨時大津陸軍病院 湖寮の友編集部、昭和18年2月発行)

【体験談— Iさんの体験談② 大津陸軍病院での療養】

Iさん(草津市)

中国で兵士輸送の任務にあたっていたIさんは、敵の襲撃に遭い右肩を負傷しました。ここでは、帰国後の臨時大津陸軍病院での療養生活について語っておられます。

40度近い熱がずっと出てましてん。うなされますわな。「手さえちぎったら、平熱になる」と。そう言いよったら、ほんまかいなと思いますわな。そやけど、手は動くんやしね。ほかすのもったいないし、何とか1週間ほどがんばってましたんや。

傷口のところが青うなってきたんや。濃い青の膿が出てきて。それが毒やったんや。いよいよ手術せなこれは治らん。骨がぐちゃぐちゃになってるから、そこから膿がでてくるさかい。きれいな骨にしようゆて。4時間ほどかかって手術して。軍隊は麻酔もちょっとはしときよんねけど。ガバッとシートかぶせよんねんけど、痛いさかい「殺せー、殺せー！」ちゅうて。(膿を取り出したので)肩にだいぶん大きな口があいとったな。

機能障害があるから、ちょっと動くように運動ささなあかんやろ。で、マッサージしてもうたり、いろいろしてましてん。その間、やんちゃばかりしてました。手はちょっと不自由でも体は達者やからね。あんまりやんちゃしたら、去なす(帰らす)ゆて軍医さんが言うてはった。

7月に水泳があつてん。大津の柳が崎のところに尾花川ゆう湖岸があつて埋め立てして水泳ができるようにしたつた。そこに、病院から毎日、5組ずつほどが、朝早い時は10時頃から、遅かったら3時頃の間で行つてた。50mほど向こうに船があるねん。そこまで泳いでいってんけど、上がれへんねん。こっちの手が上がれへんから。で、乗つてるやつに、上げてくれゆうて。帰る時も水につけてもらうと、ダーツと泳いで帰りますねん。おまえ、そんな泳げんのやつたら恩給取り消しや言われとつた。

物理室で、電気当てたり、マッサージして貰うたり。何でも好きなこと習わしてもろうた。花とか園芸とか、体操、書道、謡（節をつけてうたう）やとか。皆、ほんまもんでっせ、教えに来る人がね。大津の病院に将兵が2000人ほどがいたんかな。1回に20人か30人ほどしか習えへんやん。手が悪いもんを優先的に取ってくれよるねん。私ら申し込んだら、何でもさして貰うた。花も習うて、謡も習うて。そやから、つい最近まで謡曲をやつてました。

傷痕軍人学校教員養成所

昭和12年(1937年)に始まった日中戦争以降は、戦線が拡大し、戦死者や戦傷病者(いわゆる傷痕軍人)が増加しました。政府は、軍人援護の強化を図る目的で傷兵保護院(のちに軍事保護院と改称)を設置し、職業補導事業をおこないました。そのひとつとして傷痕軍人の教員養成施設を設置しました。また、戦没者寡婦(戦死した夫の妻)のための教員養成所も設置しました。

昭和14年(1939年)、東京と京都の師範学校に「傷痕軍人学校教員養成所」が開校しました。1年の修業年限とし、小学校教員や中学校教員の養成を目的としていました。その後、各地方の師範学校に設置されました。

傷痕軍人京都小学校教員養成所

昭和14年(1939年)から、京都師範学校に付設された養成所です。近畿を中心に各都道府県庁管内の戦傷病者から入所者を募り、入学考査をへて入所しました。教科は、修身、公民科、教育、国語、算術、歴史、地理、理科、図工、手工、音楽、体操な

どがあり、養成所の入所者は、週に34時間の授業を受けました。傷痕軍人を対象にした教員養成所は、昭和22年(1947年)まで存在しました。

展示では、昭和14年(1939年)に傷痕軍人京都小学校教員養成所に入所したHさんの体験談を紹介しました。

【体験談—Hさんの体験談② やっぱりそれらしい生き方をせないかんあ】

Hさん(東近江市)

Hさんは、昭和13年(1938年)10月の中国大陸での戦闘で上半身を負傷し、右目は失明しました。帰国後、傷痕軍人小学校教員養成所へ入り教員を目指しました。

二度と戦場へ出されることはない。これからどうして生きるのか、やっぱりそれらしい生き方をせないかんあ、という気持ちが当時としてはありました。

県から私のところへみえまして「小学校の教師をせんか」という誘いがあつたんです。いい加減な気持ちで引き受けられんので「しばらく考えさして下さい。」と言うて帰つてもろたんです。

もう来やへんやろと思つたら、一週間ほどしたらまた来やはつたんです。たいへん熱心なお勧めでした。そこまで熱心に言われると、私ももう断わるべがないと。まあ、とどかんけどもやらしてもらおうかという気持ちになりました。

熱心な勧誘もあつてHさんは、京都の師範学校に設立されたばかりの傷痕軍人小学校教員養成所に入り、一年間学びました。

小学校の教科書を勉強すると、もちろん心理学とか管理學とか、算数の教科書というもので教材として取り上げていました。まあ、しこまれました。雰囲気としては、当時は非常に温かくて、師範学校の職員組織が全面的に協力してはるわけだ。

もちろん、みんなそれぞれ身体に難のある人ばかりです。足が悪い、手が悪い。一番不都合らしく見えたのは上膊部(肩とひじの間の部分)を切断した人が1人いました。しかし、その人らでもとび箱とんだりね、掃除になると、窓へ上がつてガラス拭きしたりね。十分、自分らの誠心誠意、やっぱ

り努めてはりました。

教生期間ちゅうのが師範学校にありまして、師範学校の付属小学校で実際クラスをもって、クラスの経営というものをしこまれるわけですな。私らも、一年間でしたけども教生期間ちゅうのがありまして付属へ行って何べんか授業もしました。

当時は、私らはどちらかという時代の花形みたいなもんでね。その養成所に入った時にも、各新聞社から記者の人がカメラ持ってきはりましてね。私が付属で教生のなんやったか忘れましたが授業しとったら、そんなのも新聞社から写真班が来て写真をとってくれてね、あくる日の新聞に出とったこともありますわ。私もよい仕事につくことができたという思いで、非常に充足感に満ちた毎日を暮らしておった記憶があります。



「坊や、お母さんは先生よ 未亡人のための特設教員養成所訪問記」、『写真週報』第84号（昭和14年9月27日、内閣情報部発行）

戦傷病者のほかに、戦争で夫を亡くした妻に対しての職業支援も行われました。



第2章 展示風景

第3章 社会へ



第3章 展示風景

【体験談—Hさんの体験談③ 戦争を抜きにした教育というのは考えられない時代】

Hさん（東近江市）

傷痍軍人小学校教員養成所を修了したHさんは、故郷の八日市小学校の教壇に立ちました。

私が最初に担任したのが2年生。当時の国内の雰囲気ちゅうのは軍事一色ですのでね、とくに八日市は飛行隊があったような関係で、軍事に関する気持ちちゅうのは強かったと思います。たいへんあったかく迎え入れていただいて、私の足りないところは、皆さんで手伝うていただいたのやと思います。

特に八日市の小学校には、私ともう一人の女の先生でね、戦争未亡人の先生がおられたんです。私が傷痍軍人、そして戦争未亡人ということで、軍事援護教育という、そういうその内容で、特別に子供の指導にあたるというね、その小学校が指定を受けたわけです。

特別の指導をせんならんというようなこともありました。私は、そこで月に一遍程度やっと思いましたが、戦争犠牲者の子どもを寄せて、お父さんに恥をかかすようなことのないように、一日の暮し向きにね、しっかりした気持ちで取り組まないかんとねということを特別に指導すると。困ったことがあったら、なんでも相談に来なさいと。場合によっては、お父さん代わりにもなってやろうと、ゆうような思いで、遺児の指導をまかせてもらったわけです。このこともありまして、軍事援護教育ゆうのを実践の発表の機会を県がつくってくれましてね、私は「教壇に再起して」

という題で発表をさしてもろたんですわ。

昭和16年(1941年)、小学校は国民学校へと改称されました。昭和20年(1945年)に入ると、国民学校高等科(13歳、14歳)の子どもたちは、学徒勤労動員といった工場などで働きにいきました。その時、Hさんは工場で働く子どもたちの引率をしていました。

掛具かふたかをやったプレスですわ。1トンぐらいのものがガチャンと落ちてくる。それをね、足踏みで操作する。

私らの仕事はただ子どもに安全に仕事をしてほしいと。そのために、子どものそうした機械に取り組む様子をずっと見て回るのが仕事でした。その事故が起こった直前にも、私その現場へ行ってるんですわ。しばらくそこで、子供が操作をするのを見とったわけですわ。

ほしたら事故が起こったということで、すぐに病院へ運んで手当をしてもらいました。まじめな子でして、少年飛行兵になりたいと念願にしようとして、指を切断されたということで、その少年飛行兵がかなうかなわんのかゆうことが、少年にとっては、非常な関心であったとみえて、そのことを何べんも確かめてました。「心配せんでもええ。大丈夫や。」ゆうておったんです。

しかし、外傷がきっかけで、体調を崩して亡くなったんです。

終戦後

進駐軍によって重度障害者を除き軍人恩給が停止となりました。

ここでは戦地で手足等の機能を失った方々の労苦の体験談を紹介しました。展示資料では、農作業や大工作業に特化した機能的な義手を紹介しました。



【写真】作業用義手(戦前、川村義肢株式会社提供)

戦前、日本の陸軍で開発した陸軍十五年式と呼ばれる義手です。ドイツで開発されたタンネンベルグがもととなっています。戦時中の日本で広く普及し、作業用義手の代名詞となりました。実用的で使い勝手が良かったため、農作業等に利用されることが多かったようです。手先具(掴んだり、ひっかけたりと指の機能をもつ)を交換することで、鎌や鍬、ほうきなど様々な農具を使用することができました。



【写真】前腕作業用義手(戦後、川村義肢株式会社提供)

かなな付きの前腕作業用義手は、実際の利用者の要望に沿って製作または提案した作業用義手と思われます。義手のサイズが小さく、使った形跡もないので、見本品として製作された可能性が高いです。戦後の大工仕事、木工機械による労災などが多発したことが背景にあるようです。現在よりも作業用義手のニーズが高かったと思われます。

【体験談－Iさんの体験談③ なんとかして一人前にならなあかん】

Iさん（草津市）

中国の戦場で右肩を負傷し、兵役免除となったIさんは、故郷へ帰った後リハビリを続けながら、地域の役や消防車の運転を進んで引き受けました。しかし、手術した右肩は十分に動かすことができず、仕事や農作業をするにも時間がかかり、苦労したといえます。

（陸軍病院を）退院する時に、兵役免除になりました。家に帰ってからも、いろいろ陰で言うとなんかを聞いてたけど、そんなもんに負けるか思て。なんとかして養生して、早よ一人前に何もかもできんとあかん思て。

結婚してからでも、この体では長いこと働けるかどうかわからへんし、療養所へ行こう思て、白浜の療養所に申し込んだ。傷痍軍人療養所ゆうのがあります。

帰ってきてみると、若いもんがおらへんしな、在所の役もろうたりして。町会長も、5回も6回もしてますわ。消防車の運転もしてましたし。とにかく、やんちゃで、負けてへんし。昔の消防車はごついもんで、トラックみたいなもんやったしな。それを、13年乗ってました。隣の在所でも、私が一番に行っていました。お前は常勤、役場で待ってるのか言われたぐらいや。守山や草津の火事でも、早い早い。消防車の競技会でも、いつでも一番や。

退院してからは、役場へ行ったり外交員したりしてたけど、片手やし十分な働きがでけへんわな。人が10の働きをしてる時、私は6か7しかでけへん。ほと、収穫でも少ないですわ。かぼちゃを主食にして食べたとかゆうこともありますわ。

【体験談－Tさんの体験談② お前、なかなか手が器用や。それやったらいけるぞ。】

Tさん（大津市）

戦地で負傷し両足が不自由になったTさんは、昭和22年（1947年）故郷の滋賀へ帰ってきました。Tさんは、弟の新築の手伝いをきっかけに、大工の道へと進みました。

田んぼもろても、何にもできません。その当

時はもう戦争に負けたというか、我々は結局憎まれ役やったわけです。「戦争に負けたんは、お前らのせいや」言われて、肩身の狭い思いをしながら。

ほんだら弟がもう歳が来たもんで、家建てて分家させんならんと、山の材木を買ってその材木で家を建てたんです。その時の大工さんが、僕は、足は悪いが手は大丈夫やったさかいに、それなら「わしがここに印するから、ノミで穴開けるぐらいは何とかできるんやないか」と言われて。やってみたら、まあ普通の大工さんの3分の1ぐらいしかできんけども「お前、なかなか手が器用や。それやったらいけるぞ」と言われて、大工の手伝いを始めた。

相当体力も戻ってきたんで、それぐらいでけんことないと。ほんでノコギリを買って、山に入って、自分で。大工さんですから、簡単な小屋をつくって、泊まり込みで木を切り出してたんです。

一番辛かったのは、戦争中よりも戦後2、3年です。食べるもんもないし、家もないし、親父が道具入れに作った小さな小屋があって、そこに住んでたんです。松葉杖をつきながら、辛いなんて、言葉では言いつくせませんでしたね。その2、3年は。

家へ帰ってね、肩の星（陸軍の階級を示す肩章のこと）を見ると、その頃ほどこへ行くにも兵隊がたくさんいました。それが終戦で帰ったら、お前らのせいで日本はこないになったんやと。そらあ、辛かったです。何とか自分で食べていかんならんためには、働かならん。それが、今いう木を切ったり、出したりする仕事に続いて行った。

Tさんは、京都の山に入り木を切る作業を11年続けました。その後、人工股関節を入れる手術を受け、歩けるようになり、親族と事業を立ち上げました。



【写真】竹製義足

(製作・使用の年代不明、川村義肢株式会社提供)

すでにある義足をまねて、一般の方が製作した義足と思われます。内股部分のくりを下げ、懸垂ベルトや滑車を活用するなど義足の製作技術がみられます。そのほかに、籠で編んだソケット（切断部位と義肢が接触する部分）や竹筒を使った棒状の義足がありました。竹は軽くて丈夫で、手に入りやすく、様々な形状に加工できることから、重宝されていました。竹の加工のノウハウが生かされています。戦後しばらくは、農村部で見ることができた義足です。

割を入れて、水はけを良くし、下腿の寸法を抑え、軽量化するとともに、田んぼのぬかるみでも引き抜きやすくなっています。木製の足部を交換式にするなど、随所に工夫がみられます。

さいごに

義肢装具の現場から

今回の展示に協力いただいた川村義肢株式会社の概要と進歩しつづける義肢について紹介します。

川村義肢の創業者である川村一人氏は、明治34年（1901年）に広島県豊田郡高坂村（今の三原市）の川村家の四男として生まれました。小学校高等科を卒業すると、大阪市にあった土井義肢矯正器専門技術所に入所し、義肢の技術を学びました。川村一人氏は、昭和

21年（1946年）に川村義肢製作所を創業しました。

現在は、顧客に合わせた義肢装具の製作、生活に必要な補助器具やリハビリ訓練器具の他に暮らしやすい居住の提案やまちづくりなどと多岐にわたって事業を展開しています。

今回の展示では、戦傷病者が働く際に必要な義肢装具を紹介しました。技術の進歩によって、運動や競技に特化したスポーツ用義肢や競技用の車いすが登場しました。川村義肢でも、スポーツ用義肢や競技用の車いすを製作しています。

令和3年（2021年）の東京パラリンピック、令和6年（2024年）のパリパラリンピックでは、日本の選手が活躍しました。令和7年（2025年）は、滋賀県で国体とともに障スポ（障害者スポーツ大会、10月25日～27日）が開催されます。選手の活躍や義肢の進化に注目したいと思います。



令和6年度地域交流室展示「戦傷病者の社会復帰」展示資料一覧表

展示資料番号	資料名	点数	資料説明	提供者名
1	義足	1	日本義手足製造株式会社	個人
第1章 戦地での負傷				
2	恩賜の義足	1	借用資料 展示期間は令和6年10月9日～12月22日	川村義肢株式会社所蔵
3	鉄脚	1	借用資料 展示期間は令和7年1月8日～2月9日	川村義肢株式会社所蔵
4	義肢装具 左手	1		個人
5	義肢装具 右腕	1		個人
6	御下賜包帯	1		奥村照雄さん
7	御賜の義眼	1		個人
8	軍人傷痕記章	1		個人
9	傷痕軍人手帳	1		個人
10	手首に入っていた砲弾破片	1		竹内正二さん
11	『闘ふ義手』	1	著者：河原魁一郎、昭和16年10月20日、有光社発行	坂下治男さん
12	松葉杖	1		個人
第2章 帰国、リハビリ				
13	『湖寮の友』第48号	1	臨時大津陸軍病院湖寮の友編集部、昭和17年6月	坂下治男さん
14	『湖寮の友』第56号	1	臨時大津陸軍病院湖寮の友編集部、昭和18年2月	坂下治男さん
第3章 社会へ				
15	作業用義手	1	借用資料	川村義肢株式会社所蔵
16	前腕作業用義手	1	借用資料	川村義肢株式会社所蔵
17	竹製義足	1	借用資料 展示期間は令和6年10月9日～12月22日	川村義肢株式会社所蔵
18	冊子「滋賀県傷痕軍人会37回／滋賀県傷痕軍人妻の会第31回記念／合同大会」	1	とき 平成2年7月29日 ところ 近江八幡農業協同組合農協会館	個人
19	冊子「八傷の歩み」（創立30周年記念）	1	八日市市傷痕軍人会、八日市市傷痕軍人妻の会	個人
20	冊子「滋賀県傷痕軍人会38回／滋賀県傷痕軍人妻の会第32回記念／合同大会」	1	とき 平成3年7月6日 ところ 多賀町多賀大社参集殿	個人
21	冊子「滋賀県傷痕軍人会39回／滋賀県傷痕軍人妻の会第33回記念／合同大会」	1	とき 平成4年7月4日 ところ 長浜市長浜市民会館	個人
22	冊子「滋賀県傷痕軍人会40回／滋賀県傷痕軍人妻の会第34回記念／合同大会」	1	とき 平成5年6月26日 ところ 大津市大津市民会館	個人

令和6年度地域交流室展示「戦傷病者の社会復帰」 写真・図表パネル一覧表

章	項	写真・図表タイトル	提供者名	備考
第1章 戦地での負傷		恩賜の義足	川村義肢株式会社	
		鉄脚	川村義肢株式会社	
		「わが鉄腕鉄脚部隊」、『写真週報』第54号	個人	
	映像	義肢で拓いたそれぞれの明日	日本義手足製造株式会社	
	映像	サクシヨンソケットの製作と訓練	兵庫医科大学 道免和久教授	
第2章 帰国、リハビリ		臨時大津陸軍病院内部の様子	坂下治男さん	
		「坊やお母さんは先生よ」、『写真週報』第84号	個人	
第3章 社会へ		前腕作業用義手	川村義肢株式会社	
		作業用義手	川村義肢株式会社	
		「鉄腕に振るハンマー」、『写真週報』第84号	個人	
		竹製の義足	川村義肢株式会社	

令和6年度 滋賀県平和祈念館企画展示等実施報告書

編集・発行：滋賀県平和祈念館

〒527-0157 東近江市下中野町 431 番地

TEL:0749-46-0300／FAX:0749-46-0350

E-mail : heiwa@pref.shiga.lg.jp

印刷：株式会社モリワキ印刷

令和8年(2026年)3月31日

